

(あべこべな)ドルフロ世界の配信者

ほろほろぼんぼん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

気がついたら（あべこべな）ドルフロ世界に転移していた記憶喪失トリッパー配信者な主人公が、殺伐とした日々を送る人形達の毎日へ潤いを与えていく物語。

目 次

長い前日談のプロローグ

第1話 (あべこべな) ドルフロ世界の配信者 ━━ 1

第2話 ねぼすけ危機一髪 ━━ 8

第3話 襲撃者 ━━

第4話 たいづ氣とつやは彼、にべこべあ ━━ 25 16

章間小話 お気に入り100件感謝特番RTA ━━

清楚系ビツチ小悪魔チャートM4?特殊エンドRTA前編【お気に入り100件越え感謝特番】 ━━ 35

清楚系ビツチ小悪魔チャートM4?特殊エンドRTA後編 ━━

52

配信者【410】の始動

第5話 おはよう(ネット)世界!グッモーニンワールd……

66

第6話 はじめてのはいしん ━━

第7話 メタル大好きガールの驚愕 ━━

第8話 環境×ト×反響 ━━

Part9 グリフィン何でも実況板【非実在性】美男美少年を

探すスレ【イケメンどこさ】 ━━

第10話 体は45姉を求める ━━

幕間小話 UA1万回感謝短編 ━━

原案という名の学パロ「目が覚めたら知り合いが美少女に置き換わっていた件について」 ━━

If もしもシドーくんがあの場所で目覚めたら ━━

147 137

123 103

93 81 71

第11話 実況者410、暁に死す

12話 意外な協力者（前編）

13話 意外な協力者（後編）

14話 星5レアの人形は配信者見習いに夢を見るか？

15話 人形（ニンギョウ）Aの献身／人形（ヒトガタ）の道化

師

16話 ドキドキ！姉妹と秘密の夕食!?（秘密ポロリは）ないで
す。

配信3回目【邂逅編】

17話 えつ！本職の人とTPSですか？

18話 一生このまま負けたままで！生きたくないつつ!!お前に勝つ!!!（導入編）

241 前 229

214

204

194 183 172 155

長い前日談のプロローグ

第1話（あべこべな）ドルフロ世界の配信者

「よし、機材のセットも大丈夫なはず。」

使い古された。しかし清潔感のある部屋でパソコンとマイク・その他機材を弄る男が1人。

どうも、俺です。いやー、作業中にはついつい独り言が出ちゃうね。この色々とおかしな世界に来てから2週間。変わった環境にも慣れてきて、やつとここまで辿り着いた。

放送開始まであと1分。初めてだから、いや、何度やつてもこの時間には慣れないという【記憶】がある。兎にも角にも、今にもチキンな心臓が爆発しそうだ。

けど、やるしかない。これしか生きる方法を知らない。自分にはそれが出来るだけ知識と、こなしていたという【記憶】くらいしかないのだから。

「あ、え、い、う、お…よし、今日の声は悪くないな。」

調子は上場、細工は流々、あとは仕上げを御覧じろってね。

さて、パソコンに向き直る。鏡で身支度の最終確認。帽子よし、髪型よし、見た目よし！

身よりもなく記憶もなく金もない、ナイナイづくしのこんな自分にこれだけの物を与えてくれた人に恩を返すために。手に職をつけるために。

そして何よりも、自分が生きてきた【記憶】が本物だと証明するために。

「さあ、始めようか。俺の初配信を。」

気がついたら、そこは廃墟だった。

「は？ 何処だここ？」

いつの間にか廃墟にいた、としか言いようがない。

目に映るのは、朽ち果てたコンクリート、ボロボロになつたビル。ここでかつて戦争がありましたと言われたら、はいそうですかと返しそうになるような土地に立っていた。

もちろんのこと、見覚えはない。

「夢か……？」

頬をつねるが、痛みはあるし、なにより現状は変わらない。

「もしかして、誘拐とか？いやいや、俺を攫うことになんかメリットとかある？」

思い返すが、思い当たることは何もない。そう、何も【思い返せない】

自分の家族も、恋人も、友人も、職も、年齢も、育ちも、生まれも、学校も、母国も、その全てが空っぽだ。

「もしかして俺って、記憶喪失……？」

取り乱してた、めちゃくちゃ取り乱した。ここまで冷静じやくなつたのはいつ以来（記憶はないが）かと言うくらい取り乱した。もし記憶があつたら、幼稚園以来とかそういうレベルで。

落ち着くまで取り乱して、現状が変わらないことが分かつてまた取り乱した。

疲れて、どうしようもなくなつて、寝転ぶと、意識が、視界が、暗くなつていった。

（はは……こんな時でも体は正直なんだなあ……）

これが、こちらの世界で初めての睡眠だつた。

目が覚めると、体の節々が痛かつた。

コンクリートの上で直に寝たらそうなるか。1日寝て冷静になつたから、とりあえず【記憶】にあつたラジオ体操を行うことにする。体が資本だからな。記憶がない今だと特に！

「いつちにー、さんしー、ごーろくしちはち」

相変わらず自分の生活や身の回りの事は思い出せないが、知識はちゃんとあるようだ。おそらく。知識はもし欠けていたとしても分からなかったため、そういう事にしておく。

体を隅々まで伸ばしながら、自分の記憶を精査する。残っているもの、残っていないもの。使えそうなもの、使えそうにないもの。

寝ても醒めても、ボロボロのコンクリートジャングルが変わらないなら、最悪……1人で生きて行かなくてはいけないかも知れないのだ。

少なくとも、周りがこんな状況では、人の生活圏に近づくまでの日を越すための知恵が要るだろう。

「にしても、なんでこんなにボロボロなんだろう。戦争が起こつた後に放置されてるとか? そうだとしてもスラムか何かになつててもおかしくないだろうし、物盗りの1人も居ないのはさすがになあ。」

「核の炎で焼き払われた後か? 或いはトーキョージャングル? 人類補完成功しちやつた?」

「どつかの放射性降下物とかロシアの地下鉄とか汚物は消毒モヒカンヒヤツハーな世界でも良いから、人が居て欲しいな……」

思わず、ぽつぽつ口から言葉が漏れる。心細いのだ。やっぱり。

いや、それにしてもネットスラングばつか出てくるなこの口。不良品かな（すっとぼけ）

「ふう……あ、荷物を確認しないと。」

体も伸ばし終わり、【記憶】の確認も終わつた。

次は荷物を漁る（自分のだらうが）べきだろう。

「なんでこんなにプロテインバーを持つてんだこいつ、というか俺。」

中を確認したところ、プロテインバーが10本に未開封の水の500ミリペットボトル、あとは教科書にノート、筆記用具、財布、スマホにモバイルバッテリーと一般的に持ち歩いてそうなものばかりだ。

あと、【俺】はズボラなところがあつたのか、空の500ミリペットボトルがリュックのサイドポケットに入っている。それと……何か変なノートがひとつ。

「まあ、少しの食料があるのは嬉しいな……ん?」

リュックの全てのポケットをひっくり返しながら探していると、定期入れが出てきた。

この中になら、【俺】の手がかりがあるかも知れない!! 急いで開く

と、大学の生徒証と定期が入っている。

「祠堂 透悟、それが俺の名前なのか」

そこには黒髪黒目の男性の写真が貼られていた。これが恐らく、

【俺】の顔なのだろう。

名前を口にすると、やたらとしつくりくる。うん、多分、そうだ。他にも大学名と誕生日、住所が分かつたが、今が何年か分からぬため自分の歳は分からぬ。

「それでも一步前進だな。透悟。」

あれ、定期入れに何か入つてゐるな……写真？自分（仮）と恋人らしき黒髪の女性のツーショットが入つてゐるが……

「恋人（暫定）さんには悪いが、思い出せないな」

ちょっとしんみりした。次行こ

「次はノートかな。」

ノートを開く。

【俺】はノートに名前こそ書くものの、何のノートかは表紙に書いていなかつたようだ。やつぱりズボラだなあ。

社会学や倫理学について纏められたノートがずらり入つてゐる。が、不真面目だつたのか、落書きや記述の欠落、ミミズがタップダンスを踊つてゐるような文字が各所に見られる。また、最初の二、三ページしか書かれていないものもある。これらは當てにならなそうだ。最悪、マキの代わりにしよう。

「いよいよ、本命だな。」

変なノートに手を伸ばす。この変なノートは、表紙にネタ帳！マル秘と大きくマジックで書かれていて、更に二・三冊のノートがガムテープでひとつなぎにされているのである。

「見るからに怪しいよな……もし読んでも発狂とかしない？」もしかしたらプライズとかアーティファクトかもしれない。ラブでクラフトな御大の世界だったら、ウイルマウンスな財団とかアーカムのマンモス大に逃げ込むしかねえ！助けて、邪神ハンター（^・ω・^）

開いて文字を読んだ瞬間、ガツンと大きな衝撃が走る。頭を殴られ

た？いいや、それだけのショックがあつたのだ、【記憶】が戻つた。

それは家族でも友人でも恋人でもなく、

「俺は、配信者をしていたんだ……」

そう、俺は、配信者をしていたのだ。

人からしたら、バカバカしいことかもしれないけれど、これが【俺】にとつて一番大事だつたんだろう。唯一、俺に関することで思い出せた。数分、そのショックの余韻に浸つていた。

中には俺が配信者になるため毎日欠かさず行つた発声練習、少しづつ集めたネタ、話し方のコツが、大学ノート3冊に渡つて綿密に記されていた。

「これは、大事にしないとな。【俺】の証みたいなものだし。」

このノートを持つと、名前と同じくらいしつくりと来た。やはり、これは【俺】の存在の核なのだろう。

「さて、スマホも見ないとな」

ショックも抜けたため、スマホへ目を移す。

当たり前のようになんか出来た。が、それは想定内。大事なのはそこではない。

スマホは有難いことに指紋認証のようで、パスワードを忘れている自分にも開けることが出来た。

写真を見ると、友達と撮つたらしい写真や男子の秘密のアレやコレがズラつと並んでいる。

が、「ダメか……」

やはり、何も思い出せない。

入つてているアプリは、実況界隈で話題の「pyb g」や「mecr aft」、動画編集アプリ、生放送など配信関係のものが殆どである。

しかし、趣味のアプリがひとつだけ。見つけた、というか、思い出した。

「ドールズフロントライン」、銃と女の子、ハードなストーリーとポストアポカリップスな世界観の「煮」という俺得な内容のアプリである。

ただし、内容は思い出せない。キャラクターはだいたい思い出せる

ため、【俺】はストーリーよりもキャラに思い入れがあつたのだろう。「とはいえ、ログインできないかー。そりやそうだろうな。ここ圏外だし。」

荷物を整え、いざ鎌倉。

とりあえず高いところを探そう。上から見れば人の町が見つかることもしないし。

リュックを背負い、1晩の寝床を後にする。

そのまま街を彷徨うこと1時間弱。やつと屋上に出られるビルを見つけたはいいものの……

「さてはこー。何もないな?」

そうなのだ、何も無いのだ。見渡す限りの廃墟、廃墟、廃墟!!(やばいわよ!!想像してたとはいえ、全人類滅亡ルートかここはもう人類生存区外とかそういう感じだな。マジで死んだかもしれない。)

「いや、まだ諦めるには早いだろ。人類がそう簡単に滅びるもんか。意外とこつそり生き残りがいるもんな。こういうののお約束として。」

誰が約束しているのかは知らないが、希望を持たないよりは持つての方が良いだろう。

とりあえず缶詰とか回収しよう。このビルでもちよつと避難物資が見つかっただし。

そこから丸1日かけて、街を探索した。

その中で、運よく荷台付きのマウンテンバイクとテントセットが見つかったため、有難く頂戴していく。寝袋や非常食、救急医療キットが見つかったのも嬉しい。

だが、最も重要なのは「地図」である。

この地図が書かれたのは2035年らしい。今が何年かは分からぬが、パツと見て地図と今の地形にズレがないということは、何百年と経っていることは無いだろう。

どうやら、この街はロシアの西部に位置しているようだ。字が読めないため名前は分からないが、大体の位置は分かつた。これから10キロほどの間隔で小さい町が並んでおり、125キロほど

先にはかなりでかい町があると書かれている。

目指すなら、この街だろう。幸い、肉食獣の類は見かけていないし、森を避けねばグリズリーなどにも出くわさない……と思う。

この街に何が起こつたかは分からぬが、地図で見るに規模の大きな街なので、こらなら1番生き残りがいる可能性が高いだろう。

「この街を、明日出よう。」

そう決意して埃臭い寝袋に包まれて寝た。

（フートンに包まれてあれ！）

次の日も相変らず体は痛かつたが、寝袋のおかげか昨日よりはよく眠れたと思う。

第2話　ねぼすけ危機一髪

風を切つて走るのはなかなかに気分がいい。

道の横に朽ち果てた家が立ち並んでいなければ、もつと良かつたのだろうが。

自転車で走ること2時間ほど、3つめの町を過ぎ、今は4つめの町に向かっていたのだが本当に人の気配がない。もしかして、俺はこの世界にひとりぼっちなのか？

いや、まだでかい街にたどり着いていない。諦めるには早すぎる。

街に近づいているのだろう。廃墟は道を進むと共にその密度をま

していき、畑と家が半々といつた具合だ。

そんな時、ふと直立二足歩行をする裸の猿のような生き物が目に付いた。気がした。

「人か……？」

それはおそらく我らがホモ・サピエンス。いや、二足歩行で歩いているし、遠くてよく見えないが服を身につけている。

安堵した、安心した！世界には居るのは俺だけではなかつたのだ！

「すいませーん!!」

走りながら声をかけるも、無反応。聞こえてないのだろうか。しぶしぶ、近づいていく。

近くに行つてわかつた、間違いなく人だ！

もう一度、声をかける。

「すいません!!」

その人は、いや、それはぎこちない動きで振り返ってきた。

その腹には大きな穴が空いていて、向こう側の景色が透けて見えた。

それは窓のようで、いやしかし、その窓を縁取るのは腐り果てて久しいように見える、黒黒しい肉で作られた粹だつた。

一瞬思考が止まつたが、危機意識というのは優秀なようで、既に自転車ごと回れ右をして走り出していた。

それは、ああ、なんと言えばいいか。見たのは初めてだが、それに

ついてはよく知っていた。歩く死体。死してなお彷徨うもの。

多分、こういうのだろう、「ゾンビ」と。

後ろから迫つてくる足音が聞こえる。

速い、前世は陸上選手だったのか、よく見てなかつたが実は頭が赤かつたのか。

しかし、自転車に追いつけるほどではなかつたようで、無我夢中で駆け抜けて意識を取り戻した時には既に後ろにいなかつた。

「ハアッ、ハアッ、危なかつた……こつて歩く死とか生物災害的な世界かよ。大穴で凍京とかあるのか？」

とりあえず、近くの民家に隠れることにした。

ゾンビが居たとしても外にいるよりはマシだろうから。一度、体を休めないと。

家中を探し回った結果、鮮血の結末の跡みたいなのはチラチラしていただが、ゾンビや怪しいものはなかつた。

今、目の前には落ちている【モノ】以外には。

それは、布団にくるまれた人くらいの大きさの何かであつた。そして、呼吸でもしているかのように規則的にその塊は上下していたのだ。

「間違いなく、人、だよなあ？」

改めて第1村人発見なわけだが、寝てるわけだし起こすのも申し訳ない。ということで、様子を見出して早1時間が経過した。

さすがに起こしてもいいだろう。記憶喪失だと説明すればこつちの事情もわかつてくれるだろうしな（希望的観測）

「あのー、すみませnツ！」

手を伸ばしたその刹那、俺の体は地面にたたきつけられ、腕を締めあげられていた。

恐ろしく早い関節技、俺じやなきや見逃しちゃうね

「この地域には、もう、誰も住んでない、はず。君は？何者？」

ボサボサとした、けれどふんわりともしている銀髪がサラサラと顔にかかる。

そんなことが気にならないくらい、今の俺は絶体絶命だった。

いやだつて、身のこなしからするに絶対その道の人だらうし。

「俺は祠堂透悟つていいます！名前以外は記憶にないので分かりません！」

とりあえず正直に話してみたが、どうだらうか。というか、なんでロシアなのに日本語を話してきたんだろう。いや、今はそれはどうでもいいか。

「ん、んー…？記憶喪失？それに、声からして男？めんどくさそうだなあ、無視しちゃダメかなー、でも45に怒られそう…416もうるさそうだし…」

通じた、やはり日本語が通じているようだ！

とはいえ何を言つているかはよく聞こえない（難聴系主人公）。

抵抗をする気もないでの、無害なアピールをしてみるか。

「あの、申し訳ないんですけど最寄りの街つて何処ですか？出来れば送つてくれたりしないかなー、なんて。お礼に俺の出来ることなら何でもするんで、お願ひします！」

「ん？今何でもつて（ピロピロ）

あ、416から連絡だ。そろそろ定時連絡の時間だつたかあ…めんどくさー。ちょっと仲間に連絡してみるから、ここで待つてね。」
そう言い残して彼女は部屋から出ていった。

ひとまずは助かつた、のか？

俺に敵意がないことが伝わつたのだろうか……？

いや、どちらかと云うと、俺が弱すぎて警戒するに値しないと思われた感じだろうか。

嘘つ！私の力、弱すぎ？

あんな小さな女の子に一方的に負ける…負け…大人はメスガキなんかに負けないが!?はあ、はあ、敗北者？

ま、実際負けたし女の子に組み付かれてたんだよなあ、初見さん。じゃあ背中に当たつた柔らかいものはもしかしなくとも、おっぱ「戻つたよー」

うおつと！危ない危ない。思考が変な方向に行つてた。ま、俺は大人だから小さい女の子になんか興奮するはずがないんだよね。大人

だから。

「仲間と話したんだけど、君を街へ運んであげるつて。それに伴つて、任務は中止。また何日も張り込み続けなきやいけないとこだつたから、早く帰れて助かるよ。」

「な、なるほど。ありがとうございます。それじゃあ街までお願ひしますね……下世話なことですけど、救助費とかどれくらい掛かりますか？」

「ん、んう。どうなんだろ。まあ払えなくとも、男の子だしそうは酷い事にならないと思うよ。」

それじゃあ私は仲間が来るまで寝てるから……おやすみい。」

「え、ああ。おやすみなさい。」

寝ちゃつたよ。

うーん、暇になつたな。というか、俺への警戒とかはないのかな？弱すぎましたか、そうですか。

……さつきから、一つ気になつていたことがあるんだけさ。この子つてもしかして【G11】じゃない？

性格といい、見た目といい、そつくりなんだけど。いや、今までに何個もの有り得ない現象（トリップ・記憶喪失・ゾンビとの邂逅etc）に会つてきたからそこまで動搖はしないが……

【G11】というのはアサルトライフルの名前でもあるが、同時にドルフロに出てくる【戦術人形】の名前もある。

ドルフロには戦術人形と呼ばれる女の子型の戦闘用アンドロイドが出てくるんだが、彼女達には持つてている銃と同じ名前が付けられているんだな。

だから【G11】を持つている戦術人形の名前も【G11】ってわけだ。

性格はものぐさで面倒くさがりで暇があつたら寝ているが、いざ戦闘となれば他の追随を許さない圧倒的な手数を誇り、非常に頼れる面を持つ昼行灯。

ストーリーでは、存在しないはずの小隊である【404】小隊に属している優秀な人形のひとりだ。

もしここを、有り得ないことだが、ドルフロの世界と仮定すると、さつきのゾンビについても説明ができる。

あれはおそらくE・L・I・Dだろう。

E・L・I・Dとは、コーラップス、またの名を崩壊液と呼ばれる汚染物質によつてゾンビ化した人間や生き物の総称だ。

ドルフロ世界最大の人類の敵であり、主人公たちの何倍もの勢力を誇る正規軍が相手をしなければ、いつ人類が滅んでもおかしくないとされる脅威。

つまり、俺はドルフロ世界に転移していた？

は？ まじか。よりもよつてドルフロだと？

つまり、あれか、もしかしたら生45姉を見れるかも知れない？

ヨシ!!（確認猫）

え、危機的な世界なのにいいのかつて？

元から他の人間に会うことを見を目標にしようつて感じだつたし、危機にあるとはいえ、明確な秩序を持つた人間の集合体が明確に存在するならありよりのあり（トゲアリトゲナシトゲトゲ）

俺はミーハーとして可愛い戦術人形ちゃん達をこの目に収めて生きていく！

好きなように生きて、理不尽に死ぬ。

そんな転移者に僕はなりたい。

しかも、いま救助してくれているのは（おそらく）404小隊！

G11が居るなら割と高確率でそうだろう！となると、404小隊の隊長でもあり、俺がアプリで指輪を送つた2人のうちの1人、45姉に会えるかもしれないのだ！

45姉の魅力については君の目で確かめて欲しいので（ファミ通の回し者）、ドルフロを始めるなりpixivを漁ればいいんじゃないかな。

少し話すなら、ump45という銃を持つた人形の45姉は特殊部隊の隊長に相応しい冷血な人物なのだ。

単に冷血という訳ではなく、生き残るための最善を何処までも尽くすがゆえに凶とかも使うだけなので……

まあ、その割にはスキル使用時のセリフが「虫けらが！」「自惚れないで！」「立つたまま死ね！」などハイテンションなところもちゅき？

(PPTP)

そんな冷血な隊長であり若干トリガーハッピーメ正在する彼女は、俺が指輪を送った相手の1人である。なので、一目でいいから見てみたいと思うのがやはり人情と言つたものだろう。

はあ、空が青いな……。まだ見ぬ45姉に思いを馳せながら、窓に向こうを漂う雲をぼーっと見ることしばらく。

階段を登つてくる足音が聞こえてきた。G11(仮)もこれを聞きつけたのか目を覚まし……たりはしてないな。

敵だつたらおそらく起きてくるだろうし、大丈夫なんだろう。

扉が開かれた向こう側に立つて居たのは、青みがかつた銀髪パツツンストレートの髪を青い十字で留めていて、黒いベレー帽を被り紫の戦闘服に上半身を包みながらも、下半身はニーソで絶対領域を見せつけてくる女の子だった。

この上半身に比べて下半身が貧弱すぎるファツションの子は、404小隊の1人、完璧主義者の【HK416】だ。やつぱりドルフロの世界に来ちまつたらしいな。来ちゃつたことはもうどうにもならないし、ここからどうしていくかだよなあ……

「あなたが救助対象？男がこんな所に1人で居るなんて、何を考えてるのかしら？」

こちらも、言葉が通じた。やはり戦術人形には多種多様な言語がインプットされているんだろうか？

「いやー、お恥ずかしながら覚えてないんですね……あ、自分は祠堂透悟つて言います。」

「ふーん。記憶喪失、ね。どこまで本当か分からなければ。私はHK416よ。もう会わないだろうし、覚えなくていいわ。」

「そんな冷たいこと言つちやダメだよ、416。あ、私はUMP9ね、ようしくう！」

ぴよこりとと、416の後ろから姿を表した明るい茶髪の女の子。

その明るい髪の色は彼女の気質を表しているかのようで、気安い挨

拶と共にこの部屋へ入ってきた。このいつもニコニコあなたの隣に這い寄るサブマシンガンが404小隊のムードメーカー、9である。

いつもニコニコと言うだけあって、戦闘時どころか敵を拷問してい

る時すら笑顔を絶やさないとか。怖つ、近寄らんと…

「あ（陽キャを前にした時の陰キャ特有の鳴き声）、どうも、初めましてUMP9さん。俺は祠堂透悟つていいます。」

「うんうん、よろしくね～。私のことは9でいいよ！」

和やかな挨拶を交わしていた俺たちだが、そんなのんびりした空気は、彼女によつて切り裂かれた。

「G11！今まで寝てるの！」

「あと5分～～。」

「早く起きなさい！」

何か重いものが蹴られるような音が後ろからする。

思わず振り返ると、そこではオカソと娘が睡眠を巡った攻防を繰り広げていた。

「痛いつ、いたた……やめてよ416。暴力反対～。」

「いつまでも寝てるのが悪いんでしょ。」

「ううう……あれ、45は？どうしたの？」

「我らが隊長様はもうヘリポートで回収を待つてゐるわ。対象の回収は私たちにやれとのお達しよ。」

「45！やはり45も居るのか!!最初は死の覚悟もしなきやいけないくらいだつたし、テンションのジエットコースターや～!!早く会いたいもんだ。」

「トーデくん、ちょっと失礼するね？」

9から声をかけられた。振り返る間もなく後ろから抱きつかれる。ふわりと甘い匂いが広がり、一瞬思考が停止。チクッ

え、なにこれめちゃくちや柔らかいし暖かいしいい匂いするしこが天国……？（理性0）

9ちゃん、家族になろうよ（家族提案おじさん（お前も家族だ（ファミパン））

というか、なんかいま、チクッとしたような気がする。

「ごめんね、見られるとまづいものもあるから眠って貰うよ！大丈夫、害はないから！」

害がないなら、いい、かな……。

「あと、抱きついてごめんね。後でセクハラとかで訴えるのもやめてね。どうしても必要なことだったから……。」

むしろ、ありがとうございます！どっちかっていうと役得だったし、セクハラで訴えられるのは俺の方では？

そう伝えようとするも、口が上手く動かない。意識もだんだんと遠のいてきた。視界が黒く染まる中で心に残った思いはただ一つ。ああ……45姉を一目でいいから見てみたかつ、た…………。

第3話 襲撃者

目が覚めたら、知らない天井だつた（シンジくん）
というか、知らない世界だつたんですけどねーー!! 結局45姉には
会えずじまいだしょおー、あんまりだアー!!

なんかよく分からないけど、色んなチューブがたくさん繋がっている
(小並感)

俺はここまで衰弱してたのか？ あるいは気づかないうちに病気に
かかってたり……

そういう、E. L. I. D っぽいのが居たし、あそこつてコーラツ
プス汚染地域かな？

あつ、ふーん（察し）

おいおいおい、死んだわ俺。崩壊液被爆とかしちやつたのかな……
スタート地点からして詰んでるとか無理だろ。俺はやるだけやつ
たよな。もう疲れたよ45ラツシユ……

いや待てよ。普通に感染者だつたら即ぶつころされてないか？
部屋の様子を見るに実験体への扱いにも見えないし。どつちかつ
て言うと、丁重に扱われてる感じだよな。

もしここが実験室のデフォルトならもう分からないけど、ドルフロ
世界はかなり資源カツカツだつた筈だし……

治療されているってことで、いいのだろうか？

とりあえず、ナースコールを押して意識が戻つたことを伝えないと
な。

ボタンを押して少し待つと、ナースさんが入ってきた。グレーの髪
を三つ編みにした、大人しそうな女性だ。

その胸は豊満であつた！ ワッショイ!!

名札には【医療介護用人形「ケイオン】と書かれている。

「い、意識を取り戻したんですか！」

めちゃくちや焦つてんじやん、大丈夫？ 頭冷えてるかー？

「はい。どうも、目が覚めました。ここは……？」

「えつと、あ、こ、ここはS09地域の治療区間になります。」

「なるほど、ありがとうございます。」

やつべ、よりもよつてS09地区!?ストーリーのほんへが展開されるやべーところじやん!!

「チューブを外させていただきますね。失礼します。」

「ああ、お願ひしますね。ケイオンさん」

「……はや、ひやい！任せてください……」

なんか変な空気だ。また俺何かやつちやいました？（最強テンプレチート主人公）

聞かないといけないこともあるし、切り替えてもらわないと。

「あー、そういうえばですね。こんなことをいきなりお伝えして申し訳ないのですが、実は自分、記憶がないようでして……」

「その事については、既に説明されています。

お目覚めになられたようですので、とりあえず保護責任者の方へ連絡させていただきますね。」

「へ、保護責任者……？」

「はい、記憶を失くしてからアリナさんの保護の元で暮らしていたんですね？もしかして、それについても記憶がありませんか？」

「え、ええ。ちょっと混乱しているようでして。」

「入院されていた時は目立った外傷はなかったものの、だいぶ無理をされていましたからね。仕方ありませんよ。私は連絡を入れてきますので、それでは。」

「ありがとうございます。連絡のほどよろしくお願ひしますね、ケイオンさん。」

「は、ひや、ひやいつ！失礼しましゅつ！」

めちゃくちや舌を噛んだ後に、彼女は部屋を出ていった。名前を呼ばれる度にあんなに噛んで大丈夫？口内炎とか。

いや、人形にはそういう病気は多分無いだろう。

まあ、話した感じコーラップスの汚染とかは大丈夫そうな感じかな。

な。

最後の晚餐よろしく、せめて死ぬ前は心安らかに。
とかじやなければ、だけど。

待たされること最近多いな。

というか、保護責任者とは？アリナさんとは？謎は深まるばかりである。

そのまま待つても特に何も無く、うとうとと眠気が襲ってきた。いや、なんか保護責任者の人と話さなきやいけないだろうし、せめてケイオンさんが帰つてくるのを待つべきだろ……JK（not女子高生、Yes柏崎やらない夫）

眠くなるとめちやくちや体が暑くなる体质なので、とりあえず入院着のボタンを開ける。

入院着の下には特に何も着ていなかつたため、ボタンを全て開けると風通しが良くなり、少しづつ意識が鮮明になつてき……しないな。いや、ダメだ。やっぱ眠いわ……

言えたじや、ねえか…止まるんじやねえぞ……

ギシツ!!

暗く微睡む意識の中で、ベッドが軋む音を捉えた。

同時に何かが体に覆いかぶさつてくる。重さと人肌ほどの温かさが、じつとりと絡みついてきた。

たまらず、目を開ける。

すると、目の前には

「ケイオン、さん？どうしました……？」

そう、グレーで三つ編みのおっぱい医療人形、ケイオンさんがのしかかっていたのだ！

すわアンブツシユか!?と思つたが、様子がおかしい。

彼女のビーストめいた目つきは、哀れな犠牲者の首元や心臓ではなく、いいや、心臓というのはある程度当たつているのだが、そう、彼の平坦な胸に向いているのだ！

「ケ、ケイ、オンさん……？」

ハアツ、ハアツという荒い息遣いのみが歸つてくる。やばい、何かよく分からぬが、とにかくやばい！！

「ちょ、ちょっと、何してるんっ!?」

舐められた、女に胸を、舐められた。（575）

「あなたが、あなたが悪いんですよ！あんな無防備な格好して寝てるから！」

ヤバイツスヨ、ヤツバーリ!! ちょっと、煩いわねRD。

事実、それくらいやばい。記憶をなくしてそうそう貞操の危機である。

「ちよつ、ケイオンさん、何してるんすか！まずいですよ！落ち着いて、ほらほらほらほら」

「暴れんなよ……暴れんなよ……」

やつぱりホモじやないか（諦観）

本格的にまずい。ケイオンさんは美人だし、おつきくて柔らかいし（何処とは言わないが）、何日も溜まつてたのもあり、このままじや俺のホースが暴れ馬になつてしまふ！！

そうだ、ナースコール!!

あれを押すことさえ出来れば、異常に気づいたナースさんがやつてきてくれるはずだ！

とりあえず気を逸らさなくては……会話しかないな！唸れ、俺の言いくるめ！靴を舐める！セージ技能!! プロデューサーを舐めるなあ!!!

「ケイオンさん、なんで貴方みたいな美人がこんな乱暴なことをするんですか？貴方ほどの美人なら、男なんて引く手数多じやないですかね？」

「美人？今、私のこと美人つて言つたの？」

「ええ、まあ。」

「そう、それなら、問題ないですよね！和かんですよ、和かん！やつぱり私のことが好きだつたんですね！」

B A D C O M M U N I C A T I O N !!

破滅の未来が見える見える……

これは大失敗ですね、たまげたなあ……

和かんつてなんだろ、わつかんないな（クソうまギヤグ）ガシリと腕を掴まってしまった。

やばい、力がめちゃくちゃ強い！人形ならそうだろうが、まさかここまでの力が出るとは！

痛かつたりや骨が折れそうな気配は不思議とないが、かといって拘束から逃げられそうもない。

ナースコールは押せそうにもない＝魔法使い中退という式が成り立つ。

嫌では全然ないが、やっぱり告白からが良かつたな。

それで付き合つて、手を繋いじやつたりして、デートをして、イルミネーションの前でキスしちゃつたりして、1歩ずつステップアップして行つた先のクリスマスに……

ポロリと涙がでる。

だつて男の子だもん。

ダアン!!

突如、叫音が響きわたつた。

ドラマでしか知らないが、発砲音にも似てゐる氣がする。

思わず目をつぶつてしまい、恐る恐る目を開けると、ケイオンさんがぐつたりとした様子でもたれかかつてきていた。

さつきとは別の意味で様子がおかしい。

「あ、あのー、大丈夫ですか？」

「危ないところでしたね～。もう大丈夫ですよ～。安心してください～。」

やたらとぼやぼやした声が掛けられる。

どうやら、この人が助けてくれたようだ。

「た、助かりました。ありがとうございます。この人形、えっと、ケイオンさんはいつたい？」

「暴走していたみたいなので、強制停止をさせていただきました。ボディに傷はついてないので、そちらも大丈夫ですよ～。」

「そう、ですか。本当にありがとうございます。あのままで、危機的な状況になつていたと思うので。」

「いえいえ、書類上とはいえ貴方の保護責任者なんですから。お気になさらず。」

保護責任者?ということは、この人がアリナさんって人か?

俺が実は2回も記憶を失つてゐる可能性も考えて……

「初めまして。俺は祠堂透悟つていいます。記憶喪失なんですが、以前の俺について知つていてくださいますか?」

「ええ、初めまして。シドーくん。私はアリナ、アリナ・ズロービナです。リナつて呼んでね。貴方のことはよく知らないけど、記憶喪失の事はあの子たちから聞いてるから大丈夫よ。」

そう挨拶をしてくれたのは、黒髪のセミロングのなんというか、若妻!!みたいな雰囲気のおつとりとした女性だった。

「よろしくお願ひします、リナさん。その、あの子たちというの?」「シドーくんを保護してくれた子達よ。あの子たちから聞いたんだけど、記憶がないんですつて?」

となると、404小隊の人達か?

あの人達を子つて呼ぶなんてどれくらいの人物なんだ、知らないで言つてるだけか?知つてて言つてたらかなりやばい人だしな。

「はい、残念ながらそのようで……」

「ううん、困ったわね」

「困つたと言うと?」

「言いづらいことなんだけど、あなたという人間、祠堂透悟つていう人物は存在しないのよ。

戸籍がない、さらに男性となれば、やつぱり犯罪か何かに巻き込まれてたんじやないかって。

もし貴方が何か覚えていれば、それをヒントに元の居場所へ返してあげることもできたかもしれないんだけど……ごめんなさい。

貴方の痕跡は、あのD6汚染地域以外では見つからなかつたの。ほんわかさが消えて急に圧が増したな。びっくりした。真剣に言つてくれてるのは分かるのだが、緩急が出来すぎないか?

それに、俺はこちらの世界に存在しないようだ。

となると、憑依ではなくトリップしてきたことになるな。

「いえいえ、気にしないでください。

むしろ、そこまで調べて下さつていて有難いと言う他ないです。ありがとうございます。」

頭を下げる。

「ちよつと！ そんなに頭を下げないでいいのよ！」

頭を上げてよおく。男性に頭を下げさせるなんて、そんな、ねえ！」
妙だ。男に頭を下させたから何だと言ふんだらうか。

さつきのケイオンさんの様子、気絶する前の9の反応も含めて妙なものを感じる。が、今はそれを探るべき時ではないな。

「ええつと、恥ずかしながら、僕には今頼れる人がですね。

保護責任者になつてくださつたりナさんしかいらつしやらないので、初対面なのに申し訳ないんですけど、相談したい事があるので。」「ええ、なんでも聞いてちよつだい！」

優しい。

「こここの入院費や僕の救助費つてどうなりますか？ 結構な額になつたと思つてるんですけど……」

「そうねえ、入院費はとりあえず男性保証金の方で支払われてるから払わなくて大丈夫よ。救助費の方は、流石に少し負担して貰うことになるけどね。」

男性保証金？なんだその頭の悪そうな単語は。

とはいえ、払わないで済むならそれに越したことはないな。

救助費は少し負担する必要があるのか。

それもどうか。ヘリポートとか言つてたし、相応の金額が掛かつたんだろう。にしても、お金か……

「先ほどの調査結果からすると、僕の戸籍もおそらくないんですね？ そうすると、働き先と住む場所についてはどうしたらいいと思われますか？」

「戸籍と住む場所はもう用意してあるわよ。」

と言つても、私が持つてるアパートなんだけどね。とりあえず救助費の方を払つてもらつて、余裕ができるから家賃を返してもらえば大丈夫よ。」

は？思考が停止した。待遇が余りにも良すぎる。

美味しい話にも程がある。疑つてかかるには十分な内容だ。

「あ、代わりにひとつね。頼みたいことがあるのよ。」

もちろん、強制じやないんだけれどね。」

それもそうだろう。むしろここまで待遇が、身分のない人間に用意されて、可哀想だつたから！で済まされる方が怪しい。

どんな無茶ぶりが来るかな？

「シドーくんにはね、戦術人形の慰安をお願いしたいの！」

「え、い、慰安ですか？」

どういうことだ？てつきり健康な臓器が云々とか言われるのかと思つたが……

「そう、慰安よ。あ、もちろん変な意味はないからね、安心して！」

「あつハイ。具体的にはどういうことをするんでしようか？」

「戦術人形の子達と一緒にご飯を食べたり、テレビを見たり、ゲームをしたり、あの子達が楽しめることならなんでもいいのよ。」

「はあ、なるほど。それが僕が戸籍と家を得るための条件でしようか？」

「条件と言ふと申し訳ないけど、そうなるわね。」

「分かりました。その話、受けましょう。慰安は週に何回、1回何時間くらいすればいいんですか？」

「月に2回、1回につき6時間かしら？」

あれ、思つたよりも少ないか。

けれど、これが住む条件つてことは、これに加えて仕事にも就かなければいけないんだもんな。なかなか忙しくなりそうだ。

「分かりました、ありがとうございます。戸籍と住所の方はよろしくお願ひしますね。」

「ええ、勿論よ。」

あの、ごめんなさいね。脅迫みたいな形になっちゃって……

代わりと言つてはなんだけど、住むところに不自由させるつもりは無いし、他のことも出来るだけ気を使うつもりでいるから。本当にごめんなさい……」

「いえいえ、こちらとしてもお世話になる訳ですし、ギブアンドテイクでいきましょうよ。

といいますか、こちらのほうが助けられてるくらいです。ありがとうございます！

それに、戦術人形っていうのは僕を助けてくれた人達と同じような人達なんですよね？なら、全然大丈夫ですよ！」

って言うか、人形を運営する側って事は404小隊のことを知った上での子達呼びしていた可能性が？こう見えて、かーなーりやばい人では？

「そう言つてくれると、助かるわ！」

私はそうは思わないんだけど、戦術人形の子たちって怖がられやすいじゃない？

本当は、優しくていい子ばかりなのに、やつぱり怖がられたら傷ついてしまうものね！」

「あなたがそういう人じやなくて、私は嬉しいわ。」

頭を上げて笑いかけたりナさんの表情はそれはそれは綺麗で、直前に抱いていた警戒心もなんのその、思わずドキリとしました。

第4話　たいづ氣とつやは彼、にべこべあ

労働条件の話を詳細まで詰め、そんなこんなで戸籍と住処を得た俺は、退院して早速だが新しい住居へと足を運んでいた。

元から若干の衰弱と過度な疲労のために入院させられていただけであり、怪我はなかつたため直ぐに退院出来たのだ。

あ、その体と記憶の検査の過程で衝撃的な事実が分かつたんだよね。

【速報】俺氏、日本語を話してなかつた

これ知つた時は本当にびっくりした。何故かどんな言語で話しかけても自然に脳が日本語に変換してゐるし、話す時はその逆らしい。なんだそのチート。謎すぎるだろ。便利で有難いけど、なんとか俗物的すぎる……すごい助かってはいるんだけどさ。

アパートの位置はリナさんに渡されたスマホ的なタブレット端末の中に住所が登録されているらしく、ここから歩いて30分もすれば着くという。

今はマップを頼りに歩いているところだ。

アパート「ヒポグリフ」

それが彼女が持つてゐるアパートの名前らしい。グリフィンにヒポグリフ。あつ、ふーん（略）

で、ここS09地域の中でもメインストリートというか、中心地に何故かアパートが立つてゐるらしい。

中心地だけあつて大きめのショッピングモールや、色々なお店、カフェやレストランの並んだ都会な風景が広がつてゐる。

一度だけ行つた外国の街並みを彷彿とさせる、レンガやコンクリート造りの街並みだ。

所々に噴水も見かけられる。

戸籍を用意できたり、中心地にアパートを持つてたり、頼み事の内容が戦術人形の慰安だつたりと、リナさんはやつぱり【グリフィン】やそれに連なる組織、例えば【I.O.P】のお偉いさんなのだろうか。グリフィン、正しくはG&K（グリフィン&クルー

ガー）社とは、我らが主人公も所属している民間軍事会社である。

幾つもある民間軍事会社の中でもかなりの大手。その規模といえば、人類の危機のひとつである鉄血工造の対処を軍から委託されたり、街の治安維持や実質的な運営を託されているほどである。

また、I・O・Pはドルフロの目玉の一つでもある戦術人形達（女の子）の生産元で、グリフィンはI・O・Pと戦術人形に関する契約を結んだことでのし上がってきた企業と言つても過言ではない。

ここに重役だつたとしても、かなりの力を持つことだろう。

ということで、ここまで権力を振るえるとなると、リナさんの所属は軍かグリフィン、あるいはI・O・Pなどしか考えられない。

軍の戦術人形は、大手とはいえ所詮は民間軍事会社に過ぎないグリフィンのものとは規格も性能も大きく違う。

そして、ゲームに出てくるのは民間用の人形が殆どなのである。

リナさんに見せてもらつた人形達の写真には見覚えのある民間用人形達も写つていて、彼女はおそらくグリフィンやI・O・Pの人間だと考えられるわけだな。

さて、これから住む街に慣れるためにも、店を幾つか冷やかしながら歩いていた訳だが、ひとつ思つたことがある。

それは

ハーレム野郎しかいねえな!! クソわよ!! ○ネッ!!! お排泄物ですわ
ヽヽヽ!!!!

下品な種馬野郎なんて棒をレバー代わりにガチャガチャレバガチャされた拳句、故障してしまえばいいんですわよ〜〜〜!!! (ゲーミングお嬢様)

まあ、そういうことである。男を全然見かけない上に見かけるのはハーレム野郎ばかりなのだ。それも、人形ではなく美人な人間のハーレムである。

意味がわからん。

俺がメロスだつたら刺し殺してたわ。

というか、道行く女性・道行く女性がみんな美少女、美人ばかりなのだ。これもかなりの謎である。男は……そうでも無いのだが。

明言は避けるが、偏差値で言うならあつちの40がこつちの50みたいな……？ まま、ええわ（思考放棄）

さて、ドルフロ世界は一夫多妻制だったか？

でもそれだつたら、ヘリアントスさんが合コンの度に敗北者にならないはずだし……

困つたら、ベンチに座つてG○○gleで検索。
誰でも知つてるよね。

「ハーレム 許せない」検索つとな。

は？ またもや思考が停止した。この世界に来てから3度目か4度目の出来事であつた。

何故なら、ハーレムに入れないことや、ハーレムに入つている女性を妬む内容の記事や如何だつたでしょうかまとめばかりがヒットしたのだ。

根本的に、思い違いをしている？

「何故 ハーレム 作る」

検索ワードを変えて調べてみる。

すると生物学的な記事やwikiがヒットしてきた。

ふむふむ、なるほど、ほほーん。

ざつくりまとめると、この世界の【ヒト】はホモ・サピエンスでは無いらしい。

ホモ・サピエンスは生存競争に負けて消えていった存在なのか、wikiに載つてすら居なかつた。

では、今生きている人類は何なのか。

彼らと、私ことホモ・サピエンスでは大きく違う点が1つある。

それは、男女比だ。

具体的には、この人類種の男女比は1：4である。

いや、俺の頭が悪くなつた訳ではなく、本当にそういう生き物らしい。

男女比が1：4であり、昔からハーレムを構築して暮らしてきた生き物らしいのだ。

妊娠期間があるメスは多数必要だが、種をまくオスは1匹いれば群れが形成できるという進化を経てきたらしい。

女性は何人も必要とはいえ、より厳しく選ばれる立場にあるために美人や美少女が多く残つたのだろう。

その代わり、オスの遺伝子は発現しにくくなつてゐるらしく、オスの生まれる確率も、近親婚により遺伝子性の障害を起こす確率も低いのだとか。それによつて美男も少ないとかなんとなか。

はえ～

せいめいの しんぴつて すげー!!

つまり、時折見かけるハーレム野郎が自然なのか。

ん？じやあ俺はなんでこちらの【人間】とは違うのに病院の検査とかで引っかかるなかつたんだ……そんなこと、一言も言われなかつたよな……？

戸籍はないのに、体だけはこつちの人間と同じとか有り得るのか？元の世界の体のままこちらへトリップしてしまつたという方が、些か現実的だろう。

これについては色々調べる必要がありそうだ。

加えて、法律とか、考え方の変化についても。

ここまで違う生き物で、男女比も違うことを念頭に置くと、9とか

ケイオンさんの発言の意味も分かつてくる。

恐らく、女から男へのセクハラの方が普通なのだろう。同様に、メンズ・ファーストみたいな考え方も浸透しているんだろうな。

よし、ちょっとスッキリした。

出そうで出なかつたくしゃみが出た時に近い快感を感じ、思わず笑みを浮かべてしまう。

その時、「すみません。お隣、失礼しますね。」

と、シロツップにはちみつを掛けたようなと言えばいいのか。

可愛らしく甘い声の後、隣に1人の女の子、いや、人形が座つてきた。

その胸は豊満であつた。

こちらをニコニコとした顔で見つめてくるこの人形は、【M191
1】

主人公のことを運命の人やダーリンと言つてはばからず、何故か初対面でも再会を喜び、積極的なアプローチをかけてくる子である。

この子を最初にドロツップで仲間にした指揮官も多いのではないだろうか？

パズドラで言うとホノりんみみたいなポジションの子である。

先端の方が丸まつた金髪のショートカットに青い目、アメリカの国旗を模したネクタイを巻いたセーラー服にかなりのナイスバディを詰め込んだアメリカンJKのような見た目をしている。

そんな彼女は自然な流れ（？）で俺の隣へと座つてきたのだつた。「初めてまして、ダーリン！私はm1911って言います！」

めっちゃグイグイくるじやん……というか、そんなにこつちに身を寄せられると、腕に豊かな山がですね。気にしてなさそ娘娘だなこれ。やばいぞこれは、鎮まりたまへ！鎮まりたまへ！

「初めてまして。俺は祠堂透悟です。」

「へー。ダーリンは透悟さんってお名前なんですか。カツコイイお名前ですね！」

あの、中心地とはいえ、男性が1人で居たら危ないですよ？」
やたらと積極的だと思つたら心配してくれたのか……疑つて申

し訳ないな。

「ああ、実はつい最近こちらへ越してきたばかりでして、恥ずかしながら頼れそうな人が居ないんですよ。」

そう言うと、彼女は

「そうなんですか。……そつ、それなら、私が案内しましようか!? これも運命ですよ、運命的な出会いです！ 私もこの街に配属されて長いのでこの街には詳しいですし、道に迷つたりはしないと思います！」

と食いついてきた。

ふむ。彼女は心配してくるだけあって優しい人形なんだろうし、ゲームで考えても素直な子だ。

これもおそらく善意から来てるから、頼んでみてもいいかな。

俺も、人形達と仲良くしたいし。

それに、彼女の印象的なセリフである「運命の出会い」が生で聴けて少し感動したこともある。

「ありがとうございます。せっかくですし、お頼みしても大丈夫でしょうか？」

「えつ、いいの……？ あ、も、もちろん任せてください！ それと、敬語じゃなくていいですよ？」

「そつかそつか、ありがとうね。」

「いえいえ、とんでもないです！ えっと、何処に向かってるんでしょうか？」

「アパート【ヒポグリフ】ってところだね。知ってる？ こら辺みたいなんだけど……」

スマホに地図を表示しそのまま彼女に見せる。お互いの距離が近づき、肩が触れ合うような距離だ。

これくらいは役得の範囲だろう。m1911は顔を真っ赤にして虫の鳴くような声で「し、知らにやいで、す……だいやいの場所は、わ、分かるんですけど……」と返してくれた。

楽しいな、これ。（人間のクズ）

今、口が彼女の耳元近くにあるわけだし、できるだけ囁く感じで

「ありがとうね。」

と声をかけると、ぴえつ！と謎の声を上げて動かなくなってしまった。

何やらブツブツと呟いていたので、耳を近づけてみると……
「メンタルモデルに過大な負荷がかかつたため、一時的にスリープモードに移行しタスクを処理します」

と機械的なことを言っている。

ごめん、ここまで効果観面だとは思っていなかつた。
なので、お詫びとして膝枕することにした（人間のクズ）。

10分ほど待つと、意識を取り戻したようで

「ん、あれ。私は……」

と声をあげた。

だからこそ、俺は素知らぬ顔で

「大丈夫？ m1911。急に動かなくなつたから、心配したんだよ？」

と続けていく。

「えつ、うん。大丈夫ですよ、ダーリン。ありがとうございます。」

というか、この距離はいつたい？なんかやたらと近くないですか
？」

「膝枕だよ。」

「えつ」

「膝枕」

「ダーリンの、愛を、感じます……」

再起動した瞬間にまた過負荷によりスリープモードに入つてしまつた。

一つだけ言わせてくれ、『僕は悪くない』と。

この後めちゃくちや足が痺れた。

そして食料を買うのにもめちゃくちや付き合つてもらつた後、近くまで送つてもらつた。

あ、連絡先も交換しました。とりとり。

そんなこんなでアパート【ヒポグリフ】に無事到着。

二階建てのアパートで、年季を感じるもののが手入れがキチンとされており、清潔感のある外見だ。

これは内側にも期待できそうだな。

とりあえず、大家さんの部屋のチャイムを鳴らす。

1階の階段の最寄り、そこがリナさんの住んでいる部屋らしい。

「はーい、今行きます。」

ん？リナさんじやないな、この声。まあいいか。

扉の先にいたのは、黒髪ショートカットの女の子。

パツと見、14・15くらいだろうか？

リナさんの面影があるが、クールな顔立ちをしている。

細く、華奢な手足。果たして、その胸は平坦であった。

「今日からこちらでお世話になります、祠堂透悟と申します。つまらない物ですが、どうぞ。」

「あ、え、あ、ど、どうも……これはご丁寧に、ありがとうございます、ございます……」

「リナさんの娘さんでしようか？」

「あつ、はい。ここの大家の娘の、エリザ・ズロービナです。」

えええ！ドルフロ世界でエリザ？なんか意味深な名前してますねえ！道理でねえ！（支離滅裂）

まあロシアだと一般的な名前らしいしな、エリザ。そことこには居るのだろう。実際、いま目の前にいるんだし。

「エリザちゃんか、よろしくね。」

「は、はい。よろしくお願ひします。えっと、母さんは今出かけてますので、私がお部屋の方に案内させていただこうかと。」

「ありがとう。よろしく頼むよ。」

案内されるままについて行くと、2階の真ん中に位置する部屋へ通された。

この203号室が、俺の住処になるわけだな。

「それじゃあ、私はこれで。」

「案内ありがとうね。エリザちゃん。ばいばーい」

「はい、ではまた。何かあつたらお呼びくださいね。」

鍵を回し、扉を開ける。突撃、隣の（世界の）初住居！

うん、悪くない。むしろ想定の5倍はいい。

その部屋は、外観と同じく使われてきた年季こそ感じさせるものの、それが良さとして感じられるような、掃除の行き届いた部屋だった。

一通りの家具は既に搬送されている。

リナさんの言っていた配慮に、家具達が含まれると思うと、やっぱりギブに比べてテイクがデカすぎるようを感じる。

リナさんへの挨拶は……もう遅いし、明日の朝に行けばいいか。とりあえず m1911 と一緒に買った材料で夕食を作ることにした。

工場野菜のサラダと合成肉と合成卵と合成油と……

合成物ばかりだが、味はそんなに「悪くない、かな。」

むしろ、結構美味しいまである。

コンビニよりワンランク下程度だろうか？

食料の目利きとか出来ないから、m1911 に、この店で一番いいのを頼む、したからというのも理由にあるかもしれないな。

前世（前の世界的な意味）で食つたディストピア飯の方が 100 倍やべー食事だと思いながら食べつた。

今度は m1911 の料理とか頼めないかな……？ 食材の目利きができるなら、料理 자체の腕もそれなりにあるとおもうのだが。

懸命な読者の皆様は既にお気づきだろうが、彼の買い物に用いられたお金は、もちろんのことリナさんから予め渡されていたものである
!!!

一文どころか記憶も戸籍もない彼が、金を持つていてる筈もない！！リナさんから渡されていた通帳には、1年分くらいの生活費が既に入れられており、まるで恩の宝石箱やあ!!と彼はコメントしていた、

「マジでギブよりテイクの方がデカイな。この恩は一生かけてでも返しきらないと…」

寝る前に、ぽつりと溢れた。

「おやすみなさい。」

章間小話　お気に入り100件感謝特番RTA

清楚系ビッチ小悪魔チャートM4／＼特殊エンドRT
A前編【お気に入り100件越え感謝特番】

はーい、よーいスタート。

恋は銃よりも強し！

んつんゝ名言だなアこれはなRTA、はあ→じ←まあ→るよお→！
今回はちょっと趣旨を変えまして、ドルフロの女の子と色んな意味
でイチャコラあ！

出来る不朽の恋愛……恋愛？ADV「ドルズ・フロム・ラブ一人
形恋線」のあるヒロインの特殊エンドのRTAをしていこうと思
います。

ドルフロRTA流行らせコラ!!

ドルフロ関連のソフトは現2062年で色々と出ていますが、これ
は恋愛メインです、誰がなんと言おうと恋愛メインです

第3勢力になつてG&Kと鉄血の両方を滅ぼすこともでき
ますが、恋愛メインです（天地無双）

ちなみに世界最速だけを狙うならヘリアントスさんへ即告白＼＼が
最速のはずです。

恋の駆け引きとか（要ら）ないです。

スタート地点をS09地区にし所属をG&Kの指揮官に設
定、原作追体験モードにして初対面で告白。

それを怒るため会議室に呼ばれ、入室した瞬間にもつかい告白で
チエックメイトです。

これにてザ・エンドってね。

今から走るのは、M4ちゃんの特殊ルートです。

ちなみに、原作のような硝煙くさい染み付いてむせる世界では有り
ません。

DLCの世界のひとつ、「おいでよあべこベグリフィン学園】に設定
します。

で、この時にキャラクターの同学年設定をONにします。これを忘れないようにしましよう（n敗）

この設定によって、ある程度歳の近いキャラならみんな同学年に変更されます。このチャートのキーですね。

この学園モードは進撃！巨人中学校みたいなものです。（すつとぼけ）

簡単に言うなら、男性が獲物で女性が獣な世界でI.S学園……というか工学部？に入学してしまったホモ君の物語です。

多分淫夢と調べるとお姉様方の絡みが見れるんやろなあ。

ああ～心がピヨンピヨンするじやあ～

ま、ホモくんはノンケなんですが、初見さん。

何故原作バージョンを走らないのかって？この方が早いからです。RTAですからね。タイムに心臓を捧げよ!!

早速ですが、キャラクリから。

名前は入力速達を考慮して g ……としたいところですが、このゲームはA.Iがそれなりに常識人なこともあって、変な名前だとドン引きされたり、好感度が上がりづらかつたりします。

そうしないと入れない／＼もあるのですが、今回は関係ないのでN

G。

名前は入力速度を考慮してホモ……になるように 誉 権（ほまれもみじ）にします。

で、ですね。

実はこのゲーム、ちよこちよこビルトと言つたようにステータスがあります。

体力 気力 筋肉 頭脳

魅力 運

の6つです。

ここにレベルアップなどで貰えるポイントを割り振つて育成するんですが、初期ステがRTAでは大事になることは言うまでもないでしよう。

この清楚系ビツチ小悪魔ビルトでは、気力と魅力のみにポイント！が振られるパターンを狙います。

というか当てます。

長らく初期ステはランダムだと思われていたのですが、学会の解析の結果、名前によつて能力の乱数テーブルが決められている事が分かつたそうです。

どんな能力値にも最低で1ポイント振られ、合計ステータスポイントは30になります。

初期作成でひとつの中身の限界は15です。
なので、ここでは

体力	1
気力	1
筋肉	1
頭脳	1
魅力	15
運	1

のステにします（114514敗）

ま、ポケモンRTAライコウチャートとかサガRTAよりはマシな押しつてそれ一番言われてるから。

それじや、名前を決定するを押しまして、

『名前はこれでいいですか？』

ここから乱数がゲームの中でグルグルし始めます……

狙い撃つぜ！（ロツクオン・ストラトス）

まんじりともせずビルトしろつ！！
ヨシ!!

無事、狙い通りの気力と魅力以外はくそざこほも君誕生です。祝え
!!

幾つかのキャラには✓突入の条件にステを求めてくるのですが、M4ちゃんは大天使なので誰も拒むことを知らないガバ○○です！
外見1でも大丈夫！これは原作主人公の鏡。

あと、416ちゃんとかは低ステータスだと特殊エンドを見れますよ。頑張るタイプのダメンズ好きそうだしね～、彼女（偏見）

それじやあ、始めて行きましよう。

どのルートかは最後までお楽しみに！

ラストのCGが出てきた瞬間にタイマーストップです。

僕は【誉 権】、明日から高校生だ。

だが、布団で寝て目が覚めたら、見覚えのない白い部屋の机に座つていた。（目が覚めたら白い部屋シナリオ並の導入）
ふおつふおつふおつふおつ。

突如、これまた聞き覚えのない声が聞こえる。

瞬きをひとつ挟むと、いつの間にやらいたのか、白いふくよかな髭を持つ、所謂【神様】みたいなお爺さんが目の前のイスへ座つていた。

はい。神の登場です。

この神い！の質問への回答次第で隣の席の女の子が決まります。
ポケモン不思議のダンジョンみたいなものですね。

あとセーブとかロードとかコンティニューも神がしてくれます。
有難いですね。

隣りの席の子とは色々な好感度アップイベントが起るので、変に疑わず好きな子を選びましょう。

スキップ上上上上上上スキップ

はい、これで隣のM4ちゃんトイチャイチャ学園生活が送れるようになりました。

主人公なので全部上で固定されるのもM4チャートの特権。
席替えの度に丸と会話スキップを連打しなくてはいけないのが、注

意点です（3敗）

えつ、なんか話早くない？ワシの出番……

変な夢だった……。

ふと時計を見ると、遅刻ギリギリだ。入学式から遅刻はまずい!! 急いで僕は高校の入学式へと向かっていた。

主人公力が高すぎるプロローグでいつも見てて笑っちゃうんですね。

ハイクオリティなオープニングは、残念ながらスキップだ。

……入学式を終え、席に着く。入る前から分かっていたが、圧倒的な女子率だ。

数少ない男子だけあって、注目されているのが分かる。席は1番廊下側の列、隣の人はまだ来ていないようだ。前後の人は来ているな。

ここは……

- ・前の人と話す
 - ・後ろの人と話す
 - ・隣の人を待つ
 - ・前後の人両方と話す
 - ・高い子が話しかけてきます。
- 実は『隣の人を待つ』を選ぶと、この教室で1番【魅力】のステがモブもいるこのゲームですが、当たり前の権利のように原作キャラや人形の方がモブより高いステを誇るので、原作のガチャの気分を味わいたい人は話しかけて来るのを待つのもあります。

さて、今回の特殊ルートに行くには、多くのキャラからの【好感度】が必要になります。

✓に入るには様々な条件が絡むのですが、✓に入らなくとも好感度は普通に稼げます。

で、所詮人間は顔のため外見が高いほど稼ぎやすくなります。だから魅力に極振りする必要があつたんですね。

ということで、『前後の人両方と話す』を選択。

前は……ヨシ!!モブだ!

好感度が一定まで上がると色々な物が貰えるのもこのゲームの特徴なのですが、モブは大したものをおくれません。

代わりに好感度を稼ぎやすいので、このルートでは積極的に仲良くしていきましょう。M4ちゃんのためにね（人間のクズ）

名前はエリザちゃんか。はえ……何度も出てきそうな名前してんねえ！恥ずかしくないのか？（厚顔無恥）

後ろの子もモブ!!B子ちやんですか。スタッフの雑仕事で生み出されて可哀想……

B子ちゃんはそのあまりに雑な名前と、デートCGの背景に居そうな普遍さから逆にカルト的人気を誇る有名モブです。私はドルフロのキャラが好きなのでよく分かりませんが。

（どうやら、隣の人気がやつてきたようだ。

彼女はパツと見内気そうな少女に見える。艶やかな黒髪をそのまま流し、前髪も眉にかかるくらいで、胸を張つていれば美しい少女なのだろう。

けれど、実際の彼女は俯き気味であり、その内向的な雰囲気に相反する緑のメッシュが独特の風貌を作っていた。）

はい、原作キャラを見た時特有のポエムですね。

これからは時間節約の為に全て飛ばしますが、M4ちゃんのドアツプをジロジロ見れるためここでは飛ばしません。

これを専門用語でガバと言います。

どうしようか……

選択肢が出たらすぐに○！

- ・挨拶をする
- ・挨拶をしない

「あの、俺は誓 梶つて言います。1年間、よろしくね。」

「あ……わ、私はM4A1です……よろしく、お願ひします。」

ああ、M4ちゃんの音お～!!これだけで3日くらい戦えます。
労基違反は……やめようね!

相手の紹介後に、また速攻で○!

このゲームには、一定時間だけしか表示されない会話コマンドもあります。

この初対面会話にもそれが存在し、むつりM4ちゃんなら好感度が結構上がるのでうまいです。

下がる場合もあり、キャラとステによりけりなので気をつけましょう。

あなたは手を差し出した。

目の前の彼女はしばらく躊躇ったあと、おずおずと手を伸ばしていく。

握手をして、相手の目を見つめながらあなたは答えた。
「うん、よろしくね。」

Perfect Communication!!

パーフェクトのPはプロデューサーのPだからね、仕方ないね

(シャニP並の感想)

これは魅力が一定以上ないと大体のキャラには効果ありません。むしろ、魅力が一定以下だとBADになるので注意を!

しかし、M4ちゃんは顔で人間を区別しない天使のため、人類最底辺ブサイクモンスターな1以外なら上昇、1でも現状維持で。さすがM4ちゃん……

でも、M4ちゃんは外見で人を見ない分、内面で人を見るので選択肢により好感度が上下しやすいです。

押し間違いには気をつけましよう（7敗）

……HRが終わつた。誰と帰ろうか。

帰宅はもちろん、M4ちゃんとです。

この辺にいく、美味しいラーメン屋あるんだけど……

「え、わ……私と、ですか？あなたがいいなら……良いです、けど……」

他のキャラならステータス次第では断られる事もあるんですが、M4ちゃんは天使なので以下略

ま、誘いはだいたい魅力が基準なので、この清楚系ビッチ小悪魔ホモくんは悉くを滅ぼすんですけどね。（歴戦王先輩）

あつ、そうだ。委員長は416ちゃんに決まりました。

だいたい彼女かスオミのような眞面目系キャラが委員長になりますね。

後々利用しますが、416が委員長なのはうま味です。やつたぜえ！

これからやるべき事は、ありとあらゆる選択肢でM4ちゃんの好感度を上げていくだけです。

具体的には、【M4ちゃんのイベントを二学期まで全て終わらせます。】

やることは今のとこ大して変わらないので、加速!!

部活や勉強する時間も惜しんで、スタミナの限り外見上げとM4ちゃんとの好感度上げに費やします。

行動や1部選択肢を選ぶには、気力が基準に算出される【スタミナ】を消費します。

だから気力を高くする必要があつたんですね（みんなが愛したメガトン構文）

テスト期間になりました。このホモくんの頭脳はひで以下なので、このままだとテストで死にます。

留年確定は避けたい、避けたくない？

このゲームのテストの成績は、実は頭脳に依存しません。

正確には、頭脳に依存する【勉強の理解度】によつて算出されます。
もちろん頭脳が高い方が勉強の理解度は高まりやすいです。

とはいえ、頭脳がクソザコナメクジでもちゃんと勉強すれば、うん。
OC!!な成績を取る事ができるんですね。

なので、またもやM4ちゃん……

ではなく、悪態をつきながらでもなんだかんだと色々教えてくれる
系の優等生、HK416ちゃんに教えを請います。

HK416は史実的にはM4カービンの改良品、つまり娘にあたる
訳ですが、な、ぜ、かM4系列を嫌つていることは、指揮官の皆さん
ならご存知でしよう。

ネタバレですが、反抗期です。お年頃ですからね416ちゃん。
で、416ちゃんはM4ちゃんを嫌つてているため、M4ちゃんも4
16ちゃんが苦手です。

キャラ同士の相関もあるんですね。このゲーム、深いっ！（沈み
ゆくボーちゃん）

で、M4ちゃんと【仲が悪いので】、416ちゃんに教えてもらいま
す。

416ちゃんは好感度が上がり始めるまでに時間がかかる……と
いうか、2つの条件を満たさないと上がりません。
なので、ここからその準備を始めます。

その条件とは

- ・一定以上の期間、何らかの接触を続ける。
- ・ステータス平均が一定以上、或いは一定以下である。
のふたつです。

上の条件がなかなかの曲者なので、今からゆっくりコトコト煮込みます。

下の条件？外見と気力しかないホモくんの平均ステが高いわけないだろ、いい加減にしろ!!

このゲームは低いステほど成長しやすいからね、殆どのステが1とか有り得ないから仕方ないね。

416ちゃんはテスト期間になると、学校の外の図書館で勉強していることが多いです。

彼女は白鳥タイプ（水面でめちゃくちゃバタ足してる系完璧主義者）なので、同級生に見つかりやすい学校やフードコートなどでは勉強しません。

ということで、市立図書館へ、イクゾー!!でつでつででで、でつでつでででで、えうでつで、あつどうーわどうわどうわ!!（UNDER PANT S）

「げつ、アンタは……」

図書館へ勉強しに行つたら、委員長の416さんを見つけた。

このリアクションはM4ちゃんと仲良くしている事を知つてゐるからですね。

ここで速攻で○を押すと、最初の416ちゃんのリアクションをスルーして話しかけてしまう（好感度ダウン）ので、追走者は気をつけ（N敗）

「や、こんにちは。委員長も勉強中？」

「ええ、そうよ。見て分からぬ？」

委員長は成績がかなり良かつたはずだ。自分はこのままでは成績

が危ういため、教えて貰えないだろうか？

とはいえ、何故かは分からないが（ラブコメ主人公）僕のことが苦手なようだ。

どうしよう？

・恥を忍んで教えてもらう

・迷惑にならないよう自分で頑張る
はい、当然正位置イ!!

「ごめんなさい。厚かましいとは思うんだけど、勉強教えてくれないかな……？」

「え、なに？ 勉強を教えて欲しい？」

私も自分の勉強してるんだけど……

それに、あんたは授業マジメに聞いてるでしょ。私に聞く必要あるの？」

やつぱり416ちゃんは色んな人の事ちゃんと見てるのよね。
授業を起きていられるかは気力依存だが、理解できるかは頭脳なんだよなあ！
全然分かりません！オナシヤス!!

「実は、ノートはちゃんと取ってるんだけど意味があんまり分からないんだ。委員長が僕のこと苦手なのも知ってるんだけど、今頼れるのは委員長しか居なくて……」

何がお前しかいないじゃ！お前にはM4ちゃんがいるやろがい！！
コミュ力も魅力のうちなので、このホモくんは人のことを誑かすのが上手いです。

「私しか……そつ、そうね！私も自分の勉強があるから教えることはそんなに出来ないけど、一緒に勉強するくらいならいいわよ！」

はい勝ち～（鼻ほじ）

416ちゃんは一緒に勉強と言いつつ、主人公のペンが止まる度にアドバイスをしてくれます。聖母かな？これをテストまで毎日繰り返します。

テストの当日、最後の復習に励んでいた。

隣の席のM4と問題を出し合い、知識を確認する。

立板に水をかけるがごとく……とは言い過ぎだが、つつかえながらもなんとか答えることが出来た。勉強の成果は確実に出ているようだ。

ヨシ!!

このテキストが出る時点で、テストなんかには絶対に負けません。

そんな時、416が此方へと近づいてくる。

「勉強中に悪いわね、M4A1？ちょっとこいつ借りるわよ。」

416の方へ振り返る。

「ね。誉。ひとつ言いたいことがあるんだけど。」

なんだろうか？

「私があれだけ教えたんだから、赤点取つたら許さないわ!!」

なんとも彼女らしい激励だ。素直に感謝を示す。

「ふん。……ま、ノートのまとめ方は良かつたわよ。」

彼女が褒めるなんて珍しいな。これは頑張らないと。

去つていく彼女に、【416さん】もテスト頑張つてね。と声をかけた。

手をヒラヒラと振り返す姿を見るに、その背中に言葉は届いたようだ。

M4に詫びを入れ、再び問題を出し合う。

が、M4の調子は悪そうだ。どうしたんだろうか……

どうしたんだろうかじやねー!! 亦モくんは頭脳が低いため、人の心

を理論で察するのは苦手です。つまり鈍感系主人公です。
その割には魅力＝コミュ力が高いため、名前呼びをサラツとします。

そのための清楚系ビツチ小悪魔チャート!!

こんなものでは終わりません。特殊√に行くためには、M4ちゃんにはもつと曇つて貰う必要があるんですね。（暗黒微笑）

同じような日々を夏休みまで過ごすので、倍速!!

期末試験前にはまた416ちゃんとシコシコ勉強に励みましょう。（勉強の成果）ドバーッと、出たぜ。

ということで夏休みです。

今回は416ちゃんに寄生して得た偽りの成績があるため、夏休み補習は回避出来ました。

なので、M4ちゃんの予定を聞き出して、週2～3回の頻度になるように、遊びの予定をガン積みします。

この際、好感度を稼ぎやすい河川敷の花火イベントや神社の祭りイベント、そして何より8月にある季節外れの七タイイベントは絶対に入れるようにしてください。

和服ばつか？いいだろお前成人の日だぞ

（成人の日に和服を着るのは当たり前）

M4ちゃんは育ちがいい箱入り娘なので、祭り系イベントには必ず和服で来ます。

補習や部活／なら学生服で祭り／デートが出来るから、君の目で確かめてくれ!!（ファミ通）

空いている日全てにぶち込むと、常識人なこのゲームのA-Iがドン・ビキッ?ビキッ?してしまうため、やめましょ（無敗）

そしてその後、2週間に1回のペースで416ちゃんの予定をつめ、残った夏休みの日全てにモブとの予定を全部詰めします。

しかし、あまり詰めすぎるとホモくんが「これ以上予定を入れるのは辞めよう……」などと言い出してしまいます。

なので、音を上げるまで予定を詰めます。

入れられる予定の数も気力に依存するため、高気力ホモくんはかなりの数を詰められるんですね。

気力も育成しきるチャートなら毎日友達と遊ぶぼくのなつやすみが出来ますが、非効率なのでやりません。

また、416ちゃんは一定期間関わり続けないと好感度が上がらないので、こまめにケアする必要があります。

そして夏休みイベントは、倍速!!

可愛らしいM4ちゃん和服差分CGや、涼しげお嬢様ファッショーンな416ちゃんとのアイス食べさせ合いっこ間接キツスは勿論スキップだ。悲しいけど、これってRTAなのよね……（ショッギヨムツジヨ）

余つた日にちを何に使うかと言うと、人体実験です。対象はホモくん。

これをする為に、I.O.P研究所壁抜け走法というみんながご存知のあれを使います。

知らない人へ説明しますと、本来は手順を踏まないと入れないI.O.P研究所へ壁抜けをして強引に入り込む裏技です。

I.O.P研究所は、本来は終盤（3年二学期）に解禁される施設の為、1日消費で任意のステータス1あげると言う無法がまかり通っています。

ステータスが上がるかは確率で、高いステータスほど上がる確率は低いのですが、3年二学期が前提のため、今程度のステータスなら確実に上げることが出来ます。

あげるのは勿論、魅力です。

この方法なら入場料を踏み倒すことも出来るため、この施設が解禁されたあとでも使う人がいっぱい居ます。このゲームなら鉄板の方法ですね。

ドラクエの鍊金釜稼ぎとか、マイクラのアイテム増殖バグみたいなものです。

やり方としては、座るのアクションをさせてからメニュー開くだけ！

これで少しだけ動きます。

この動きはあらゆる判定を無視できるため、I・O・P研究所に近づき、上記の方法を行うだけで壁抜けできます。

「こいつが今度の実験体か？」

俺が、俺たちが、レイブンだ！！

はい。それじゃあ二学期も、張り切つていきましょー！

一学期と同じ手順なので、加速!! 体育祭？ 学園祭？ ロスなので当然スキップします。

M4ちゃんの必要な好感度はもう足りてるはずなので。

なんでとうそくにもどすひつよう
があるんですか？

学園祭を楽しみ、片付けに勤しむあなたの元へ、M4A1がやつてきた。

「あ、あの…槻、くん…」

「どうしたの？」

「じ、実は、明日、から…海外へ留学に…行くことになります…」

「へえ！ 涙いじやん！ いつまで行つてくるの？」

「来年の、春までです。」

「そつか。……寂しくなるな。」

「え…………そう思つて、くれるんですか？」

「もちろん！ だつて、友達でしょ？ 僕たち」

と、とも……だち？ この距離間で？ いい加減してくれよ……（絶

「あの、それで……聞いて欲しいことがあるんです。」

そう言つて、彼女は何かを決意するように、オリーブの目を一旦、閉じた。

そして。

「あなたのことが好きです。付き合つて、ください……!!」

そ、そだつたのか……!! その気持ちはもちろん嬉しいが、自分は彼女のことが……

・好きだ

・好きじゃない

こんなん聞くまでもないですよね。そだつたのかじゃねえだろ
こいつつ！こいつつ！

ここでの押し間違いはやめろオ！やめろ!!（2敗）

「ごめんね……」

「あ、で、ですよね……」

「君に、先に言わせちゃつて……

僕も、M4A1のことが、好きです。」

「え、そ、それって！」

泣きそうな彼女を、強く抱擁する。

言い方が悪く勘違いさせてしまったようだが、僕も、彼女が好きなのだ。

この思いが伝わるよう、強く、強く抱きしめる。

暖かい。嬉しい。

彼女も、僕のことをそう思つてくれたら、いや、そう思つてくれる
ように力を込めた。

「い、いたい……です。」

「ごめん！つい、嬉しくなっちゃつて。」

「私も、嬉しい、です……。あつちに行つても、出来るだけ連絡します
から……」

もう一度抱擁を交わして、僕らは別れた。

ああ、～いいCGなんじや、～

はい、タイマーストップ！

記録は……と、言えれば良かつたのですが、御生憎様！

これは清楚系ビッチ小悪魔チャート。本番はここからです。

これからホモくんには、女の子相手に好感度を稼いで稼いで稼ぎまくつて貰います。（ノンケのクズ）

今回はここまでです。ご視聴、ありがとうございました。

清楚系ビッチ小悪魔チャートM4?✓?特殊エンド RTA後編

ここからホモくんには、色々な女の子相手に好感度を稼いで稼いで稼ぎまくつて貰います。

なんでかつて？それがより良い未来のためだからです。

具体的には、恋人になれる好感度までのキャラクターを量産する勢いで稼ぎます。

この時に狙うのは、M4ちゃんなんらかの相関を持つキャラクタです。

例えば、M4ちゃんがめちゃくちゃ嫌いな416ちゃんとか、姉妹であるAR小隊の子達ですね。

ですが、それだけではありません。

例えモブキャラであろうと、学校生活を送っているうちにM4ちゃんの交友は少しずつですが広がっていきます。

これがIDWとか9ちゃんみたいなコミュ強だつたらめちゃくちゃ広い相関図を描くのですが、M4ちゃんは内向的なのでそんなこともあります。

というわけで、チャットとメニューを開いて、M4の欄から周りの交友関係をチェック！

今メモしてるんで一旦止めますね。

ここ短縮ポイントです。

さて、まずはスターちゃん（コルトAR-15）を落としにいきます。

理由？彼女を落とすのは時間がかかるからです。

M16は姉妹の恋人には積極的に関わってこよう（友情的な意味

で)としますし、SOPちゃんはこつちから仲良くしに行けば仲良くなれます。

ですが、スターちゃんは姉妹の恋人だという点を変に意識してしま、「分岐は全然狙っていないのにも関わらずチラチラ見てただろ……など因縁をつけ、仲良くするのに時間がかかってしまいます。また、時間を掛けすぎるとスターちゃん「にもなりかねず、チャートが崩壊してしまうため、スターちゃんの相手が1番このチャートで難所になります。

というわけで、気合いを入れて、イクゾー!!

スターちゃんにアプローチをするため、都市に向かいます。

スターちゃんは原作でCMのモデルをしていたように、このゲームでも読モをしているナウなヤングにバカウケ美少女です。

実際可愛いからね、仕方ないね。

ま、このスーパー無敵ホモくんの魅力の方が上なんですが。（王者の風格）

というわけで、こちら辺で1番栄えている街までやつてきました。ホモくんは、これからあてのない旅路に旅立つて貰いましょう。

1日目……疲れた。今日はもう帰ろう。

うーん、まあ運と魅力依存だからね。仕方ないね。

2日目……疲れた。今日はもう帰ろう。

ま、仕方ないね。ボンバイエ

3日目……疲れた。今日はもう帰ろう。

あああ？

・・・6日目……疲れた。今日はもう帰ろう。

あああああああもうやだあああああ!!!!

ここまでクズ運もなかなか無いんですけどねえ!いつもは2日

目、遅くとも3日じゃないの……

まあ、本走で破壊神に不意を打たれた神よりはマシか（ラグナロク）

7日目

……都市をブラブラ歩いていると、なんと、モデルにスカウトされた！

・受ける

・受けない

ヨシ!! 手こずらせやがって……

はい。スターちゃんと仲良くなる簡単な方法ですが。

それは……俺自身がモデルになることだ。

そういうことです。

同じ職場なら話くらいするよな。するする。

はい、ということで……一緒に働いて、アドバイス貰つて、お礼として食べに行つて、水着姿でドキツとさせて（世界観的にホモくんの方がドキツとさせる方）、撮影後に海でキヤツキヤウフフしながらスター先輩！と呼んでもらえばノックアウト。

はい勝ち！。

最強の敵はもう倒したので、あとは消化試合です。

SOPちゃんと同じ部活に入つて、試合して、真剣勝負→おもしれー男（ナイズゲーム的な意味で）認定されて、一緒に部活用品を買ひに行つて、動物園の触れ合いコーナーで遊んだ後、SOPちゃんのほっぺに着いた牧場のアイスクリームを指で取つてから美味しいただき、ファニッシュ!!

じやあ最後はM16姉さんを落としましようね。

M4のことを知りたいって言えば会話の切つ掛けになるのでそこからM4トークをしましよう。

帰つてくるM4のためのプレゼントと一緒に買いに行きます。

ついでにM16へのプレゼントもこつそり買って、イルミネーション

ンを見ながらプレゼント!!

はい俺の勝ち!。どうして負けたのか、明日までに考えといてくださいよ。

前から仲良くしていたため、416ちゃんは一緒に遊んだりまた勉強を教えてもらつたりすれば大丈夫です。

そうして原作キャラを落としたら、数少ないM4ちゃんの友達（モブ）も、M4ちゃんの様子を教え合うつて名目で接点を持てば、好感度が原作キャラより緩いモブのことなので、即落ち二コマです。

実際、ここまで魅力を磨いていれば半日で落とすことが可能ですが。お試しあれ。

日 nichig 少し余るので、落とした人数が15人を越えないようにモブを落とします。

それでも余るので、落ちない程度にモブにちよつかいを出します。この人数は何人でも大丈夫です。稼げれば稼げるだけ安定します。どうせ2年が始まるまでは加速要素はないので、安定を取りましょう。

春休みが終わり、始業式の日。

また、いつも席替えの前に見る夢を見た。

どうもく神です。どうせまた上連打なんでしょう？知つてるよ？

同じキーを一定期間（1年）以上入力すると、神様は学習して入力の提案をしてくれます。

が、断腸の思いでここは『いいえ』を選択！

スキップ上下下上下スキップ!!

この期間が3ヶ月とかなら今回のRTAでも活用出来たのに……

さて、M4ちゃんと再開です。

M4ちゃんは始業式の日、最速のムーブ（朝4時起き）しても、校

門の前で待っています。

なんて献身的なんだあ（すつとぼけ）

学校にも関わらず、お互い幸せそうな顔で泣きながら思わず抱きしめちゃつた系CGいいぞ～、コレ！

今からこの幸せそうな女の子の顔が悲しみに染まるんやなって。楽しみ～（サイコパス）

そして、ドツキドツキで、ワツクワツク（MNKM）のクラス発表!!

実はクラス30人のうち、15人は好感度が高いキャラからランダム。残り14人は完全ランダムです。

この1年で好感度を沢山稼いだキャラは15人に満たないため、AR小隊+4 16ちゃん+M4と仲のいいモブを、同クラにかき集めることができるんですね。

なんか見覚えがあるやつばっかり～

（……友達とは、みんな同じクラスになれたようだ。あまり交友が広い方ではないといえ、運が良い。

何よりも、彼女であるM4が居るのが1番嬉しいことなのだが。隣にいる彼女の方へ目を向けると、その視線に気づいたのか微笑みを送ってくれた。可愛い。

その左手には、M16と選んだプレゼントの時計が光っている。）わかる。可愛い。だが、お前の幸せは今日までだ！！

（席順を見ると、僕の席はまたM4の隣……ではなかつた。）

調整、ヨシ!!

（去年はずつと隣だつたが、あれは運が良かつたのだろう。同じクラスなだけ運が良かつたと思うしかない。）

違うクラスなら良かつたのにな～！同じクラスなのが裏目に出てるじやあい！

（今回の席は、中央の窓よりといったところか。

前後左右の席は、全て空いている。

「おや、どうやら前の席にはスター先輩が着くようだ。」

「あ、スター先輩！どうも！」

「学校でその呼び方はやめて！」

（怒られてしまつた。顔が赤い。かなり怒つてゐるのだろうか……。）

地獄の釜が開かれた。このルートの醍醐味はここからだア（恍惚）。主人公の頭脳が高いと何かを察してしまつたり、恋人へ細かく気を使つことがあります。チャートが崩壊してしまいます。

だからホモくんは頭脳1である必要があるんですね。

と、右の席にはM16が着いた。

「おいおい、見た顔ばつかが揃つてるじゃないか！新学年なのに新しさがないな！」

肩を叩かれる。

「はは……おはよう、M16。」

そういえば、M4へのプレゼント喜んでくれたよ。一緒に買いに行つてくれてありがとう。」

恋人に聞こえる距離で恋人へのプレゼントを恋人の姉妹と買いに行つたことを公言する人間のクズの鑑。

ホモくんは悪い子じやないの！ただ、何も考えてないだけで……

（頭脳1）

後ろの席に誰か着いたようだ。

確認しようと振り返つたら、ほつぺに指が刺さつた。地味に痛い。

「そ、そつぶもつど??」

「えつへへへ、久しぶりだね。樺！春休みは遊べなかつた分、部活ではいっぱい相手をして貰うからね～!!」

はー、痛いですよこれは痛い。このイチヤイチヤは灰色の青春を過ごしたうP主にはとても痛がつたぞおおおお!!（フリーザ様）

が、近くで恋人と姉妹がこんなんしてゐのを見せつけられてしまつたM4ちゃんほどではないでしよう。

私のみならずM4ちゃんまで傷つけるなんて、絶対許さねえ、ドンサウザンド!!

さて、最後の左の席には……はい来たー!!

「げつ、何よ。この地獄みたいな席は……」

嫌々やつてきたのは416ちゃん。

そう、今日の席替えコマンドは、好感度の高いキャラがインペリアル・クロスを形成してくれるものです。

真ん中には私が立つ!!

そして八方には、それには及ばないが好感度の高いキャラが置かれます。

「げつ、とはなんだ。げつ、とは。そんなに私の近くは嫌か〜?」

「当たり前じやない、M16……」

前の席が貴方なら多少はまし、か。(ボソツ)

そういうば、前に行つたクレープ屋だけど、新しい味を期間限定で出したらしいわよ。今度の週末に行かない?」

火に油を注ぐ416。このやり取りが全部恋人に聞こえる距離で行われてるってマジ?

416は好感度的に狙つてやつてるかもですが、ホモくんはマジで分かつていません(頭脳1)

八方には特に好感度を上げたモブたち、好感度MAXが複数いたら落とした順に配置されます。つまり、M4ちゃんのお友達のモブですね。

……さて、この配置。実はからくりがあつて、友人は好感度で、恋人には愛情度で仲良しかどうか判定しています。

M4ちゃんとは恋人ではあるものの、ずっと遠くにいたために愛情度は恋人の初期値である50です。

しかし、周りにいる子達は好感度がMAXの100!!つまり、あのコマンドを入力することでM4ちゃんから遠ざかりつつ修羅場の火種を引き寄せることが出来るんですね。

(H.R.が終わった……今日は誰と帰ろうか?)

「ここはもちろん恋人のM4ちゃん!」

ではなく、みんなで帰るを選択します。メンバーはインペリアルクロス+M4ちゃんです。

帰り道の会話では、出来るだけM4ちゃんから遠ざかるような会話を選びましょう。

今回は416と積極的に話す感じですね。

はい、家に帰つきました。

家のコマンドは・部屋でゴロゴロする。です。
部屋でゴロゴロする。

は、本来気力回復のコマンドなのですが、一日の間で決まった時にしか受け取れない連絡を受け取れるようになる効果(仕様かバグかは不明)があることが、有識者により突き止められています。

……部屋でゴロゴロしていると、M4から電話が掛かってきた。

「もしもし?どうしたの?」

「ねえ、今から会えませんか?」

「んー、何処で?」

「研究所跡地でもいいですか?」

「研究所跡地か。」

いくら彼女からの呼び出しあとはいえ、どこか様子がおかしい気がする。

どうする……?

・向かう

・向かわない

○を連打、連打、連打!!最速を狙います。

研究所跡地とは、スキップした夏休みに発生するM4のイベントのひとつです。

ここで彼女の出生の秘密と、彼女の夢について語られる感動シーンが繰り広げられる彼女にとつて思い出の土地なのですが……

R T Aなのでスキップしました。もし再走の投稿をする時があれば、右枠で流そうと思います。

(彼女のことが心配だ。今すぐ向かおう!)

研究所の跡地に着いた。M4は居ない……

ピロリン！連絡が入った。

『研究所の中に来て』

中で待っているのだろうか。春とはいえ、まだ肌寒い季節だ。外よりは暖かいだろう中で待っていてもおかしくはない。

いや、おかしいだろ。頭脳1のテキスト、面白くて好きなんですよね。

さて、そろそろクライマックスなので、私はもう黙りますね。

何処と無く、不気味な雰囲気のする研究所跡地を見上げる。

暗い夜の帳に覆われ、入口はまるでぱつかりと開いた化け物の口のようだ。

だが、行こう。この中で、彼女は1人待っているのだろうから。

カツン…カツン…歩く度に足音がコンクリートに反響する。

少し肌寒い廊下を進み、かつて彼女と話し合った場所。すなわち、幼い頃彼女が過ごしていたという部屋に入る。

扉を押すと、部屋の中には1人の女性。

あの長く、美しい黒髪を見間違えるはずもない。

僕の彼女である【M4A1】だ。

ボロボロの天井から投げかけられた月明かりに照らされる彼女は、こんなにも美しい。

「M 4。どうしたの？こんな時間に呼び出して。」

「ねえ、私の事、好きですか？」

「当たり前じやないか。君ことが、その、好きだから、付き合つてるんだし……」

「そうですか。なら、私が居ない間は楽しかったですか？」

「んく……寂しかったよ。でも、M 4と連絡は出来ていたし、友達も出てたから。

あんまり言いたくはないけど、楽しかった、かな。」

「そうですか……。私は、ずっと苦しかった、です。

最初の頃は、寂しかったんですけど……あなたと連絡ができるて、声が聞けて、それだけでよかつた。

でも、次第に、友達も、姉妹も、みんなみんなみんなみな！あなたの話をするようになつて！あなたの彼女は私だけなのに！私が、あなたの一、恋人なのに！」

「落ち着いて、M 4。僕が君以外を思つたことは一度もないよ。」

「知つてるんですよ、私。コルトA R—15と海で遊んだことも、M 16とイルミネーションを見にいったことも、SOPMODと動物園に行つたことも!!全部！全部!!知つてるんです!!

今日もそうです!!みんなと話してばかりで、私の方を見てもくれなくて、ずっと4 1 6と話してて……

ねえ、なんで、こんなに酷いことをするんですか!?なんで私じやダメなんですか!!」

泣きながら、ちらへ怒りをぶつける彼女は、それでも女神のように美しかつた。

「ダメなんかじゃないよ。君が、君だから……いや、君だけがいいんだ。M 4 A 1。心配させて、ごめんね。」

最初の時のように、彼女を強く抱きしめる。

「ごめんね。僕はバカだからさ、君の気持ちが分かつてなかつたんだ。
不安にさせてごめんね。心配させてごめんね。そこまで言わせて、本当にごめんね。」

抱きしめる。強く。強く。

落ち着かせるように、彼女の背中を擦りながら、それでもなお強く、

抱きしめる。

「僕はバカだから、君の不安をどうやつたら取り除けるか分からないんだ。

でも、ずっと君の隣にいたいから、居させて欲しいから。どうしたら不安にならないか、教えてもらえないかな？」

「な、なんで……そんな優しいこと、言うんですけど……私は、あなたが人と仲良くしてるだけで、疑つて、妬んで、怒つて……なのに、なんで、そんな……」

「君のことが好きだ。M4A1。だから、君の隣に居たいんだ。

理由なんて、それだけだよ。」

「私……なんかで、いいんですか？」

「君じやなきやダメなんだ。M4A1。」

「また、同じようなこと、すると…思いますよ……」

「そこも含めての君だから、大丈夫だよ。」

「本当に、私で、いいんですか？」

「何度も言うよ。僕は君じやなきやダメなんだ。M4A1。愛して
るよ。ずっと傍にいて欲しい。」

「は、は…いつ！」

……、これで…捨てるなんて、したら、絶対嫌、です…からね。」「
そんなことはしないよ。そうだ！こうしたら、その不安は無くなる
んじゃないかな？」

日のよく当たる教会。そこでは、今日も1組の夫婦が愛を誓い、祝福を受けようとしていた。

誉 樺さん。あなたは今、M4A1さんを妻とし、神の導きによつて夫婦になろうとしています。

汝、健やかなるときも、病めるときも、喜びのときも、悲しみのときも、富めるときも、貧しいときも

これを愛し、敬い、慰め遣え、共に助け合い、その命ある限り真心を尽くすことを誓いますか？

はい、誓います。

しかし、一風変わつた点が1つ。それは、この結婚式に並んでいる参列者の服装である。礼服やスーツで参加するのが当然のマナーなのだが、1番多く見られるのは【学生服】なのだ。

しかし、神父は気にした様子もなく誓いの言葉を続けていく。

M4A1さん。あなたは今、誉 樺さんを夫とし、神の導きによつて夫婦になろうとしています。

汝、健やかなるときも、病めるときも、喜びのときも、悲しみのときも、富めるときも、貧しいときも

これを愛し、敬い、慰め遣え、共に助け合い、その命ある限り真心を尽くすことを誓いますか？

はい、誓います。

それでは、誓いの接吻を。

新郎が新婦に近づいていき、顔にかかつた布地を捲る。

「これで、不安じやなくなるかな?」

「す、すみません…まだ、ちょっと、怖くて……」

「そつか。じゃあ、この誓いが本当だつてこと、これからはずつと証明しないとね。」

2人の距離がゼロになつた瞬間、2人を祝福するようにバラの花びらと拍手の雨が降り注いだ……

ウェディングドレスで満面の笑みのM4ちゃんのCGカワイイヤツター!!

はい、ここでタイマーストップ!!

記録は……多分だいたい1万5000文字でした。正確に測つてないので、参考記録とさせていただきますう……

が、私以外に走者が居ないため、実質私が世界一位です（手のひら返し）

これがM4ちゃん／＼学生結婚エンド、清楚系ビッチ小悪魔チャートです。

本来このゲームで結婚エンドを迎えるには、AIがやたらと常識的なので卒業を迎えるにあたり、あるいは就職まで見据えなくてはならないのです。

が、M4ちゃんのAIはそこら辺緩いので、恋人になつたあとストレスをかけまくればなし崩しに結婚できます。

これがM4ちゃんの特殊エンドのひとつ、学生結婚エンドですね。

完走した感想ですが、やっぱりM4ちゃんは可愛いですね！
はやくMODなM4ちゃんがヒロインのゲーム出ないかなあ……
ま、もし出ても走者の財布事情的に走れないんですけどね！（未だに筆者がストーリーを進めていなかったため。）

清楚系ビッチと化したのは、M4ちゃんにめちゃくちゃなストレスをかけるためです。

よりもよつてM4ちゃんの姉妹だつたり、友達だつたり、苦手な相手の好感度を稼ぐのは、この「」に入るために必要な好感度を少なく出来るためですね。

普通に考えて、恋人が姉妹や友達や自分の苦手なやつとイチャコラ始めたらおいゴラア！ってなると思うんですね。（名推理）

可哀想なのは抜けないが、可愛い子が泣いてるのは好きです（走者
特有の性癖暴露）

後書きはここまでにして。ほんじゃ、まつたの〜〜う!!
やつ!!（ウルトラマン）

配信者【410】の始動

第5話 おはよう（ネット）世界!!グツモーニンワールd……

こちらの世界にやつてきて、早2週間。

段々と生活にも慣れ、とうとう欲しかったものを揃えることが出来たのだ（リナさん資金により）。

リナさん様々ではあるが、こちらの事情（戸籍なし、記憶なし）を省みて、今月分の労働は免除されたのであつた。

本当にリナさんは頭が上がらないな……

というわけで、せめて家賃だけは早く収めたいと、収入を得るために動き出すことにしたのだ。

その方法は俺のことを知っている人ならば言わずとも分かるだろう。

そう、配信である。

俺には友人どころか家族や恋人の記憶すらない。けれど、配信者だつたことだけは脳の記憶の奥底にこびり付いているような人間なのだ。

こちらの世界にも動画配信サービスとそこに広告収入が結びつくシステム、ライブに投げ銭などはあるようで安心した。

というわけで、配信者になるべく様々な物を買い漁つたのである。リナさんには本当に感謝しかないですね……

そしてとうとう、パソコン・マイク・カメラといった実況三種の神器のほか、ヘッドホン・顔を明るく見せるためのライト・化粧のコスメなどを揃えることが出来たのだ。

最後に、トレードマークとして自作した【帽子】を被つた。

この紺色のキャップには、白い布地で大きく【410】と書かれている。

これが俺の配信者としての名前。

祠堂だからシドー＝410というのもあるが、実は、404小隊にあやかっているのである。

こんなことを聞かれたら、45姉に「自惚れないで！」とか「虫けらが！」とか言って頂けそうだが、恥ずかしながらそうだ。

404小隊の404という数字は、ネットのエラーコードに由来している。

昔のサイトを検索とかリンクから開こうとした時に、

404 NOT FOUNDと出たことは無いだろうか？

あれがエラーコードであり、404はそのページが見つからなかつたことを示しているのだ。

故に、404小隊は見つからない小隊。存在はしていても、見つからない。そんな幽霊のような存在なのである。

では、410が何か？

410 のエラーコードの意味は、GONE。

即ち、そのページは既に存在していないという事を示している。

これは、前の世界にもう存在しない【俺】と、記憶が存在してない俺にピッタリではないだろうか？

404は存在しているが見つからないことを示し、410は存在するしていなきことを意味する。

ということで、祠堂透悟改め、配信者【410（シドー）】の誕生だ。祝え！！

準備は一通り整った。初配信までまだ1時間ほどあるし、ちょっと休憩するしよう。根を詰めすぎて良いことはない。

ミヤモトマサシも似たようなことを古事記で言っている（多分）。

休憩していると、様々なことに思いを巡らしてしまう。

今が初の配信前ということもあってか、前世へ思いを馳せていた。

前の世界の俺がどれくらいの立ち位置の配信者だったのかは分からぬ。

やはり、前世の俺の方が経験が多い分、純粹に上手い配信が出来るのだろう。

けれど、この世界はあちらと違う。

まず、あちらでのネット上の希少価値は美しい女性だつたが、こちらではカツコイイ男性になつていてるのだ。

次にその比率も、男女比の狂つた人類種が霸権を握つたこちらの世界では大きく違う。

男女比1：1の人類の間であれだけ女性に囲いが出来ていたのだ。男女比1：4のこちらの世界ならどうなつてしまふのか、私にもわからん（無能博士）。

最後に、男性のネット配信は人間以外にも需要があるということである。何故なら、こちらの世界には人形という下手な人間よりも感情豊かなアンドロイド達がいるのだ。

つまり、今の状況から考えるに、前世よりも再生回数は稼ぎやすいのが現状である。

ならば、前世よりも再生回数を伸ばせるはずである。

前世よりもいい環境にいたにも関わらず、前世を越えられなければ、俺は【俺】以下になつてしまう。

だからこそ、俺は環境に甘えず、俺のできる精一杯を込めて配信をしていかなくてはならない。

なんだろうか、俺は有利だから配信をするのではない。

【俺】は配信で食つていけど、それが出来なければ【俺】ではないと、掠れた記憶のどこかで訴えかけてくるのだ。

だから俺は配信者となる。

それでしか食つていく方法を知らないのが【俺】なのだ。

俺は、俺の脳の中にしかいない微かな【俺】のためにも、配信で稼いでみせるのだ。

家族を、恋人、友人を、他の全てを忘れてしまつても、自分が配信者であつた記憶だけはかろうじて忘れなかつたのが、記憶喪失系プレ

インズウォーカーである【祠堂透悟】なのだ。

もしこの世界の男女比が、工学系大学も真っ青な比率だつたとして
も、俺は何らかの配信者となり食つていこうとしただろう。

それだけ【俺】は配信者という世界が好きだつたのだろう。
魅了されていたのだろう。

記憶を失つてなお、俺の方向性を決めるくらいには。

ま、唯一残つた記憶で1番詳しい分野だから、他の分野よりは食つ
ていき易いだろうっていうのは勿論あるだけね。

こんな重たい覚悟を抱えたままで初配信へ臨む訳にはいかないな。
気分をリフレッシュするためにも、リナさんから貰つた人形達の写
真を眺めるか。

リナさんから貰つた写真ということは、つまるところ任務の対象と
なる人形達なのである。

ここに写つている子達、つまり、外見美少女メンタル美少女と遊ぶ
だけで戸籍と住居が安泰になるのだ。こんなに美味しい話もない。
前の世界なら美人局を疑うところだ。

そこには見覚えのある人形から、見た覚えのない人形まで、色々な
人形達が様々な表情・シチュエーションで写りこんでいた。
写真をペラペラとめくつていき、ある写真が目に止まつた瞬間。再
び、思考が停止しそうになつた。

さすがに脳が停止に慣れたのか、停止はしなかつたが。

そこに写つっていたのは、「へ、ヘリアントスさん？ナンデ？ヘリアン
トスサンナンデ？」H R S !!（ヘリアントス・リアリティ・ショック
!!）

（男女の集いにおいて）半神的存在ともされ、恐れられているヘリアン
トスサンをみた哀れな一般配信者はしめやかに失禁!!

とまではいかなかつたものの、その余りある恐怖はS A N チェック
ク・或いは恐怖判定を齎した!!

え、人形のメンタルケアつて話じやなかつたのか？こちらの世界で

はヘリアントスさんは人形なのか？

それとも……男に飢えるあまり職権を……いや、考えないでおこう。それは上の人があるべき事だ。

そんなこんなである意味気分はさっぱり切り替わり、頭と口とメンタルを休めていると、時間はギリギリ。

機材のセットは大丈夫なのか気になつてきた。

「よし、機材のセットも大丈夫なはず。」

機材の最終確認を終える。何度も最終確認を行つてゐるし、何度も最終確認かは忘れてしまつた。

放送開始まであと1分だ。

初めてだから、いや、何度やつてもこの時間には慣れないという【記憶】がある。兎にも角にも、今にもチキンなこの心臓が爆発しそうだ。けど、やるしかない。これしか生きる方法を知らない。

自分にはそれが出来るだけ知識と、こなしていたという【記憶】くらいしかないのでから。

それ以外の全ては、忘れてしまつた。

「あ、え、い、う、お…よし、今日の声は悪くないな。」

調子は上場、細工は流々、あとは仕上げを御覧じろつてね。

さて、パソコンに向き直る。鏡で身支度の最終確認。【帽子】よし、髪型よし、見た目よし！

身よりもなく記憶もなく金もない、ナイナイイづくしのこんな自分に、これだけの物を与えてくれたりナさんに恩を返すために。手に職をつけたために。

そして何よりも、【俺】が生きてきた【記憶】が本物だつたと証明するために。

「さあ、始めようか。俺 の初配信を。」

第6話　はじめてのはいしん

『皆さん初めまして！410（シドー）チャンネルの初配信を見に来て
くれて、ありがとうございます！』

予めしていた宣伝が効いたのか、配信が始まつたばかりにも関わら
ず30人近くもの閲覧者がいる。

リイザ：初めまして。

a：初めまして！

b：初めまして～！

スコ p：はつじめまして！

秘密兵器彼女：はじめまして

・

画面の端をコメントが流れていく。

その中に、幾つか目に止まるものがあつた。

n：写真の通りめちゃくちゃカッコイイですね！

M：ナイスイケメン!!

猫丸：バーチャルでもないのにイケメンが動いてるにや！

なんか人形っぽい人が……

いや、今は1視聴者だ。とりあえず置いておこう。

やつぱり人形もこういうの見るんだな。想定内だ。（メガネク
イツ）

宣伝の時から分かっていたことだが、俺の顔はこちらでは整つてい
る分類に入るようだな。

とはいえる世辞の類もあるかもしれない。

実際にはどれくらいに見えるのか、探る必要があるかな。

『皆さんありがとうございます。』

はい、初めましてー！

挨拶をすると、気持ちがいい！ということですね。

しつかり返させていただきますよ。』

『これから、この410チャンネルではですね。

ゲームの実況はもちろんの事、様々な面白いことを提供していこう

と思います！

何かと暗いこの時代ですし、僕の放送で少しの時間でも明るく過ごせる人が増やせたらいいな。というのが目標ですね。』

『なんて、ちょっと大袈裟なこと言つちやつたかな？

とりあえず、そういう方針で頑張つていくつもりです！』

意識的に、ゆっくりと話す。緊張から無意識に早く話してしまうため、それでちょうど良くなるのだ。

b：頑張つてください！応援しますー！

M：性格めちゃくちゃ良さそうで草

k：こんな男が実在すんの？結婚しない？

モロカク：良い目標だと思いますよ。頑張つてください。

秘密兵器彼女：応援してます

・・・

概ね、好意的なコメントだな。

ネットの民度が前世よりも高いのか、男女比と顔が影響してるのがか。

はてさて、どちらかな？こら辺でさつくり聞いてみるか。

『応援、ありがとうございます。頑張りますね！

結婚はお互いのことを知らないので遠慮させていただきます。申し訳ないですが。

あと、先ほどイケメンと言つてくださつて嬉しいです！初めて言わ

れましたよ。感動しちゃいました!』

間を取る。

b : そななんですか? めちゃくちやカツコイイですよ!!

リイザ : 素敵だと思いますよ。

猫丸 : 絶対言われ慣れてるにや〜!

k : すがいかつこいいから、結婚して?

スコ p : みんなも言つてるけど、本当に言われたことないの〜?

モロカク : 顔だけじゃなくて、声もカツコイイですよ!
今度なにか歌つてみるのはいかがでしようか?

画面越しにかけられた幾つもの声が、俺イケメン説が本当の事だと
教えてくれた。

ヨシ!! (指差し確認)

『ははは、そんなに言わると照れてしまいますね。

あ、モロカクさん、ありがとうございます。

声を褒められたのも初めてですね!

歌う企画ですか〜。

じやあ今度、歌つてみたとかあげちゃおうかな。
もし上げたらみんな聞いてくれる?』

猫丸 : もちろんだにや!

秘密兵器彼女 : もちろん。私は聞くよ。

モロカク : 絶対に聞きます!!

M : このイケメンが歌うつてま?

a : 聞きたいです!

n：売り物以外で男性の歌とか聞いたことないしね

s：ほんそれ

スコ p：だよね！男性の歌つてプロのしか聞いたことないよね！

なるほどね。男性とカラオケに行つたことのある人が少ないので、必然的にプロ以外の歌を聞いたことがある女性は少ないのか。

しかし、幾ら男性が少なくとも、プロは存在するんだ。

それもそうか。こつちの人類も創作とか芸術は好きみたいだし、自己表現したがる男性はむしろバツクアップされやすいのかもな。

ふむ、それにも、だ。

観光地ではタクシーを使え。みたいな？

現地の人しか分からぬ感覺は、話さないと分からぬ。

配信を始めて、今世の感覚という思わぬ副産物を得た。

『皆さん、ありがとうございます！

じゃあ、今度歌つてみた上げてみますね。

……あの、恥ずかしながら流行には疎くて、今どんな歌が流行つてるか知らないんですよ。

折角ですし、発案者のモロカクさんに何を歌うのか決めていただきたいなど。』

モロカク：え、私でいいんですか？

『ええ、歌つてみたはモロカクさんの発案なので。
何か聞いてみたい曲とかありますか？』

モロカク：えっと、じゃあ

『はいはい。』

モロカク：ARC ENEMYさんの、イエスタデイつて曲をお願いしたいんですけど。

『ARC ENEMYさんのイエスタデイ、ですか。
聞いたことがないので……今聞いてみます！』

秘密兵器彼女：あつ……

猫丸：私も聞いたことないにや

スコ p：えー、えー……私が思つてると一緒なら、歌うの難しい
曲だと思うよ。

リイザ：初めて聞きました。

M：何かを察してやツいて草

『あれ、あんまり知られてない曲なんでしょうか？

とはいえ、真つ先に名前が出るのは知られざる名曲みたいな感じ
で、それはそれでカツコイイですねえ！』

モロカク：あ、ありがとうございます。私つて、あんまり音楽の趣
味が一般的ではないようで……私はいい曲だと思うんですけどね
……

『そなんですか？曲の趣味なんて人それぞれじやないです。
自分が好きならそれがいい曲なんですよ。

もちろん、人にも聞いて貰えたら嬉しいんですけど、理解されないか
らダメって訳じやないと思いますよ。』

モロカク：ありがとうございます。

M：めちゃくちゃカツコイイ語り始めて草

スコ p：いいこと言うね！

猫丸：人生相談窓口はこちらかにやく？

k：初配信にもかかわらず、人の悩みを真剣に聞くとか心までイケメンじゃん。結婚しない？（提案）

『自分の好き嫌いは誰にも否定できませんよ。

つと、見つかりましたね。

他国語に結構自信ありなので、もし知ってる言語だつたら歌いますね～』

よし、再生つと。

度肝をぶち抜かれた。というか、俺の度肝をぶち殺された。

不意打ち。そう、死角からの不意打ちと表現するのが正しいだろう。

有り得ないものを日常の中で見てしまつたら、こんな感情を味わうのだろうか？

ふと後ろを振り返つたら、すぐ後ろに日本人形が立つていて、シャワーを終えてふと目を開けたら、ニヤニヤと笑う男が顔を覗き込んできていたり。

痛みというのは、来ると分かつていれば我慢出来る。
堪えることができる。

しかし、いや、しかし！

配信中という、気が抜けているとは言えないが、周囲を警戒していなかった状態での【これ】は、あまりにも無防備だった俺の心へ直撃

した。

それ即ち、

デスメタルである。

それも、耳元のヘッドホンからの大音量で。

『おうつ!?』

びつくりした、めちゃくちゃびつくりした。
普段じや有り得ないような太い声が出た。
具体的には椅子ごとびつくり返った。

クツシヨンがあつたため怪我はしなかつたものの、コントのように
ひつくり返つてしまつた。

初配信でこれはまずい。

やべえ、めちゃくちゃ起き上がりたくない。
コメントが凄いことになつてそうだ。

けど……もしもモロカクさんが【あの人工】だつたとしたら、気に
してしまいそうだ。

確かに、あの人形は趣味の音楽がみんなからのウケはあまり良くない
ことを知つてるはず。

もしも、それを知つてなお俺に教えてくれてたんだとしたら、今

の心境は、察するにあまりある！

人を笑わせるためのエンターテイメントなんだから、落ち込ませて
しまつたら意味が無いんだ。

さつさと起き上がるう。

『い、いや。ははは。音量の設定ミスしててびつくりしちゃいまし
た。皆さん、驚かせてすみません。』

コメントは、今までにない速度で流れている。

a : コントみたいな転げ方してて草

g : 人間つてあんな転がり方するもんなんですねえ

d : 実は仕込みだつたりしない?

k : 結婚してくれたら許すよ。

スコ p : 大丈夫だつた? 怪我してない?

r : 転ぶ時のへそチラ……いい……

猫丸 : ひつくり返った時頭うつてない?

秘密兵器彼女 : 転ぶ時の声ちょっとと色つぽかつた。

M : はえ～、コメントから人間性の差が見える見える

・・・

モロカク : だ、だいじょうびでしたかわ

案の定というかなんというか、気にしてしまつたらしい。
人形なのにキーボードも怪しくなってるぞ。そんな気にしないで
いいんだけど、どうしようか。

リカバーが・走者の腕の・見せ所。（我らが b·i·i m 神に捧ぐ 57
5）

『皆さん、心配してくれてありがとうございます。モロカクさんも、大丈夫ですよ。』

いい曲を教えてくれて、ありがとうございます！この曲の歌つてみたを今度投稿しますね！』

モロカク : え、大丈夫なんですか？あの曲のせいで今転んでしまつたんじや……

『いやいや、僕が音量調節ミスっちゃつただけなので！心配させてごめんなさいね～』

そう笑って、手を合わせる。

『モロカクさんがあんまり気にしちゃうと、音量ミスしてすっ転んだ自分の間抜けさが際立つちやうん……気にしないでください～～～！お願いします!!』

モロカク：は、はい。歌つてみた、楽しみにしてますね。

まあ、これで大丈夫かな。

『はい、ありがとうございます！

じゃあ、ちょっとしたハプニングもありましたがそろそろ時間的に締めさせて頂こうと思います。』

『これからも、410チャンネルをよろしくお願いします！それでは！！』

そう言つて放送を終了した俺は、哀れなことに、こちらに来てから最大のミスを犯してしまつていたことに気がつかなかつたのだ。

もし転ばなかつたら、あるいは、モロカクさんに気を取られずにコメント欄をちゃんと見ていれば。

そんなもじもを考えても意味は無い。

事実、俺はあのコメントを見逃してしまつたのだから。

M：転んだ瞬間に乳首見えたつたwww思わず保存しちゃつたわw

W

第7話 メタル大好きガールの驚愕

・とあるおしりのおつきな女の子（人形）サイド
はあ……昨日の出撃は大変でした。まさか、朝までかかつてしまう
なんて……。

朝まで働いた事から、幸い今日の出撃は夜戦だけなのは幸いですけど……。

寝て起きたら昼近くになつてしましましたが、それでも時間はたっぷりあります。

出撃まで何しようかな？

と頭を悩ませ始めたころ、部屋の呼び鈴がなる。

「はーい、あれ。IDWさん。どうしましたか？」

「にやにやつ！スオミにちよつとお願ひがあるんだにや」

「そうですか……出撃まで時間はありますし、大丈夫ですよ。何のご用でしようか？」

「そんなに時間を取るつもりは無いにや。ヘッドホンをまた借りれないかにや？」

「ああ、そういう事ですか、いいですよ。」

「また借りちやつて申し訳ないにや。ありがとうにや。スオミのヘッドホンが1番ちゃんとしてるのにや。」

彼女は時々、私からヘッドホンを借りているのだ。私はその音楽の【趣味】から、ヘッドホンには拘りがあり、遮蔽効果の高く質の良いものを選んでいる。

彼女は次の給料で買う予定らしいのだが、1回分の給料で私の持っているレベルのヘッドホンを買うのは難しいだろう。

「そういえば、今日は何に使われるんですか？」

部屋に来た人形、IDWさんは多趣味だ。

日向ぼっこや散歩に始まり、映画鑑賞や猫カフェ巡り、また、ゲー

ムセンターや屋内運動施設などにもよく足を運んでいるらしい。

よくもまあそんなに時間を作れるものだ。

空き時間を使つてているというか、オンオフの切り替えが上手いというか。

私には、そういった柔軟な動きは、多分無理なことだから。

「ん、今日はちょっと実況でも見ようかと思つてにや～」「じつきよう、ですか？」

「そこにや！スオミはあんまり、見たことないのかにや？」

「なんの実況を見るんでしょうか？IDWさんは色々してらつしやるイメージなので、正直予想できないです。」

「にやにや。ゲーム実況だにや！」

「げ、げーむ？の実況？」

「あ、あ～。ゲーム実況つていうのはにや、ゲームをプレイしながらコメントしてる人を見る動画なんだにや。」

「はあ……なる、ほど？」

……わかりました。ありがとうございます」

「絶対分かつてないにや！そうにや、せつかならスオミも一緒に見るかにや？百聞は……。えつと、その、習うより慣れろ！にや！！」

「そうですね。時間は大丈夫ですし、一緒に見ましょうか、実況。」

そこからはIDWさんに教わった通りにタブレットを操作する。

最大手の動画サービスのアプリは音楽を聞くために入れていたため、そこからゲーム実況というタブを押せばいいようだ。

今までは1度もおした事がなかつたそのタブを押すと、ズラーツと動画のサムネイルが並ぶ。

これが今、全部ゲーム実況なのだという。

IDWからオススメされた動画を自分の端末で流す。

私は、人が近いのはちょっと苦手だから……お互いの端末で、それぞれに操作をしている。

よく見る紅白の三角マークを押すと、動画が始まった。

なるほど、これがゲーム実況か。

自分の好きなゲームをプレイしながら、その時の感情をみんなへ話す。

そのプレイや、コメントや、ツッコミや、熱量が、こちらを楽しませようとしているのが伝わってくる。

「すごいなあ。」

私は、好きなことを人に伝えようとするタイプだ。
好きな音楽を、色んな人に伝えようとしてるけど……あんまり聞いて貰えないことも多いし、正直ちょっと辛い。
だけど、ネットでそれを広げてみようと思ったことは無かつた。
ここに居る人達は、自分の好きを伝えようとしてこれだけの物を作り上げているのだ。

そのまま、幾つかのゲーム動画をIDWさんと一緒に見ていた。

すると、突然、

「あつー・やばい、忘れてたにゃー！今の時間は……ギリギリだにゃー！
今回は当たりの確率が高いと思うから、見逃せないにゃーーー！」
IDWさんが、奇声を発した。
どうしたんだろう？

「どうかされましたか？」

「実は、どうしても見たい生配信が今の時間にやるのを忘れてたんだにゃ！」

スオミは気にしないで実況の続きを見てるといいにゃよー。よし、
サーフだにゃー！」

「へー、生配信ですか。それは生放送と同じようなものなんでしょう
か？」

「そうにや。画面の向こうでリアルタイムで配信者が話すのが生放送だにや！」

「なるほど。……そういうえば、先程仰っていた当たりとか確率つてなんのことですか？」

「あー…その、にや。実は、ネットにならいるかもしないと思つてにや。イケメン生配信者を探してんだけにや。」

「なるほど、そういう事ですか。あの、見つかる気配はありますですか？」

「今のところはないんだけど、諦めるつもりは無いにや！人形に生まれたとしても、イケメンを探し続けるんだにやー!!」

それは、難しい話だろう。

私達人形は、前提として人工物でしかない。

それに私たちのような労働用の人形は、見た目での効果も考えてやや厳つい作りになつていて。

そして最後に立ち塞がるのは、社会的な地位の低さだ。

ボディガードの人形や、モデルの人形のような男性との接触がかつたり、観賞用につくられたりした人形なら、男性のラブロマンスは時折聞くニュースにもなる。

が、私たちがそうなれる確率は、まず有り得ないと言つていいほどには低い。

嘆きたくなるが、それが現実だ。

その中でも食いつくIDWさんは、やはり私には無いものを持つている人形なんだろう。

「ええっ！ちよつ、スオミ!!スオミ!!見てにや!!」

嫌な思索にふけつていた頭が、IDWさんの声によつて引き戻される。

「どうしましたか？」

「こ、これ、動いてるよにや……？喋つてるよにや……？」

「え、ええ……？こつ、これはつ!?」

そこに映っていたのは、見目麗しい男性だった。

男性と言うだけで貴重なこの時代の、イケメン。

それはつまり、同じ重量の金に匹敵、いや上回るだけの存在である。そんな彼が動いて喋っているのだから、その衝撃たるや、凄まじいものがある。

処理の止まつたメンタルに反して、演算部は過剰な動きを見せた。IDWへ貸したイヤホンからこぼれる音を、全神経を持つて拾い、言語として処理する。

『これから…410チャンネルで…』
指はいつの間にか、検索ボックスへ410チャンネルと滑らかな動きで入力を終えていた。

生配信がひとつ引つかかり、開くと
動くイケメンが、1人。

……やばい、やばい、やばい、やばい。思考が一瞬止まつてしましました。気がついたら、放送を開いてます。

しかも、コメントを使えば、お話まで出来てしまうらしいです。なんでしょうがそれは。いったい、どれくらいのお金を払えばいいんでしょうか？

自分でも訳が分からなくなつてしまい、思わずコメント。

配信をしている410さんという方は自分の目標について語つていたので、在り来りかもしけないが、それについてコメントすることにしました。

モロカク：良い目標だと思いますよ。頑張ってください。

他にも、彼を応援するコメントが流れしていく。

そもそもどうだろうな。男性で、見た目が良く、性格も（配信で見た

感じしか分からぬが）良さそうなんだし。

『応援、ありがとうございます。頑張りますね！』

……体が痺れたような衝撃に襲われました。私のコメントは、何人も送った中のひとつに過ぎなかつたのでしよう。

それでも、【彼】が私へ反応を返してくれた！

嬉しくなつて、頬が緩んでしまう。

「スオミも楽しんぐるやうにやねー！安心したにや！」

「え、な、何言つてるんですか！」

「いや、このモロカクつてスオミのことによよね？コメントに反応してもらえて嬉しかつたんじやないかにやーと思つたんだにや。」

「そ、それは、そう、です。」

「分かるにや。生配信を見てるだけでも楽しいけど、コメントを拾つてもらえると嬉しいよにやー！」

「ううう……」

ちよつと恥ずかしい。顔が赤くなつてしまつたのが分かります。

でも、もつと、自分のコメントを拾つて欲しいな。と思つてしまつたのは事実で。

みんなが同じようなコメントをしていたから、ちよつと違う角度で切り込んで見ることにしました。

モロカク：顔だけじゃなくて、声もカツコイイですよ！

今度なにか歌つてみるのはいかがでしようか？

『あ、モロカクさん、ありがとうございます！』

名前を呼ばれた。そう気づいた時に、体が銃に打たれたような衝撃に襲われました。

嬉しい。すごい嬉しいです……けど、

そうなると分かつていたら、こんな野蛮人めいた名前は付けなかつ

たのに！

そこから少しして、彼は更にとんでもないことを言い出したのです。

『じゃあ、今度歌つてみた上げてみますね。

……あの、恥ずかしながら流行には疎くて、今どんな歌が流行つてるか知らないんですよ。

折角ですし、発案者のモロカクさんに何を歌うのか決めていただきたいなど。』

「え？」

体が雷に打たれたような衝撃に襲われました。演算部分が今までにないほど高速で動いているのが分かります。

彼が、何を、歌うのか、決める？

いきなり背負わされた重要任務に、今にも思考は止まりそうでした。

焦つてしまつて、思わず

モロカク：A R C E N E M Yさんの、イエスタデイつて曲をお願いしたいんですけど。

やつてしまつた。

いつも聞いてるから、つい、言つてしまつたのだ。

もしも初対面の人に、何を歌えばいい？と聞かれてヘビメタの曲を返す人がいたら、私はちょっと神経を疑ってしまいます。

流すだけでも、あんなに言われてしまうのに……

案の定、410さんも知らないようですし、知ってる人はコメントにもあまり居ないみたいでした。

流行りの曲を聞かれていたのに、どうしよう……どうしよう…

でも、いえ、まだ聞いていないから、でしようか。

彼は好意的な反応を返してくれます。

『あれ、あんまり知られてない曲なんでしょうか？

とはいえ、真っ先に名前が出るのは知られざる名曲みたいな感じで、それはそれでカッコイイですねえ！』

けれど、パニックになっていた私はそれどころではなく、更に卑下するような内容を送ってしまったのです。

モロカク：あ、ありがとうございます。私って、あんまり音楽の趣味が一般的ではないようで……私はいい曲だと思うんですけどね……

『そ、うなんですか？曲の趣味なんて人それぞれじゃないです。

自分が好きならそれがいい曲なんですよ。

もちろん、人にも聞いて貰えたなら嬉しいですけど、理解されないからダメって訳じやないと思いますよ。』

この発言は、410さんからしたら大したことではなかつたんでしょう。これだけ、サラッと口から出したことなんですから、そう思います。

けれど、音楽を流そうとする度に、周りから止められる私にはどうしようもなく突き刺さつて。

受け入れられたように感じられて、嬉しくなりました。実は、ちょっと泣きそうになりました。

だからこそ。この後に起きたことで、私の心は冷水をあびせられたどころか、凍結地獄に落とされたようなショックを受けることになつたのですが……。

『自分の好き嫌いは誰にも否定できませんよ。つと、見つかりましたね。

他国語に結構自信ありなので、もし知ってる言語だつたら歌いますね～』

と言つて、彼が曲を再生した直後。

『おうつ!』

「えつ!?」

「にやつ!?

彼は椅子ごとひっくり返つてしまつたのです。それも、頭から。

コメント欄は今までにないスピードで流れ始め、心配する声がいくつも見られました。

彼は、すぐさま起き上がると、

『い、いや～。ははは。音量の設定ミスしててびっくりしちゃいまし
た。皆さん、驚かせてすみません。』

と、謝罪をしました。

ですが、私はそうは思えません。

私の音楽の趣味が、その、あまり一般的ではないのを私はちゃんと
しっていますし、それがあまり好まれていないうこともしっています。

だから、聞いてビックリしたから転んでしまつたのではないかと。
変わつた音楽の趣味を受け入れられてもらつたように感じていた
分の嬉しさは、そのまま、マイナスに転換されて。

彼が気にしないで大丈夫と言つてくれたにもかかわらず、指先から
言葉として吐き出されていました。

モロカク：え、大丈夫なんですか？あの曲のせいで今転んでしまつ
たんじや……

それでも、彼は。

『いやいや、僕が音量調節ミスっちゃつただけなので！心配させてごめんなさいね～』

そう笑つて、手を合わせてきて。

『モロカクさんがあんまり気にしちやうと、音量ミスしてすっ転んだ自分の間抜けさが際立つちやうんで……気にしないでください～～～！お願いします!!』

私の感じている申し訳なさは間違いなんだと、自分の放送を見て暗くならないで欲しいと、そう訴えかけてくるようで、そこまで言われてしまつたら。

モロカク：は、はい。歌つてみた、楽しみにしますね。

こう言うしか、ないじやないですか……！

この後、すぐに放送は終わり、私はメンタルモデルに溜まつた感情負荷の処理を行い、IDWはそんな私を抱きしめて慰めてくれました。

気がつくと出撃の時間を超えてしまつていて、反省書を書かされることになつてしまつたんですけどね。

IDWさんも何やら任務があつたらしく、反省書と一緒に書くことになつちやいました……申し訳ないです……。

「スオミはー、今回のこと気にしてるにや？」

「えつ、は、はい……付き合わせてしまつて、ごめんなさい。」

「いやいや、いいにやいいにや。こういうのを書かされるのは、いつもの事だしにやー。」

「それでも、IDWさんを巻き込んでしまつたのには変わりありませんし！」

「うーん、そんなに気にしないでいいんだけどにやあ。あ、そうだにや！

そういえば、さつきの410さんにや？

スオミがあの曲を選んでくれたからこそ、彼に関する衝撃的な事実が判明したんだにや。」

「そ、そだつたんですか？」

「それはにや……実は、彼は

「は、はい。」

思わず息を飲んでしまう。

私がヘビメタを勧めたから分かつた秘密？何なのだろう、それは。

「ブラを、つけてないのにや」

「ひや、ひやいつ!?!」

「さつきSNS開いたんだけどにや？どこもかしこもその話題で持ち切りだつたにや。」

そう言つて、IDWさんはタブレットを見せてくる。

そこには、トレンドランキングと書かれていて

トレンドランキング

1位 乳首

2位 ポロリ

3位 410

とあつた。

「え？」理解が追いつかない。IDWさんはそんな私に合わせてくれる気はないようで、「これを見るにや！」

渡されたタブレットには、動画が流れていた。

それは、410さんが転倒したい際の動画をスローにしたものによ

うで。

転んだ際に捲れ上がった服、その振り上げられた腕と、跳ね上がつた足の隙間を縫うように、乳首が、バツチリ映つていた。
乳首が、映つていた!!??

・・・・・

私が覚えているのはここまでです。指揮官。
IDWさんは、何も悪気を持つて私を氣絶させたんじゃありません。

方法に問題はあつたと思うんですけど……
その、励まそうと、してくれただけなので……
だから、IDWさんの始末書を3倍にするのは勘弁してあげられな
いでしようか?

IDWを許す代わりに、その配信動画を見せろ?
はい、了解です!

あつ、もう問題のシーンは修正されてしまったようですが、リンクを送りますね!

それじや意味が無い? そうですか……わかりました。そうなると、
IDWさんは……?

IDWさんはですか! ありがとうございます、指揮官!

第8話 環境×ト×反響

第1回の配信が終わつた。手応えは充分。

ハピニングもあつたが、あれも生配信の味の範疇だろう。うん、〇
C!!

が、体には未だに高揚感が熱として残つており、汗も相まって非常に鬱陶しい。

シャワーを浴びて、軽く頭冷やそうか。（魔王降臨の儀）

蛇口を捻るとシャワーを浴びることが出来る。実はこれ、無制限なのだ。普通は時間制限があるらしい。

S09地区のメインストリート近くに立つていて、カラオケしても大丈夫な防音があり、この時代にシャワーを浴び放題というのを考えれば、どれだけこのアパートのランクが高いのか分かるだろう。

1番分からないのは、身分のない俺のような存在が何故ここに住めているか、に尽きる。

シャワーを浴び終わり、パンツ一丁でガリガリ君っぽいアイスバーを齧る。当たりはもう入つていないらしい。ちょっと悲しくなつた。

呼び鈴がなる。お客様でも通販でもないだろうし、エリザちゃんカリナさんだろうか？

「はーい！ちょっと待つてください！」

先に返事をしてから、この格好は流石に無礼だろうと、上は黒い下着をぱぱつと着て、下にはパジャマとして使つている半ズボンへ足を通す。

「はい、お待たせしました！エリザちゃんか、待たせてごめんね？なん

の用かな。」

そこに居たのは、果たしてエリザちゃんであつた。今日も天使の輪が浮かぶ黒いショートカットが愛らしい。その手には紙束のようなものを持つている。

「どうも。シドーさん。ちよつとお話したいことがあるんですけど……」

「お部屋にお邪魔しても、大丈夫でしょうか？」

「ああ、大丈夫だよ。いらっしゃい。」

中学生を連れ込む成人男性（恐らく）の図。

この世界じやなきや事案ですね！

あつちの世界で言うと、男子中学生を部屋に連れ込む一人暮らしの女子大生か……エッチじやん。

「お邪魔します。」

丸机まで案内して、キンツキンツに冷えた麦茶を出す。

「それで、どうしたのかな？」

「実はですね、健康診断のお話でして。母の職場の伝手で、かなり本格的な診断が無料で受けられるそうなんですよ。

アパートに住んでる人が対象なので、シドーさんもどうかな？と思いまして。」

「へー、健康診断か。」

「はい。せつかくなら一緒に……行きたいな、つて。」

もじもじする女の子は可愛い。照れ顔なら尚更だ。

かわE超えてかわZだわ。

Z技、特にゴーストタイプの動きつてpartyのダンスに似て

る。似てない？似てると思うかどうかは俺が決めることにするよ（自己完結）

「うんうん。手に持つてるのはそのパンフレットかな？」

「あ、はい。そうです。」

「貰つてもいい？」

「どうぞっ?!」

パンフを貰おうと身を乗り出した際に、彼女の顔が真っ赤に染まる。

むむむ……また俺何かやつちやいました？（何がむむむだ。）

ん？ああ、そういう事か！

カン☆コーン!!

今ここに、あべこべの方程式は整つた！

風呂あがり十上は下着のみ十上体を倒す＝際どい所が見えてしま

う

我は影、真なる我…思春期の心の海より現出せよ、ラツキースケベ

！

ラツキースケベの効果により、純情J.Cエリザちゃんは攻撃表示（意味深）に強制変更される！

ふーん。そつかそつか。やつぱり変態じやねえかてめえ!! 可愛い

ね？（TNTN亭）

暖かく見守つてあげるとしよう。

気にならないでパンフをよむ。

エリザちゃんはチラチラと目線を送つてくるが……

まさかの脇フエチか。

パンフのページを捲る時の脇にめちゃくちゃ視線が来てる気が、と

いうか確實にそうだな。俺はお前が俺を見たのを見たぞ？

はえ～、いい趣味してますねえ！道理でねえ！

熱の籠つた視線を受け止めつつ読み終わつたパンフは、一見すると問題がなかつた。

つまり、ちゃんと読むと問題があつたのだ。

主に健康診断の場所がやばい。

エリザちゃんに聞きたいこともあつたが、それよりもやつてみたいことがある。

それは……

敢えて、ここで伸びをする。ということだ。

パンフ自体は読みやすいものの、ちょっと量が多くつたのでそんなに不自然な動きでもないだろう。

見えちゃってる？見せつけてるのよ。つまりはそういうことである。

「んん～！長かつた～！」

おお、視線つて本当に感じるものなんだなあ。ちょっと感心してしまうレベルで視線を感じる。

「ねえ、エリザちゃん」

「は、ひ、ふわいつ!?どどどど、どうしましたか？」

こちらを爛々とした目付きで眺めていた彼女だが、話しかけられたら流石に正気に戻つたのか、顔を真つ赤にして噛みまくりながらの返答をくれた。

そんなに慌てる逆に怪しいぞ～？

あんまり弄つて気まずくなつたりしても困るので、からかうのはここまで。聞きたかったことを質問しよう。

「ははは、落ち着いて落ち着いて。健康診断の場所なんだけどさ、I.O.Pつて人形作つてるところじやなかつた？人間の検査も出来るの？」

「え、んー……出来るからこういつたパンフを作つてているのではないでしょうか？」

「それもそりがとうね。

そうそう、この施設までの行き方は分かる？」

「マップを見ながら行けば大丈夫だと思います。」

「なるほど。あれ、じゃあ今まで行つたことはないの？」

「この検査自体が今年から始まつたみたいで、今までこのパンフレットを見たことはないですね。」

明らかに怪しくて草。

今年から始まつたの下りとか、特に。

俺がここまで待遇を得てることに關して感謝しているし、恩を返す気では勿論いるが。

俺に対してもこれだけの手間や資金を割くつてことは、それ相応の何かが俺にはあるんだろう。

I.O.Pでの検査つていうのは、健康だけじやなくて別の意味も含んでいるはずだ。

だがしかし、虎穴に入らずんば虎子を得ず、なんだよな（ケモナー）とらのあな（18禁）に突うづるつ込んでやると、ああ、堪らねえぜ。

俺が自分で気づくならそれでもよし、気づかないなら敢えて俺に教えるつもりはないんだろう。

それに、現段階では実力行使に出る気もないはず。
ここまで遠回しな手段を選んでくるくらいだし。
なら行つても大丈夫か。

世話になつてゐる相手の機嫌を無理に損ねることもないしな。

(この間わずか2秒の早業!!)

「うん、いいよ。行こつか。」

「はいっ！ありがとうございます！」

「いやいや、こちらこそ教えてくれてありがとうございます。日付は……」

エリザちゃんが帰つてからふと思つた。
これつて、デートじゃね？

いいや、配信者は狼狽えないっ!!

愛とか恋とか痴情のもつれとか惚れた腫れたはファンが減るから
NG。先に事務所通してください！

まあ、（おそらく）成人してゐる俺が、中学生なんかを好きになるはず
がないんだよね。大人だから。

夕食を挟み、風呂に入り、放送からほぼ半日が経つてしまつたが、
さつきの放送についてエゴサをかけよう。

SNSの配信垢を開く。

通知が多くて振動が止まらなくなつた。
嘘、だろ……？

なんかフォロワー数が爆上げされてる。フォロワーの数だけなら、
中堅配信者といえる程度にまで増えている。

やばい、ここまで爆発的に増えるものなのかな？
嬉しいは嬉しいが、あまりにも急激に増えすぎるとそれはそれで恐
ろしい。

これがもし、俺が【男】だからというだけが理由だつたら、あまり嬉しくはないな。

十中八九そうだろうが。

俺としては、男は飽くまで付属価値に過ぎず、メインは配信者でありたい。

性別やスタイル、顔も勿論魅力の一つだろうし、それを使つてもいいと思うのだが、メインは配信者でありたいのだ。
そつちがメインならモデルとかの美を売る仕事を目指した方が良いんだろうし。

現実逃避気味に、SNSサーフィンにくり出す。
トレンドから見るかな。

SNSのトレンドランキング

1位は、乳首。

2位は、ポロリ

3位は、410

??? 思考が、停止しそうになつた……ものの
俺の 思考は 食いしばつた !

やつぱり食いしばりは神スキルなんやなつて

嫌な予感がする。いや、嫌な予感しかしない。
恐る恐る、1位のタグである乳首を調べる。

すると……俺のすっ転んだシーンのスーパースロー再生が出てきた。

元の配信用のカメラの画質ゆえか、ハツキリとは写つていらないもの、そのせいでまるでモザイクのようになつた乳首がそこには映し出

されていた。

もう一度言うと、俺の乳首が、そこに映されていた、のだ。

性別とか魅力がどうこう言つてた配信者おるかー？冷えてるかー
???(X XハンターY U K)

10万いいねってほんとうにあるんだあ

まざい。うん、これは、まざいな。非常にまざい。

何がつて、収益化に関して性のイメージが着くのは（前世では）非常にまざい。

こちらでもそとは変わらないだろう。とりあえずG O O g l eで規約を調べる。

収益化からの解除条件にやっぱり書かれていた。

・性的コンテンツの禁止

……また俺何かやつちやいました？（お気に入り）

意図的ではないとはいえ、時間が経つてしまつたし、早く対処しないとまざいな。

とりあえず、アーカイブから今日の生配信を削除。S N Sで謝罪文を掲載する。

『410です。この度は、自分の注意不足によつて不適切な動画を投稿してしまつたことを、ここに謝罪させていただきます。』
とりあえず、短く。要件だけでいいのだ。

火消しは速いうちにしなくては収集がつかなくなってしまう！

俺の乳首がワールドワイドになろうと、別に良い（良くはない）。

問題は、顔出しで配信して初回から運営に目をつけられてしまうことだ！

続いて、

『問題の動画はアーカイブから削除し、問題箇所を削除してから投稿させていただきます。

お騒がせいたしましたことを、深く謝罪申し上げます。』
と、反省とその行動を呟き。

謝罪をする。反省をする。

両方やらなくっちゃあならないってのが、配信者の辛いところだな。

やるだけやつたし、もう打てる手はない。

DMもリップも全て無視だ。

乳首見せてつて内容が多かつた氣がするのは気のせい、だよな？そういうことにしよう。

疲れた。もう歌つてみたの練習をして、寝る。

布団に入つてから思つた。

男であること十乳首が見えた事でもあのフォロワー数なら、この世界でも配信者の中で上位になるには実力が大事なんだな、と。

登る山は高い方がいい。

目標は思つたより遠そうで、少しワクワクした。

それじゃあ、おやすみなさい。

さて、次の日。

シャワーを浴びて、歯を磨き、服を着替える。

「ゴミ出さないとなあ……」

ゴミを出しに行くと、ゴミ捨て場には先客がいた。白いパークーに、ホットパンツというラフな格好だ。

「あら。おはようございます、良い朝ね。」

そう、鈴の転がるような声で、挨拶を、してきた、この人は……。

「あつ……」これはどうも。おはようございます。」

「初めて見た顔だけど、新しく越してきた人？」

グレー・ブラウンのうねつた髪を伸ばし、左でサイドテールにしている彼女は……

「ええ、2週間ほど前からこちらでお世話になつております。」

「アハハっ、そんなに固くならないで大丈夫よ。私たち、多分そんなに年が離れてないでしょ？」

見間違えるはずもない、猫を思わせる金色の瞳。

その、左目の上に走る傷跡。俺が、どうしても会いたかった人形。「そつかそつか。ありがとう。なら、タメでいかせてもらうよ。俺は祠堂透吾。君は？」

「私は——」

彼女は——

「ウエデリアよ。よろしくね。」

(UMP45だ)

ん???

「…………ウエデリアか、よろしく。」

Part 9 グリフィン何でも実況板【非実在性】 美男美少年を探すスレ【イケメンどこそこ】

1 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 4 : 0 0 :
 0 0 I D : 9 u 7 n I 5 c n 6 L
 前スレはこちら！【U R L : //】
 テンプレ

・ 実在のイケメンに迷惑をかけるのはやめましょう
 ここはネットです、人間も人形も節度を守って楽しく決闘（レスバ）

!!

4 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 4 : 1 5 :
 1 5 I D : j t 9 z S 3 k W A 2
 は〜。どつかにイケメン落ちてないかしら。
 5 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 4 : 1 8 :
 2 3 I D : n 8 k B i 2 J A s Q
 落つこちてるわけないじやん。夢見すぎか
 6 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 4 : 2 3 :
 0 5 I D : S H U R 5 G b x f L
 ほんそれ、夢を見る暇があつたらイケメンと付き合う方法考えろ
 7 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 4 : 2 6 :
 0 8 I D : G L g 9 4 p s M W D
 私の彼、空から落つこちてきたよ?
 8 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 4 : 3 2 :
 0 7 I D : 4 8 f r O o A c I t
 親方!?!?
 9 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 4 : 3 6 :
 1 5 I D : z c 7 R c f P k A p

(誘拐は) まずいですよ!!

10 : イケメン好きな名無しさん

2063 / 6 / 1

14 : 42 :

11 ID : G T j E S W M J G A

2063 / 6 / 1

14 : 45 :

バルス!!

11 : イケメン好きな名無しさん

2063 / 6 / 1

14 : 45 :

43 ID : Z J W Z Z I x n k c

2063 / 6 / 1

14 : 45 :

今更ラピュタとかふつる!!

バルスが許されるのは、昭和までだよね♪

2063 / 6 / 1

14 : 50 :

00 ID : O 4 u J 9 P k c X 9

2063 / 6 / 1

14 : 50 :

それこそ古い定期

13 : イケメン好きな名無しさん

2063 / 6 / 1

14 : 55 :

26 ID : 6 G c U 4 u n K 4 2

おい、ラピュタつてY o ! F D O (注: Final Dragon

O N L I N Eの略) のネタじやんか!あつあつあつ

14 : イケメン好きな名無しさん

2063 / 6 / 1

14 : 59 :

48 ID : f D S S W 9 C g

新章神つてたンゴねえ!

15 : イケメン好きな名無しさん

2063 / 6 / 1

15 : 03 :

27 ID : j H A L W F 2 w K M

イケメンがイケメンだったしな。

16 : イケメン好きな名無しさん

2063 / 6 / 1

15 : 07 :

44 ID : Q e F N Q B j F w h

2063 / 6 / 1

15 : 13 :

あー、わかる。イケメンがイケメンしてた……

17 : イケメン好きな名無しさん

2063 / 6 / 1

15 : 13 :

08 ID : G m 7 1 G P e 2 g 4

2063 / 6 / 1

15 : 18 :

私も月の女神様くらい愛されたいもんですわ。

18 : イケメン好きな名無しさん

2063 / 6 / 1

15 : 18 :

25 ID : I v T c C u p 6 b L

2063 / 6 / 1

15 : 22 :

お姉様、私の胸は空いてましてよ~?!

19 : イケメン好きな名無しさん

2063 / 6 / 1

15 : 22 :

52 ID : SG3JaFUXW8

おつ、百合かな？

20 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 15 : 27 :

21 ID : BEK9C1PVto

申し訳ですが、レズ以外は帰つて貰いますわ！

21 : [17] 2063 / 6 / 1 15 : 32 : 53 ID : G

m71GP e2g4

ご好意はありがたいですが、親の遺言でバストサイズが120以下の人とは付き合えませんの。ごめんあそばせ？

22 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 15 : 37 :

30 ID : v nC7bbFgI1

120は盛りすぎww

23 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 15 : 43 :

08 ID : xF i2zrRu8K

もつと断り方あるだろwww

24 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 15 : 48 :

07 ID : cAxZmfhRCA

120とか逆にスタイル悪いだろ。むしろ見てみたいわw

25 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 15 : 53 :

33 ID : cSQG1XUMXW

さつきまで生でしてたイケメンあげう

【URL : / /】

26 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 15 : 59 :

16 ID : z bGd p i K x i o

そういうや、S09地区でとんでもないイケメンを見たぞ

27 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 16 : 02 :

46 ID : IFNhx8eHfV

嘘松さん？

28 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 16 : 06 :

14 ID : e992VsRCOS

S09地区ならワンチャン居るかもな、人も多いし。

29	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · i 1 :
34	I D : N W E E 5 Z K z z 4		
	治安はいいし		
30	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · i 5 :
23	I D : o z i Q 1 G v F e y		
	私のじけちやうし		
31	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · 2 0 :
04	I D : X k e n A q N K 0 h		
	オイオイトイ、死んだわ俺		
32	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · 2 3 :
20	I D : h 4 M K 2 U Z X v q		
	僕も！		
33	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · 2 7 :
01	I D : Y 1 b m k J i a v 3		
	私も！		
34	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · 3 0 :
44	I D : f 0 0 v Y q x V d M		
	レベル4が三体、来るぞ遊馬!! プトレノヴァインファイティ		
35	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · 3 5 :
10	I D : q w 6 J 4 x 9 x 9 H		
	リンク。やっぱぽい		
36	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · 3 9 :
44	I D : d 0 L T v y l o l c		
	リンクの動画は開くな、呪われるぞ。		
37	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · 4 4 :
33	I D : 6 S p O W b 4 6 O U		
???			
38	・イケメン好きな名無しさん	2063 / 6 / 1	16 · 4 9 :
27	I D : V m g m s q s a P Y		
	リンク、あれはやっぱい。催眠術とか超スピード!?とかちやちなもん		
	じやあ断じてねえ！		

15 I D : p n w m 6 q W m 3 l

15 I D : p n w m 6 q W m 3 l

9 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 17 : 43 :

33 I D : f m 1 P 0 p J E 1 P

イケメン配信主？絶滅したはずじゃ……

50 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 17 : 47 :

28 I D : q k k T x 7 S M J O

ま？見てくるわ

51 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 17 : 50 :

41 I D : 1 W Q 2 C R W j 3 D

ちょっと田んぼ見てくる

30 分後

・

・

・

・

・

・

・

・

52 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 18 : 24 :

31 I D : R t L 4 C G X n F Q

みんな見に行つてて草。マジでイケメンが動いてたわ www

53 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 18 : 28 :

40 I D : Y V P n Q u 1 N K 1

やばいしか言えない、やばい（限界オタク）

54 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 18 : 29 :

30 I D : 9 n E 2 H 1 w O 1 F

語彙が崩壊した。

55 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1 18 : 30 :

56 I D : R Y a M p U T 9 K A

え、あれこそ非実在イケメンじゃないの？

56・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・31：
57 ID : T8QcIBdJp5

メンヘラコメントへの対応が優しスギイ！自分、ガチ恋いいつすか

?

57・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・33：
17 ID : fR0CaegheZ
ぱぱあ・ぱぱあ・

58・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・34：
36 ID : E2TTxg2Pcq

急にオギャるんじやあないつ！

59・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・35：
52 ID : rbbJBLLW8ZQr

やはり父子プレイか、私も同行しよう。

60・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・36：
38 ID : 1etqd9Mx7R

おせつせ院！

61・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・37：
24 ID : cobmBMDPYr

名作を汚すな

62・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・38：
53 ID : p5Y e48Yz98

書き込みが急に増えて草

63・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・40：
23 ID : p2wSeYa pdJ

あんなのみたらねえ……

64・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・41：
37 ID : uicxctcrUs

あんなイケメンが野生なの？

65・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18・43：
02 ID : qrVchQ8aCH

私は兄がいるからわかる。女の気配がしない。

66・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18:44:
06 ID:vWJiIxO6nH

ていうか、あんなイケメンがなんで顔出せてるの？

小学校卒業の時のさ、イケメンが居なくなるあれがあるじやん。あれに引っかかるでしょ。

67・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18:44:
53 ID:1AjhAUh0NvH

あー、ダンホかあ。

うちの地区はたった1人しかいない希望の星が連れてかれただわ。

68・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18:45:

51 ID:P1fU4CcOIc

ダンホさ、たまに食べると美味しいよなw

69・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18:47:

03 ID:wFn1GAjBvjh

いつものコピペが欲しい

70・イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 18:47:
55 ID:nYH1w1Kcsx

階級制男性保護制度。

通称【ダンホ】

階級制度という言葉で誤魔化している実質的な優生主義の化身。

中学校の入学前に小学校の際の成績に基づいて採点を行い、高得点を得た（イケメン or インテリ or スポーツマン）男性は特別区への移住が許可（半ば強制）される名高い悪法。特別区の内外で連絡を取ることは通常不可能とされ、出てきた男も居ないという。

これにより優れた男性は保護され、管理されることによつて精子バンクの特級の質は保護されることになるものの、実はそのミルクは上流階級のババアに出されたあのゴムから集められていると専らの噂。

私も日替わりで美少年のミルクごくごくしたいなりい……
生抜き一本、やつぱり仕事の後はこれに限るわねw

ジユルルルル!!!!!!グッポグッポ!!!!ズブブブブ!!!!ジユル!!!!ジユル!!!!
ジユポ!!!ジユル化ルルル!!

71：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·49：

23 ID : L J W Z I m E G R L

これを見に来た

72：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·50：

28 ID : J q g k l W U C p w

ああ～～いですわぞ～！

73：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·51：

23 ID : z h 0 Z J A C K J U

有能

74：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·52：

20 ID : p c A G 5 B q v a h

何度見ても前後の落差に狂気を感じる

75：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·53：

19 ID : x c w K u X 7 9 2 z

ダンホは遺伝子確保を名目にしてるから、イケメンで保護されない理由として考えられることとしては……

76：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·54：

38 ID : x 3 x D E S j S A O

ネットでも言葉を控えるたあ、聖人の鑑か？

77：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·55：

28 ID : P T Z A o t 9 C 4 M

えつ、じやあ生飲み放題？

78：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·56：

35 ID : P R u q r 4 v P U E

それは無いわー

79：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·57：

40 ID : s r A y g q h b Z 0

幾らネットでもリテラシー低い、低くない？

80：イケメン好きな名無しさん

2063／6／1 18·59：

08 ID : O n 3 3 s 1 6 O T v

うるさいですね……

81 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1

19:00:

14 ID : s s D d 4 o l u r Z
ち、チノくん！ そんなにゴシゴシしたらダメなりよ！

82 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1

19:01:

32 ID : t 5 o a s 2 r 2 8 n

あつ、妹殺しだ

83 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1

19:02:

42 ID : Z p B e k I m B J r

インターネットに詳しい弁護士さんおつすおつす

84 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1

19:03:

43 ID : Y n J o W B L c L U

生きるため、仕方がなかつた

ピーピーピーボボボボボ (K R S W)

85 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1

19:04:

44 ID : b D L 5 K 9 m B S W

妹レイプ！ レイブンと化した弁護士！

86 : イケメン好きな名無しさん 2063 / 6 / 1

19:05:

49 ID : H 0 6 4 o s u o U z

イケメン配信者410まとめ

・イケメン

・心もイケメン

・カツコイイ

・物腰柔らか

・丁寧な対応

・流行に疎い

・結婚するにはお互いのことをよく知つてから

・（おそらく）自作のクソデカ410ロゴキヤップ

・イケメンと言わされたのは初めて

・イケボと言わされたのも初めて

- 87：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·06：
 53 ID : zH U O 3 L H q d D
 イケボといやあ、歌つてみたもあげるなんて楽しみ♪
- 88：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·08：
 06 ID : aC 5 q n S Z Y 3 T
 下手でも許せる
- 89：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·09：
 11 I D : Z T b v m 5 S X 9 1
 むしろ下手な方がいい
- 90：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·10：
 31 I D : a G 4 Y J Q q I 4 x
 勧められてた曲調べたらめちゃめちゃメタルだったわ。モロカク
 ヤベー奴過ぎるだろ。
- 91：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·11：
 59 I D : 6 O 2 9 W F x o j W
 すつ転んだのそのせいでは？
- 92：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·13：
 28 I D : t X 9 A 2 5 a 8 h 3
 （そりや） そうだよ
- 93：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·14：
 42 I D : G z p L t O 9 h t H
 いきなりメタルを聞いたらびっくりするし、ちかたないね
- 94：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·15：
 53 I D : y V Z g Y 6 7 x W O
 はえく……イケメンだからみんな優しい、優しくない？
- 95：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·16：
 42 I D : u V y f j Q 6 r z f
 当たり前だろ、イケメン相手だぞ！
- 96：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 19·17：
 54 I D : X J m 7 q y X r i 2

心までイケメンっぽいよなあ

9 7 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 1 9 :

2 1 I D : M 1 9 m r t o t 6 h

こんなにもう4 1 0 パパじやん、パパみでオギヤれ!!

9 8 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 2 0 :

2 3 I D : v e z 3 d N G Y c 3

あんまりパパキヤラ推されると東京在住のヤベー奴を思い出すためNG

9 9 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 2 1 :

4 2 I D : g f H s 6 r c I w p

赤ちゃんガチ勢からの一転攻勢闇堕ち逆レ宣言だもんな。

伝説すぎるし何度も面白いわ。

1 0 0 : 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 2 2 : 4 3 I D : Z r Q q

E w k 9 H J

3週くらいしてコメント欄を見る余裕が出来てきたんだけど、転んだ時に乳首が見えたつてまじ?

1 0 1 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 2

3 : 3 2 I D : I u M N p 5 z X Y U

は?

1 0 2 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 2

4 : 4 5 I D : H q 1 L g 4 P q 7 t

コメントとか見てなかつたわ

1 0 3 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 2

5 : 4 2 I D : y 4 Y v F o X g G Q

そんなコメントあつたか?

1 0 4 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 2

6 : 5 7 I D : N T u X 0 R y Z 8 x

それが本当なら、勲章ものですよ……

1 0 5 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 2

8 : 0 7 I D : W r m H B K 6 8 8 C

うわ、まじでそのコメントあつたわ。すつ転んでコメが加速しま

くつた時に言われてる。

1 0 6 : [M] 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 2 8 : 5 6 I D : p r
r U B A i 7 J j

保存してたからあげる

1 0 7 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 3
0 : 2 1 I D : f o G j n w c M E 2

くあ w セ d r f t g y ふじこ l p

1 0 8 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 3
1 : 3 8 I D : y y n H Y 6 e z u A

スローカメラで保存してるとかMがイレギュラーすぎる……

1 0 9 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 3
3 : 0 4 I D : E f 4 P z W P m f 8

これが、人の可能性？

1 1 0 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 3
3 : 5 2 I D : m 1 N d E g R g u 3

どうしてイレギュラーは発生するんだろう？

1 1 1 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 3
4 : 5 1 I D : Y Y G 3 L P F W A 5

スローだからギリ見えるけどまじ乳首じやん。

リアルタイムで確認できたMやばくね？

1 1 2 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 3
6 : 0 7 I D : U p W K J m y k u k

はつきり見えないけど、乳首だね。

Mはやばいと言うか妬ましい。一生ネタに使えるだろ。

1 1 3 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 3
7 : 3 2 I D : N W w F N q u k V 2

(。▽。) o彡。おっぱいおっぱい

1 1 4 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 3
8 : 4 2 I D : z 1 R S 0 z D f e X

怒りそうになつたらこのおっぱいのこと考えよう。

1 1 5 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 4

2 0 6 3 / 6 / 1

1 9 : 4

0 : 0 6 ID : Y f 5 D 1 a F 9 M F

この見た目でブラつけないと誘つてんじやんアゼルバイジヤン

1 1 6 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 4

1 : 0 9 ID : p z d 0 5 E d q v u

Mはなぜいきなり投下したし

1 1 7 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 4

2 : 1 8 ID : w w k J u o V n e K

よく見えないけど、ピンクか？

1 1 8 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 4

3 : 0 8 ID : Z 7 E 1 v c m m x Y

イケメンならピンクに決まっていますよ

1 1 9 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 4

4 : 0 9 ID : 9 o R U o e n O D Q

おつ、 そうだな

5 : 0 9 ID : R y Z I h N 4 V c A

は？ イケメンは黒光りと相場が決まっているが？
お子ちゃんは家に帰つてママにでも甘えてな w w

1 2 1 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 4

5 : 5 7 ID : 5 4 e X 7 U z R 9 t

は？ 1 2 2 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 4

7 : 0 2 ID : x k E R 4 m 8 e 7 a

○すぞボケナス

1 2 3 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 4

8 : 2 4 ID : r w g v h F j 8 X T

きのこたけのこ並に終わらない論争はやめちくびく？

1 2 4 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 4

9 : 2 6 ID : D J X D A Z 1 R K Q

論争はこっちのスレへ【h t t p : //】

1 2 5 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 5

0 : 2 6 ID : N 2 j 6 5 2 n r b 6

S N Sでも話題になりだしたわ

1 2 6 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 5

1 : 3 6 I D : e G v Z X E g l f f

うわ、タグの使用率えつぐい

1 2 7 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 5

2 : 4 8 I D : v T S A D q r 4 A 5

どこを見ても謎のノーブライケメン配信者の乳首カツトシーンに溢れてる……

1 2 8 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 5

3 : 3 6 I D : d X c G N D A 3 0 t

スローで撮るのは気合い入れすぎだろ w w w

1 2 9 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 5

4 : 4 8 I D : B g J 0 j A L B t K

3 0 分くらいで元ツイが1万R T超えた

1 3 0 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 5

5 : 5 6 I D : 6 Y g h h Z n p d W

トレンド3位、乳首。

だつてお!! A A 略

1 3 1 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 1 9 : 5

7 : 2 1 I D : 1 A M g C n j r z L

そりや謎のイケメンが生放送で乳首晒したとあつては仕方ないね

主人公、謝罪中

・ · · ·

4 0 6 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 2

3 : 5 1 I D : m q Y R w 7 R z w 7

乳首晒しノーブライケメン配信主【410】、謝罪する

407：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

4：45 ID：uMQRpUueBC

不適切な動画草

408：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

5：18 ID：1I5XHjE S7D

こんな世の中なら最適解だろ

409：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

5：42 ID：Ai825OH561

イケメンの乳首は不適切だと？

イケメン差別か？

410：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

6：10 ID：IyKGh5yN J9

はいヘイトスピーチ

411：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

6：21 ID：v37HOMdz3p

これだから劣等民族は……

412：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

6：40 ID：6WxE2VNa nt

テコンダリーいつすねえ♪

413：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

7：12 ID：0FPYPD8tYU

アーカイブから消しちゃうのか……

414：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

7：58 ID：WA1OHUOfAT

消えないで：

415：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

8：42 ID：H0H8KXa1KH

お前、消えるのか？

416：イケメン好きな名無しさん 2063／6／1 22：2

9：19 ID：JOPPt m40wU

お前、消えるのか？

ま、大事な切り抜きシーンはみんな保存しただろうし、もうどうにもならないんですけどね。初見さん。

4 1 7 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

0 : 0 2 I D : V C L 2 m T Y m t 6

初配信のイケメンをネットの洗礼が襲う！

4 1 8 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

0 : 4 2 I D : O i M j c B P g s x

半端な覚悟で入つてくるなよ、ネットの世界によお！

4 1 9 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

1 : 0 0 I D : 7 2 w 3 H t X 2 F T

謝罪はすれどもそれだけって不思議じやない？

4 2 0 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

1 : 2 1 I D : v W T A Q V 4 X A w

せやろか？

4 2 1 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

2 : 0 5 I D : h a m 2 W G k 9 t a

そうだよ（便乗）

4 2 2 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

2 : 5 9 I D : H N L 2 2 h t K L w

（そら） そようよ（大便乗）

4 2 3 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

3 : 4 0 I D : g 8 w J M 2 9 M T N

あーわかるわかる。あの子不思議だよね。

4 2 4 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

心までイケメンなノーブラ生配信者なんて不思議の塊だろ。

4 2 5 : [4 1 9] 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3 4 : 4 7

I D : 7 2 w 3 H t X 2 F T

男が乳首見せちゃつたら恥ずかしくてもつと別の対応とするでしょ、

j k

4 2 6 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3

5 : 2 6 ID : R B c M A y c o m R

別の対応?

4 2 7 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3
5 : 3 6 I D : t 7 Y F S c 0 E u g

これ以上なにかしてくれるのか? T N T N 見せて欲しい

4 2 8 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3
5 : 5 2 I D : f 0 7 U G u D Y E J

ああ。そりや普通、乳首動画の拡散を止めて欲しいって言つたりするよな。

4 2 9 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3
6 : 3 5 I D : m W F 1 j s u W S J

それもそudadわ

4 3 0 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3
7 : 0 9 I D : M Q d t U D Z V f F

はえ、とつても慧眼。当たり前のこと気にづけるのはすごい

4 3 1 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3
7 : 4 9 I D : Z 2 P X y k 2 d a d

コロンブスの卵かな?

4 3 2 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3
8 : 2 7 I D : x m 4 R Z C b W T A

はつはー! 相棒!!

諦めなければ夢は叶うぜ! (イケメン乳首生配信ポロリ)

4 3 3 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3
9 : 0 7 I D : z t b m D J m 4 m V

それか、恥ずかしくなつて垢消し逃亡しちゃうとか

4 3 4 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3
9 : 2 7 I D : s I u Z 1 Q K m p l

ちょっと様子見たけど、本当に謝罪しかあげてないな……

4 3 5 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 3
9 : 5 4 I D : a T d c R B N r g 4

私が送ったDMに乳首返してくれよなあ、頼むよ

4 3 6 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
0 : 1 8 I D : 6 D J y 1 g x n k r 2 2 : 4

こわつ、近寄らんとこ::

4 3 7 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
1 : 1 1 I D : a 2 w 5 h s I Y 0 h 2 2 : 4

私も送りました。

4 3 8 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
2 : 0 5 I D : z E o j u i V O s O 2 2 : 4

わたくしもですわ

4 3 9 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
2 : 3 8 I D : 5 j 5 d x e 7 J P w 2 2 : 4

こマ? 乳首要求姉貴多すぎるだろ

4 4 0 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
3 : 2 2 I D : 9 S o F 8 o J D 1 y 2 2 : 4

謝る気があるなら乳首送つて? って言つただけだぞ

4 4 1 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
3 : 5 8 I D : 7 w H n r P H 1 r O 2 2 : 4

卑劣で草

4 4 2 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
4 : 2 1 I D : p f k F G q O N g v 2 2 : 4

これは卑の意志

4 4 3 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
4 : 4 9 I D : W 8 x 0 O e G h S Z 2 2 : 4

ド畜生忍者

4 4 4 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
5 : 2 1 I D : V c c x N u F x p a 2 2 : 4

名軍師だろ。悪のカリスマかなにか?

4 4 5 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
5 : 5 1 I D : V x J F O C S U B R 2 2 : 4

忍者殺すべし、慈悲はない

4 4 6 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1
2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 4

6 : 0 3 I D : i y K 8 J 0 m 0 T 3

4 1 0くんみたいなカブキロボ（N J S L Y R）欲しい、欲しくない？

4 4 7 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 4
6 : 3 9 I D : 9 Z Y 3 D O O j I 8

てか、本人が気づくの遅すぎだろ。

トレンド総ナメしてから1時間以上経ってるぞ

4 4 8 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 4
7 : 0 8 I D : 7 4 I k 5 g w 4 t Y

4 1 0くんは汚いワクワク咳き動物園なんてみないから

4 4 9 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 4
7 : 1 8 I D : 0 7 0 I c 5 a a o U

綺麗だからこそ汚れるべきなんだよなあ、お前どう？

4 5 0 : イケメン好きな名無しさん 2 0 6 3 / 6 / 1 2 2 : 4
7 : 5 6 I D : f T E g d S e j Q s

やだ怖い……メタルウーマン!!

· · · · ·

この後、朝までめちゃくちゃ語り合つた

第10話 体は45姉を求める

「そつかそつか。ありがとう。なら、タメでいかせてもらうよ。俺は祠堂透吾。君は？」

「私は——」

「彼女は——」

「ウエデリアよ。よろしくね。」

(UMP45だ)

んつ
???

「…………ウエデリアか、よろしく。」

「よろしくね、トーゴ。」

名前を呼ばれた。推しに、名前を呼ばれた!!

アプリだと指揮官としか呼んでくれない（当たり前）彼女から、である。

天にも昇りそうな俺だったが、そう浮かれている訳にはいかなかつた。

目の前の【彼女】は特殊部隊の隊長であるUMP45か？

それとも、ただ同じ見た目をしただけの同型の人形に過ぎないのか

？

その疑惑が胸を渦巻いているからだ。

もしも彼女が俺の知っている【UMP45】でないのなら何も問題はない。問題はそうであった場合だ。

ということで、問題があつた場合を前提にしよう。彼女が45姉と同型の人形だつただけなら、疑つてかかつた俺の心が痛むだけである。

「それにしても、今凄い溜めなかつた？」

いきなり突っ込んできた：いや、それとも純粹な疑問か？

・・・彼女を45姉だつたとして、その任務は（おそらく）お偉いさんであるリナさんの護衛、或いは不審者である俺の監視・排除だろう。

とりあえずここをサラッと流さないと。

45姉に殺されるのは理想の死に方ランキングの中でトップに入りそうな勢いだが、まだ死にたくないからな。

ここで考え込むのは、彼女がどつちだつたとしても、不審に思われるだろう。

「ああ。引っ越してきた時に挨拶をして回ったはずだし、ここで暮らし始めて2週間くらい経つてるのに、ウエデリアに会つたのは初めてだからさ。

「そんなに生活リズムが合わないこともあるのかなって。」「なるほどね」私は時々、泊まり込みの仕事になることがあるから…会わないのも仕方ないわね。」

「へー、長期で泊まり込みの仕事かあ。どういうことをしてるんだ？」
「スクラップ漁りよ。放置された地区とか、軽度の汚染地区から使えそうな物資を回収するの。この前なんて、宝石屋の跡地から宝石を見つけることが出来たの！ラッキーだつたわ。」

そう語る彼女は、裏の顔さえ考えなければ、嘘をついてるなんて少しも思えないような笑顔だつた。

けれど。

ここにいるのは、なんの後ろ盾もない特殊小隊なんかの長をやつている人形、UMP45かもしけないのだ。

45姉の仕事が俺の監視だつたとすると、あの時に出会わなかつた彼女が俺の近くにいるのは、俺が【UMP45が404小隊の所属・隊長をしていることを知らない】前提であると考えられる。

……しかし、こちらは観測世界での知識なんていう訳の分からぬもので個人情報も真っ青なプライバシーをぶち抜いているのである。この世界がその通りだと限らないが、404小隊との接触の時を思い返すに、「あんまり」外れてはいなはず。

つまり、あちらの想定とは違い、俺は【45姉が404小隊だと想定して行動できる。】

これは、明確な情報アドバンテージだろう。

そういえば、45姉の公式グッズとしてまな板が売られてたが。実物は……

チラリと目を向けると「どうかした?」とニコリ、笑い返してきた。写真で見れば、可愛いのだろうが。

非常な圧を感じた。

笑顔とは、本来威嚇のための行動なのだという。

と、何処かで聞きかじった雑学を彷彿とさせるような、そんな笑顔だった。

「ああ。ちょっと前、ウエデリアに似た子に会つたことがあるのを思い出してください。親戚だつたりしない?」

「私には親戚なんて居ないよ。天涯孤独つてやつ。

それにして、へえー。女の子と話してる時に別の子のことを考えてたんだ。良くないよ、そういうの。」

9のことを引き合いに出してみたものの、サラッと誤魔化された。偽名を使ってくるくらいだし、それもそうなのだろう。

「そうだな。……答えにいくことを聞いてしまつたり、色々とごめん。」

「別に大丈夫よ。気にしない、気にしない。今の世の中じや、ありふれた話だしさ。」

「ありふれた話だとしても、配慮に欠けたことに代わりはないからさ。
悪いな。」

「トーゴつて、変に真面目だね。そんなに畏まられてもこつちが
困っちゃうわよ。」

緊張のあまり、ガツチガチに固くなつてんぜ？

それもそうだろう、目の前に憧れの人（人形）がいるのだ。

さて、こういう時に謝罪を撤回するのもそれはそれで相手に悪い氣
がするので、軽いお詫びをして手打ちにしよう。ガバへの対処が走者の腕、はつきりわかんだね。

「そうか……あ、そうだ。ウエデリアは今時間はあるか？それと、もう朝食は取つた？」

「時間は大丈夫よ。今日は休みだしね。

朝ごはん？まだだけど、それが？」

「なんだけど、朝食を作らせてはくれないか？

それであま、色々と手打ちしてくれると助かるんだが。」

「え？」

さて、どう来るか。

彼女が45姉として、俺の身元を探るなどの指令を渡されている
としたら。

対象と話せる機会を逃したりはしないはず。

なんで俺にお薬だしたり（意味深）、肉体に聞きにかかつたり（直球）
しないのかは謎だが。

それはまあ、健康診断と同じ類の【穩便な調査】の一環なのだろう。

この2週間のうちに幾らでも仕掛けるタイミングはあつただろし
な。

なら、こちらから情報を積極的に開示した方がいい。

古来より、尾を振る犬は叩かれず、ともいう。

相手方が俺なんかのどこにそんな興味を示しているか分からぬ
現状、とりあえず全部おつぴろげて神妙に待とう。

……つていうか。45姉とご飯を食べたい。うだうだ言つたが
ぶつちやけそれがメインである。

「それじや、お願ひしてもいいかしら？」

「もちろん、こつちから誘つたんだからさ。」

ヨシ!!（チエツクシート確認猫）

45姉とご飯だあああああ!!!

……

さて、俺の思惑通りに事が進んだ訳だが。

大事なことはただ1つ。

45姉（少なくとも、その同型機）が、俺の部屋に居る!!

ただそれだけである。

正直、生配信の時よりも緊張しているのが分かる。

俺の心臓の鼓動の音がうるさ過ぎて聞こえていないだろうか？
やばいよやばいよー！（出川）

こうなることが前もつて分かつてたら、もつと部屋を掃除しとくとか、いい感じのインテリアを買いに行つていただろう。

いま部屋にあるのは、扇風機・コタツ・机・やたらと充実したパソコン関連……しか、ない。

キッチンに行けば冷蔵庫もあるぞ！

こうなるなら、ペットロボットの1つでも買っておくべきだつたろ
うか？

……とてもじやないが、推しを招けるような状況ではない。

「今から料理作るからさ、そのクッショーンしかないけど、のんびりしてくれ。」

「ええ、どうも。」

ご飯に誘つたはいいものの、そんなに手先が器用な訳では無い。男料理という名の雑味がうま味みたいな物しか作れないものである。とりあえずスクランブルエッグかなと思い、殻がなく白身と黄身だけが個別包装で入っている人工卵を冷蔵庫から取り出す。

「そうだ、アレルギーとかはある？」

「ええ、ありがとう。私は人形だから、そういうのは大丈夫よ。」「そつかそつか、了解。アレルギーがないなら、花粉症とかにもかからぬのか？」

「人形のアレルギー？そんな話は聞いたことがないわね。」

「へへ、便利なもんだな。」

雑談の合間に調理を進めていく。

と、その最中。

「トーゴって、ファミリーネームはシドーだつたよね？」

「まあ……そうだね。」

「トーゴって引っ越してきたばかりだし、部屋にあんまり物がないのに、パソコン周りだけはヤケに充実しているのね？」
「趣味だからね、オンラインのとかよくするんだよ。」

「もうひとつ質問いいかしら？昨日、【話題】になつた配信者の410。

知つてる？」

(カンのいいガキは嫌いだよ……)

「へえ…知らないな。俺の名字にそつくりな名前だ。」「そうね、そつくりだわ。

……あら？この口ゴの着いた帽子は、「それはっ…………！」

料理から気がそれ、彼女の方へ目を向けたその刹那。

——俺は、敗北を悟った。

嵌められた。そう、彼女は帽子なんて持っちゃいない。

さつきのは、タダのカマかけだつた。料理中というのもあったのだが、あっさりと引っかかるつてしまつた……!!

これが、特殊部隊の小隊長の実力だと言うのかつ!?
勝てねえ、勝てねえよ……

今の気分は、高校生に負けた特殊部隊の隊長と同じものだつた。僕はヒロイン達の中だとおじさんが好きです（鉄の意志）

「それは～？何かしら？帽子自体は持つてるのね～。【シドー】さん？」

?

こちらをニヤニヤと嘲つてくる彼女。
猫じみた金の瞳を三日月のように湾曲させ、こちらを小馬鹿にしてくる彼女。

不思議なことに、敗北感の中で少し特別な感情を抱いてしまつていた。悔しい、でも感じちゃつ（略）

とりあえず料理を作り終わつたため持つていつたのだが、散々からかわれた。

さて、食べ終わつて直ぐに追い返すというのも申し訳ない（もつと

45姉（仮）と一緒にいたい）ので、お茶を出すことにした。
とりあえず、紅茶を入れる。

女の子には紅茶を出すと相場が決まつてゐるですわぞー！（お嬢様部）

俺は猫舌なのでアイスティーといきたいところだが、この時代になつて合成になつたとしても、ティー・パックはやっぱり熱湯らしい。いや、ただの紅茶じや気が引けるな……

合成ミルクに合成紅茶を入れた天然物一切不使用の人工ミルクティーにして……

それだけじゃありきたりだからもう一味変化が欲しい。

ネタ帳にあつたアレを作ろう。

ミルクティーにこれまた人工ココアパウダーを振つたミルクティー・ショコラ。

ココアはバンホーテンのものを使用しているのかな？（自問痴呆）

「粗茶です。紅茶しかなかつたけど、いいかな？」

「お気遣いどーも。あら、随分とオシャレなものを作つてくれたのね？……うん、味も良いわよ。」

「お褒めの言葉、恐悦至極です。お嬢様」

会話を交わしながら、俺は感動の海に溺れそだつた。この喜びを叫びとして体の外へ吐き出してしまいたいが、それは余りにも不審がすぎる。

立場的には不審者だとしても、実際に不審者にはなりたくないのである。俺は。

いや、だつてさ。

推しが、俺の入れた紅茶を、飲んでいる。

好きな人の体内へ俺が作つたものが入つていき、その活動や体の元となるのだ。

何故かいつも弁当を作ってくれる系ツンデレ幼なじみの感情が理解出来た。え、ちょっと怖い?……怖くない、怖くないよ（NU SK）

朝ごはんの時はそんなこと考える余裕がなかつたからな。今更、その感動に浸つてゐるという訳だ。

「…………お、おじょうさ、ま!わ、私が?え、え?きや、あつつ!
ゴホツ、ゲホツ

???なんか目の前の特殊部隊長様（暫定）がパニクつてらつしやるぞ。
人形もむせるのか……

今までの傾向からして、お嬢様つてのが効いたんだろうなあ
何でこんなに効いてるのかは分からなiga
ま、趣味は人それぞれだし、多少はね?

多分、これは偽物……というか、同型の別の人形だろうなあ。
あの45姉が、初対面の人間を相手にこんな感情を表に出すだらう
か?いいや、出すまい（反語）

さつきの力マかけは、かなり手の込んだものだつたが、これはこの
型の人形のメンタルモデルに特有のものなのだろう。
そう考えると、気がだいぶ緩んだ。
や、いくら推しでもスパイ（ガチ）相手にしてたら怖いでしょ。
モンハンならティガレックス好きな俺だけど、もちろん現実じや会
いたくないし。

この子は45ちやんだな。ちやんだちやん。
45姉の筈がない。

そう。

分かつたならば、やるべきことはただ一つ。
自分が元々そういう資質があつたのか。

はたまたこの異常な環境が目覚めさせたのか。

俺は最近、ちょっとしたやばい趣味が出来てしまつたのだ。

それは……

女の子をドキドキさせることである（精一杯のオブラート）

前世じや滅多な事じや見ないような美少女が、俺なんぞを相手に焦つたりテンパつたりする場面をこちらに来てから何度も拝んだのだ。

ちょっとくらい趣味が歪んでも仕方ないね（ノンケの屑）

と、いうわけでだ。

むせている彼女の背後に回つて、背中を優しく摩つてあげることにした。

後ろに回つた際、髪の隙間から見えた白く艶めかしい首筋にドキリとする。

背中の美しいカーブに手をかけて、そのまま下ろす。同じように、

ゆっくりと手をあげていく。

手触りが良すぎる……めちゃくちゃサラサラやんけ……それに、手から伝わる体温がちょっと高めで完璧だ。抱き枕にしたら凄い安眠出来そう

「どうされました？お嬢様。」

「そ、その……お、おじょう、さまつて、何？」

「言葉通りの意味ですか？」

めちゃくちゃテンパつていてる上に、ただでさえ可愛らしいお顔を真っ赤にしている姿は大変可愛らしいものがある。

「なんで、急にそんなことを……それに、口調も、またかしこまつてゐ

し……」

「紅茶を飲むウエデリアが様になつてゐるよう見えてな。そんなにびつくりするとは思わなかつた。『めんな?』

「様になつてるつて、何よ?……。それ……」

からかいは関係なく、事実としてラフな格好としても、紅茶を飲む45ちゃんは深窓の令嬢といった佇まいだつたのだから。部屋と食器が役不足（誤用）な感じが否めないが。

顔を近づける。背を撫でていたから、かなりの至近距離には元からいたのだが。

上半身を傾けて彼女の方へよつていく。

「な、何よ?」

もつと、もう少し近づく。彼女からフワリと広がる甘い香りが強くなる。

「ねえ、なんなの?ちょっと、何か言つてよ……」

互いの距離は、既にお互いの息がかかるような距離だ。

「あの、ね、ねえ?どうしたの?」

一旦、止まる。彼女の顔を見つめる。人工物だからだろうか。シミひとつ、荒れひとつない美しい顔が視界いっぱいに広がつている。語彙がないため言葉には出来ないものの、人間離れした美しさだ。

先程はイタズラに歪んでいた瞳も、今では気恥しさからか拳動不審に揺れ動いている。

「う。あの、ちょっと。ね、ねえ。」

「ウエデリアは美人だしさ。姿勢もいいから、紅茶を飲んでもお嬢

様みたいだなつて。」

ドタンツ!!ガシャン!!パリン!!「ひうつ!!」

なんの音か、お分かりだろうか。

45ちゃんが、俺からダツシユで逃げ出して道中にあつた机とコップをなぎ倒して行つた音である。

彼女はまるで猫のように俺の対角まで逃げてしまい、こちらの様子を伺つていた。

……効果は バツグンだ !!

顔マツカオな45ちゃんマジかわいいな。

「こ、こんな厳つい私が？び、美人？さ、流石にその冗談は笑えないんだけど……」

「いや、本心だが？」

「え、その、でも……私、見てわかると思うけど、労働用の人形だから、ゴツく作られてるし……お嬢様なんて、そんな……」

労働用だからゴツく作られている？

……あー、確かに肉体労働を任せた人形はゴリゴリに作るよな。ターミネーターとか筋肉モリモリマツチヨマンの変態だし。

とはいえる、俺からしたら本当に45ちゃん……というか、ウエデリアちゃんは可愛い。それこそ文字通り、「人形」にしか見えない。

そういうえば、人類種が違うんだつた。そこら辺の美的感覚は違うのかもしれない。

俺、イケメンすぎるゴリラ以外もだいたいイケメンに見える。

いや、フクロウの美貌とかは分からなくとも、全部可愛く見えるこの方が感覚としては近いのか？

ふむ。この世界の感覚からしたら道行く人は美人ばかりじゃないのかもしないのか。またひとつ賢くなつてしまつた。

が、そんなことはどうでもいい。

「背筋を伸ばしながら紅茶を飲む仕草、俺にとつては1番可愛らしく見えるよ。」

だつて、俺にとつては可愛い人形にしか見えないのだから。

「お、お、お……」

お?

「おじゃましまひたつ!!」

ドアまで爆速で逃げられた。

後に残されたのは俺と、机が吹き飛びコップの倒れ、嵐の過ぎ去ったあとのような部屋だけだつた。

最初はああ思つたものの、物が少なくて良かつたか……

データ。

・どこかの薄暗い路地裏にて。壊れた通信機が最後に送信した音声

【任務】の方は順調よ。【対象】と接触したわ。

こちらに不信感も持つていみたい。まったく、香氣なものね。

・こちら【ジエロニモ】。随分と可愛い悲鳴だつたじやない?隊長様。いえ、お嬢様の方がいいかしら?……なんで私のコードネームはこんななのなのよ…(ボソッ)

・こちら、【レーヴェ】!リンクス姉はやっぱり可愛いねえ!

ミシミシ

・……ん?なにい?あ、【カツツエ】だ。

おはようう……ここに居るのは珍しいね……。

どうしたの？え……そんなこと言つたら怒られちゃうよ。大丈夫？保証する？責任持つてくれる？

え、ラズベリーアイスもくれるの？……わかつた、伝えるね……。

(ゴニヨゴニヨ)

こちら「ベルーガ」、お嬢様にお伝えしたいことがあります。

「……お嬢様が大変立派に育つてくださいり、私としては歓喜の涙を偲ぶのに精一杯で御座います。これからも尚いっそう、お嬢様が淑女として活躍なさることを、私は心のそこからお祈り申し上げていますよ。」

バキッ!!

・あつはつはつ！ありがとう、ベルーガ。

こちらカツツエ。まさか、あの泣き虫の4グシャツ!!

……が……お嬢……

……

幕間小話 UA1万回感謝短編

原案という名の学パロ「目が覚めたら知り合いが美少女に置き換わっていた件について」

『ふわあ～、昨日の配信はドン勝に拘りすぎた……今日は【活動】もあるのに調子に乗り過ぎたわ。

まだバチバチに眠いわ…………こんな感じや授業中に寝ちゃう。びえん爆笑』つと。』

陰の者から絶大な支持を誇る我らがSNS、【呴いつたー】にそう呴きながら通学路を1人歩いている俺。イケメンなカリスマ超絶人気高校生の実況者、祠堂透吾だ。

はい嘘ー!!!

(Photoshopで「あくうせつだん」すると)イケメンなカリスマ超絶人気(配信者な歳の近い叔父の動画に偶に出演する)高校生の実況者(になりたい)祠堂透吾です。

大学生になつたらバイトして機材買って俺も配信者になつてやる。目指せ配信マスター!!

昨日はみんな大好きバトロイもののアプリで、【ビクロイするまで眠れま10】とかいう叔父の企画に出演したのだ。

親戚とはいえ、プロの仕事をタダで見るどころか出演・指導まで受けのことの出来る貴重な機会であり、出ることになった。将来の夢のためにも。

とはいって、ビクロイの道は果てしない。特に、ゲームが特に上手いとはいえない叔父との協力となると、だ。

二重争(デュオ)イベントという、コンビで挑む特殊な大会に参加していたのだが……叔父の腕故に非常に苦戦を強いられた。朝の4時までそれは続き、いい加減に寝たい俺が叔父を延々と囮に

して片つ端から撃ち殺してゲームセットに持ち込んだ。

あの時の俺は、某バトロワの神をも悪魔をも上回る力を得ていたに違いない。スプラしてたら15キルとかしてるレベル。

さて、その反動で動けない体を無理やり引きずり学校に向かっているわけだが、さつきからほとほと違和感を感じている。

それは…いや…なんかさ、うちの学校はこんなに女子、というか美少女多かつたつけ?というものである。

我らが母校、【私立鷺獅子学園】は指定のワイシャツさえ着ていれば、ブレザーだろうがセーラーだろうがネクタイだろうが、拳旬の果てにはパークーだろうが自由というとんでもない規則の学校なのだが、女子生徒の数は少なかつたはずなのだ。

しかし、通学路を歩いていると、我が校のワイシャツを着た女子、女子、女子、女子!!

しかし、その誰にも、見覚えがない。

そしてこれが一番大事なのだが、何故かみんな美少女!やつたぜ。

まさか、大量に転入生が来たとか?現実、それくらいしか思いつかん。寝不足なら尚更だ。

もしこのレベルの転校生が大量に来てたら、みんな涙を流して喜ぶだろう。特に運命の出会いを求めてるガバの奴とかな。

重くダルい頭を何とか背骨で支えながら、体を前へと進めていく。これで放課後に【活動】するのはきついすね……やばいっすよ!

やつばーい!! (RD)

「トーゴ、おっはよー!」

ファツ?!ビックリした。見知らぬ誰かの声と共に背中を叩かれる。頭がガンガンと揺さぶられた。振り向く。

「……」

「な、何よ。そんなんにジーツと見て…照れるからやめてって言つたでしょ…」

そこには、縁がかつた銀髪ツインテールの美少女がいた。しかも、その胸はあまりにも規格外すぎた！

おお、読者よ見よ！ゴウランガ！ワッショイ！カラダニキヲツケテネ！！興奮した地の文の口から、思わずヘツズめいた乱癡氣なコトダメが飛び出す!!

一目見ただけでフジサンと見紛う、或いは威圧感すら伴う大きく膨らんだ美少女の夢に触れたら、それだけで実際キンボシ・オオキイだ！

今ツンデレみたいな発言してなかつた？いや、これだけの容姿なら許されることではあるが。

だがしかし

「誰？」

「えつ、私のことを忘れちゃつたの？まさかの記憶喪失？そういう悪戯？」

「えつ？俺の記憶にあんたみたいな奴は居ないけど」

「えつ……い、いま、なんて？」

「俺の記憶にあんたみたいな奴は居ないけど。」

「いや、それも気になるんだけど。私の事、なんて言つたの？」

「美少女」

「えつ」

「えつ」

これだけの美貌なら言われ慣れてると思つたが、慣れてないのだろうか。固まつてしまつた。

本当に誰だこいつ…？

同学年どころか、学校全体、いや地元で知られててもおかしくない容姿とお胸である。

「トーゴとウージーが仲良いのは知つてたけど、通学路で朝からイヤつくことがあるく？」

「いいいい、いやついてなんかないわよ！イクイク！」

後ろから、再び可愛らしい女の子の声が掛けられる。ちょっと期待を持ちつつ振り返ると、やはり美少女。

金髪のロングヘアを流した、小柄で赤い目の少女が立っていた。
…………つて、まじ？

思わず、銀髪ツインテールの女の子の方へ質問する。

「え、お前って牛居なの？お前いつから美少女になつた？」

「びつ、美少女！？つて、何よその褒めてるのか貶してるのでよく分から
ない言い方！前からこの顔よ!!」

俺の記憶の中の牛居は美少女でもないどころか、まず女の子ですら
なかつた。牛居は……あれ、どんなやつだつたつけ？
あだ名がウージーだつたことは覚えてるんだけど、それ以外は思
い出しが出来ない。

その発言から考えると、まさかこの金髪ロングの美少女は…？

「もしかして、イツキュー？」

「ボクはイクミだけど……どうしたの？」

ボクつ娘?!?!馬鹿な、絶滅したはずじゃ……何故かウージーに続き美
少女化したイツキューは、男だつた時と同様に属性が山盛りのよう
だ。

名前は確か……郁海（イクミ）・ブローニング・育江（イクエ）、特
技は茶華道で好きな番組は徹子の部屋なハーフだつたはず。その名
前からイクイクやイツキューとか呼ばれていた。アプリの名前はだ
いたい1919M。ちょっと卑猥だよね。

まさか、俺の友人がみんな美少女になつてしまつた……？
いやいや、まさかそんなことあるわけないだろ。寝不足で頭がバ
グつてるだけだ。

授業中にちゃんと寝れば治つてゐるかな！

「祠堂、授業中に眠るな!!」

ダメでした!!二重の意味で。アツー!!とんでもない激痛が走る。強かに足を打ち付けられた痛みで目を覚ました。

顔を上げると目の前には、黒いロングヘアをバラつかせ、ピッチリとしたスーツを着こなし、杖を握っている女性の姿が。特徴的な前髪には、青いメッシュが入れられている。

今の時間は英語である。つてことは……「返事は？」
「はっ、はい！寝ていてごめんなさい!!」

いや、性別が変わっていても、この厳しさが変わることは無い。1発でわかつた。くつつつつそ！厳しい!!我らが誇る英語教員、「ジエリコ先生」である。

お、ジエリコ先生も名前まで覚えてるな。

ジエリコ先生は最初の授業の自己紹介の際に、シンジ・エリコミとやたらとネイティブに発音をしたことから「ジエリコ先生」となったはず。

相変わらず、それくらいしか思い出せないが概ねの性格は変わつてないのだろう。変わつていないとということは、だ。

「授業中にも関わらず、キチンと休憩を取つたことだ。祠堂、やる気十分あるな？」

「は、はい。」

「よろしい。それでは、p45の全英文の音読を頼む。」

「分かりました。」

これだ、ジエリコ先生は非常に厳しい。信賞必罰の具現であり、生

徒に対しても公正明大・至公至平なお方ではあるのだが、そこに甘さはない。

とはいって、非常に生徒思いであり、相談にはキチンと乗ってくれるのだが……こと、授業となると話は別。途端に鬼教官と化すのだ。やんなるね。

かつて音読を拒否した勇者が一人居たが、どんでもない量の課題でメンタルをバキバキにやられていた。うーん、この。

「……はい、よく出来ました。席についてください。次は気をつけるように。」

「はーい。」

そんなこんなで、生徒どころではなく先生も入れ替わっていることに気づいた午前の授業は終わり。昼休みとなつた。

「つてわけで、目が覚めたら周りが美少女揃いになつてたんだけど俺の頭がおかくなつちゃつたかな? わーちゃん。」

「あんたの頭がおかしいのは前々からでしょ。」

俺はベストフレンドフォーエバー（永遠かは知らん）のわーちゃんとだべりながら弁当をつづいていた。

わーちゃんとは入学してきた時に隣の席であつて、自己紹介が終わつた後に話しかけたら「名前で呼ばないでくれ!」とファーストコンタクトできてきた強者である。

だからあだ名を付けた。本名は忘れた。そんな友達。

「はー、流石わーちゃん。安定感抜群つすね。美少女になつてもいつも通りのまま安心するわほんと。」

「何よそれ、バカにしてんの?」

「いや、褒めてる。さすがは俺のベストマイフレンド。やっぱり話してて一番楽だね。」

「は？……俺のとマイで被つてるじゃないの。そんなんだからジエリコ先生に絞られたんじゃない？」

わーちゃんはツンデレである。ウージーも結構なツンデレキャラだが、あいつはデレ要素が強い。その点、わーちゃんはツン要素も中々にあるので刺激的だ。

「それもそうだな。それはそれとして顔が赤くないかわーちゃん？」

「こつ……これは、その……太陽光の散乱と屈折よ！」

「それさつきの化学でやつたやつじやん。夕日が赤い理由。ま、覚えたての言葉使うの楽しいよな、分かるぜ。」

「…………!!」

「相変わらずのツンデレつぶりで安心したわ。わーちゃんといふと安心できるぜ。美少女になつても親友でいような。」

「…………!!」

「さつきと違う理由で顔が赤くなつてるのは分かるぞ。じゃ、俺購買でシーツトアイス買つてくるから。」

わーちゃんが照れ屋でツンデレなのも変わつていない、と。なるほど。大元の性格は変わらないと言う俺の理論は間違つていないうだ。ちなみに、こっちのわーちゃんはお胸の大きな赤髪ロングだった。

ちよつとロングヘアーモくない……？

そうなると問題は放課後だな……今日は、【活動日】だし。

さて、一日が終わり、恐怖の……というか、いつもなら天国な時間がやつてきた。

それは……俺のメインな趣味である【サバゲー活動】だ!!

俺は趣味でサバゲーをしており、今日はそのマッチの日だつた。

学生オソリードという、需要があるんだかないんだかよく分からんイベントなのだが、割と根強い人気を誇っているのが不思議だ。

俺は特定のチームには属さず、その場の流れとノリと雰囲気と人数

差を見てやつている。

その中で、俺が特に仲の良いチームが2つ。

名前の通り、AR-15系列の銃で統一された四人兄弟のグループ【AR小隊】。血はみんな繋がってるとか一部繋がって無いとか前にふわっと聞いた。複雑な家庭なのね。

と、

オカンいいんちょ・ねぼすけ・要領のいい猫かぶり・猫かぶりの弟で天真爛漫陽キャイケメンモテモテ彼女はいないいつもニコニコ性格天使コミュ強モンスターの謎メングループ【404】だ。綾野剛と星野源主演のドラマみたいな名前してんなおまえら。

学生オンリーなのを考慮してプライバシー保護の観点から、皆サバゲーハウスではあだ名で呼ぶようにしている。

2チーム：というか、そこでは大体の人は愛用している銃で呼ばれている。俺？俺は配信者（見習いの）410として自己紹介したから、シドーと呼ばれている。

そう。この人たちが女の子になつていたら非常に困る。なんでかつて？（女の子を銃で撃ちたくは）ないです。

心の中の男女平等パンツァーが男女等しく撃ち殺せ!!と叫んでいるが、それは俺には難しい。少なくとも、咄嗟の判断に遅れが出るだろう。

それは、相手に失礼に当たる行為であるし、俺自身、せっかく参加したいなら長く生き残りたいし多くの敵を倒したい。

だから、今はあまり参加したくないが、この気を逃すとテストやらなんやらで2月は無理そうなのだ！

そんなことを考えていると、あつという間にサバゲーハウス【グリフィン&クルーガー】についてしまった。

ええい、ままよ！入らなければどうにもならない!!のは分かつて居

るが、決心がつかずに扉に手をかけたまま悩むこと数分。

深呼吸を何度も挟み、扉をいざ開けん！としたその時。

「おいおい、なんでそんなところでボーッと突つ立つてんだ？ 大丈夫かい？」

ガーンだな、出鼻をくじかれた。

そう、横から声をかけられる。ニヤニヤしながら言つてきたのは、片目を眼帯で覆つた少女。長い黒髪を後ろで編み込んでいる、金のメッシュのこいつは誰だ？

いや、今までの傾向から考えろ。雰囲気は微かに残つてゐるはず。
…………ヨシ！！

「その距離感がかなり近くやたらと人を弟分扱いしおちよくつてこようとするが、根底にある優しさから結局のところ悪戯一邊倒になりきれずそれとなくカバーしてしまふ性格！さてはそこな美少女、貴様はM16だな！」

「ひょえっ！」

会つてわかつた。見てくれこそ美少女になつたものの、根本的な人格はあまり変わつていないように感じるし、気安く接することが出来る。

なら、話は簡単だ。俺はいつも通りにやれる。

「気が楽になつたわ。ありがとなM16。じゃ、先入つてるぞ。」

「そう、一声かけてから中に入る。」

「彼女は固まつてしまつたようで、返事はない。沈黙は肯定、はつきりわかんだね。」

扉を開け、店に入る。壁一面にズラつと並べられた銃、銃、銃。これを見るといつもの場所に来たつて感じがする。テーマパークに来ただみたいだ。テンション上がるな〜！！

さて、プレイスペースの方へ向かうとしよう。

プレイスペースの準備室に繋がる扉を開ける。

中に入るなり、大声で争っている声が聞こえてきた。

「そ、そんなことないわ！シドーさんはこっちのチームに入ってくれます！！」

「へ～？随分と自信があるのね、隊長さん？でも、今日は私たちしかないのよ？彼がどっちに入るかなんて分からぬじやない？」

「シドーは私たちと一緒に戦つてくれるもん！」

「えー、シドーと私たちは家族だよ？こっちに入ってくれるつて！」

黒髪ロングヘア＆銀髪ロングヘア（どっちもメッシュ入りペア）VSブラウングレーのロングヘア＆茶髪のロングヘア（胸囲の格差社会ペア）が何やら言い争っているのと、それを傍目にのんびりとしているグループだ。

え、何だこの連中。やっぱりロングヘア率めちゃくちや高くない……？

「……正直どっちでもいい。ねえ416、寝てもいい？」

「始まるまでは寝てもいいわ。」

「ありがとお～、416。……あ、枕になつてくれない？」

「嫌に決まってるでしょ。アンタには地べたがお似合いよ。」

「あなた達はいつも仲良さそうね。416にG11」

「え、そう？だつてよ416。だから枕になつて。」

「何度も頼まれてもお断りよ。AR-15も煽るのはやめて！」

お互い名前を呼びあつてるから誰が誰かは分かつた。確かに、面影というか原型というか……そう、雰囲気（アトモスフライア）に似通つたところがある。

俺は、思わず、呟いた。

「目が覚めたら知り合いが美少女に置き換わっていた件」

If もしもシドーくんがあの場所で目覚めたら

泡が浮かんでいく音だけが俺の頭を木霊している。

「バイタル、安定しています。」

「ふむ、プロトコルを ε から β へ変更。濃度はそのままで。」

……なんだ？ 周りから声が聞こえる。

オレは……いつたい……

「演算処理機能に変化が見られます。思考活動を開始したようです。」「よし、このままプロトコル β を続行。培養液は保全濃度から活性濃度にまで上昇させて。」

「了解しました」

なんだ？ 演算？ 処理？ 培養液？

そういうえば、なんだか体が重い様な気がする……

うつすらと目を開け……られない。まぶたを糊づけでもされてしまったかのように、瞳を開くことが出来ない。

「対象、更に演算処理機能部が活性化！ 機能回復の目処が立ちました！」

「うんうん。いい傾向だ。それじゃあ、ここからは濃度を少しづつ上げて様子を見よう。」

「了解です！」

「言われずとも分かつてると思うけど、酸素濃度はそのままでね？」

「あつ」

「えつ」

えつ……

「ぼつ！ あれ？ 息が……息が出来ない！」

やばいやばいやばいやばいやばい！ 体を動かそうとする、少し重い

気がするが、そんなことに構つてられない。

全力で走り出そうとして、俺は…目の前のガラスへと激突した。正面からぶつかつたため、鼻に強い衝撃が走つた。

目がチカチカする……うう…なんでこんな、ことに……

待てよ、目が？ 目を開ける。目の前の風景全てがボヤけている。が、俺の目が悪いのではない。

なんと、俺は謎の縁がかつた液体の中に漂っていたのだ！ 如何にも悪のマッドサイエンティストの本拠地でキメラとか浮いていそうなシリングジの中に、俺は居た。

その目線の先には、2人の女性の姿が。

矢も盾もたまらずガラスの壁を叩きまくる！ ヘルプミー!! ヘルプミー!!

1人の女の人が、叩き壊さん勢いで手元の機械のボタンを押す。すると、ガラスが徐々に解放されていき……!!

空氣だ！ 助かつた!! 荒い呼吸を沈めにかかる。

ヒツヒツフーヒツヒツフー…3分吸つてー、3分吐いてー
ヨシ!!

何とか落ち着きながら顔をあげると、「けもみみ？」

なんか、ケモ耳をつけた、マッドサイエンティストみたいな人が、目の前にいた。え、ケモ耳？

訝しがつている俺へ何かを言おうとしたのだろう、そのケモ耳サイエンティストが口を開いたその時……「なつ、何してるのでルシカ!?」 プシューという煙を吐くような、おそらくこの近未来施設の扉が開かれたのであろう音と誰かの驚く声。そして飛んできた、何か。

よほど射手の腕が良いのだろう。それは2人の女性の脳天を、的確に穿つた！

「おー。やつぱりM4も隊長だなー。やる時はやるもんだ。」

「今、の早撃ち凄かったねー！あはは、ペルシカのされちゃってるよ。

助手さんも。」

「3人とも、そんなことよりもこの男性に話を聞くべきじゃない？」

「そーだね！ね、貴方の名前は？」

銀髪のとんでもない美少女がこちらの顔を覗き込んできた。

銀髪に赤いメッシュを入れた、おそらく人生で1度も話したことがないであろうレベルの美少女からの問いへ、どぎまぎしながら返事をしようとすると。

しかし……思い出せない？俺の、名前は？なんだつけ？家族は居たか？友人は居たか？恋人は居たか？

どうやって育った？どこで育った？全て、分からない。
だが今の俺にとつてそれよりも大事なことがあつた。

「あの、服とかありませんかね？」

俺が全裸だということだ。女性の前で全裸、これはお互いにとつて非常に宜しくない。

とりあえず、何か着たい。

「えっ！あ、す…すすす、すみません！」

「うーん……研究室だし、替えの白衣とかないのかな？」

「あつたわ！替えの白衣よ!!」

「A R — 1 5、でかした!! とりあえず、これを着てくれ。」

「ありがとうございます。」

頭の中で疑問が答えを求めてグルグルしている。

まず、ここはどこか？俺の記憶はどうした？何だこのちょっと見覚えのある武装美少女連中は？研究者の目的は？etc etc……

とはいって、俺から口を開くにはちょっと状況が不明すぎる。このどことなく見覚えのある武装美少女たちは俺の存在 자체を知らなかつたっぽいし、彼女たちから時折、チラチラと視線を感じるため居心地

が悪い。

緑の子はこちらをチラチラと気にしており、青い子はあまり気にしていないのかズツシリと構えている。赤い子は興味深そうにこちらをガン見しているものの、この妙な空気を感じているのか話しかけようとはしてこない。

黄色い子は……この空間をツマミに酒を飲んでいる。何だこの空間。やばいやばいよ〜〜!!

今倒れている研究者たちが起き上がるまで待つしかないか……

(10分後)

「はあ、酷い目にあつたよ。」

そう語り出すのはこれまで見覚えのあるケモ耳の研究者。「まさかいいきなり撃たれるとはね。私が男性用プログラムにでも引っかかったかな、M4?」

「だ、だつて裸の男の人が倒れてて……そこでペルシカがいたから……その、危ないって……警告が……」

「ふふ。まあ、構わないよ。さて、君。なんて呼べばいいかな?」

「すみません。実は、記憶が無いので、なんと言つたらいいか……」

「記憶が無い、か。ちょっと待つてね。」

部屋から研究者っぽい人が出ていつてしまつた。また、あの気まずい空間に逆戻りか?

「あーっと、そういうえばさ。」

緑メツシユの彼女に話しかける。

「は、はい……」

「方法が方法とはいえ、俺を助けようしてくれたんだろ?ありがとうね。」

「いえ……気にしないで、ください。」

「え、えっと……そ、そつか。」

「気まずつ!!これを切つ掛けに話そうと思つてたのに、まさかこま
で物静かな子だつたとは。

さつきのやり取りを見るに、知り合いとか内心はテンション高そ
なものが……

「あの、服を持つてくれて、ありがとうございます。」

諦めるな!とおりあえず青いメッシュのピンク髪の少女にも話しか
けてみよう。

「お礼はいいわ、当然のことをしただけだもの。」

「アッハイ。」

が、ダメつ!!

どーすつベドーすつべ、早く帰つてきてくれ!ケモ耳研究者!!

プシューという氣の抜けた音と共に扉が開き、ケモ耳研究者さんが
帰つてきた!ナイスタイミング!!

「さて、記憶喪失者くん。これは多分君の持ち物だと思うんだけど、記
憶にあるかな?」

そう言つて差し出されたのは、使い込まれたあとのあるリュック。
「あけてみても?」

「ええ、どうぞ。」

中を確認してみると、プロテインバーが9本に未開封の水の500
ミリペットボトル、あとは教科書にノート、筆記用具、財布、身分証
など、一般的に持ち歩いてそうなものばかりだ。

それと……何か変なノートがひとつ。

ん?身分証!?とおりあえず、身分証を確認する。

「祠堂 透吾、それが俺の名前か。」

しつくり来た。うん、これが俺の名前なんだろう。

それ以外では、変なノートを確認した際に配信者だつたことを思い
出せただけであり、特にわかることはなかつた。

「うーん……多分、これは僕の持ち物だと思います。名前もしつくりりますし、自分のかと。あと、配信ノートも自分のものですね。」

「ふーん。なるほど。……ねえ、君。そのノートに書かれていた配信者っていうのは、ネットを用いた個人で行う宣伝者ってことでいいのよね？」

「ええ、そうですね。」

それはそうだが、どうしたと言うんだろうか。

「君は今、記憶もない、仕事もない。そして何より、身分もないんだ。そこでひとつ。美味しい話を紹介してあげようと思つてね。」

「え！なんでしょう？とりあえず、話だけでも聞かせていただけませんか？」

美味しい話？この状況からどんな話が出てくるんだ？

自分に何も無いなんて言われずともわかっているし、そんな人間が美味しい話にありつけるほど世の中は優しくない。実験体になる代わりに、とかか？

「君にはね、私たちI・O・Pの宣伝を行つて欲しいの。公式配信者としてね。」

「はい？」

「もちろん、開始前にテストは行わせてもらうよ。けど、それに合格したら君は晴れて仕事と身分を手に入れられる。戸籍に関しても、此方で用意する準備があるわ。」

「こつ、こつ、こつ、こうしき!?企業の?公式?これは夢?それに戸籍まで!?

「君には幸いなことに、夢でも幻でもないよ。さて、受けてくれるかな?」

?

……ええい、こうなつては仕方がない！他に生きていくための方法も分からぬし、ここは取り敢えず話を受けよう。更に言うなら、もしも本当に公式配信者になれたら……!!

「勿論です。よろしくお願ひします。あの、本当にありがとうございます。」

「本当にありがとうございます。あの、本当にありがとうございます。」

ます！」

「お願ひしてるのはこちらだよ。受けてくれてありがとうね。」

話がひと段落したところで、一人の女性が入ってくる。

「あの、博士。お話中にはすみません。タブレットの解析が終わつたらしく、念の為に持つてきました。」

「そつか。ありがとう助手君。」

とりあえず君、これも君のものだと思うんだけど、どうかな？」

「ありがとうございます。見てみますね」

指紋認証は無事クリアされた。これが無理だつたら、パスワードを忘れていた俺には開けられなくなるところだつた。やつぱり俺の物のようだ。

中を見直してみる。写真や連絡先を見ても記憶が戻ることは無い。しかし、ひとつアプリに目が止まつた。

「あ、ドルフロジyan。」

思いつ出した！綴る!!（WorldBreak）

ドルズフロントライン。俺の好きなアプリであり、内容は思い出せないが、キヤラは思い出した。

あれ？ もしかして今の状況つて……？

いやいやいや、有り得ないだろう。

頭に浮かんだ疑問を否定するために、周りを見渡してみる。

黒髪ロングに緑のひと房。2人いる俺の誓約相手の一人。主人公であるM4A1。

ピンクがかつた銀髪に青いライン。何故か社名を偽るコルト（社名）という名のST（社名）—AR15。

銀髪に鮮血の一筋。明日な方舟にそつくりさん（元デザ）が居るM

4 sopmod2。

眼帯に編まれた黒髪。ひとつ光る黄色い筋が特徴の超有名銃M1

6。

ケモ耳研究者ことペルシカリア。

あつ、ふーん。（察し）そういうことが、完全に理解した（してない）衝撃の真実を見抜いてしまい、正気度判定或いはショックをぶちかまされた俺の意識は、再び遠ざかつて行つた。

そこはパソコンの明かりしか光のない、真っ暗に染まつた研究室。1人の研究者が、自ら的好奇心を満たすための計画を練つていた。

まさかこの施設で如何なる手段を用いても、解析できないタブレット機器を持つてゐるとは。本当に君はなんなんだい？

興味深いよ。

「人形くん」、君はいつたい何を見せてくれるのかな？」

何故、ここまで人に似せられている？

何故、ここまで精巧な中身であるにも関わらず…………

ああ、本当に興味深い。

そういつてその研究者は、泥水のゞ」ときコーヒーを飲み込み。再びキーボードとアルファベットの群れへと意識を傾けた。

配信2回目【死にゲー実況編】

第11話 実況者410、暁に死す

ズブリ。

薄らと血に濡れ、幾度となく煌めいた白刃が、とうとう自らの前で踊り、逃げ回る獲物へと食いついた。

哀れな獲物は、思わず顔を自分の腹へと目を向ける。彼には、焼きごてのようになまく、赫く熱された槍が突き刺さり、周辺の肉を焼いているのが目に映つただろう。

肉が焼いた時のような、どこか香ばしい臭いがしないのは不幸中の幸いと言えるかもしれない。

が、しかし。

それに動搖してしまつたのは疑いようがない。

この死闘の最中に、集中が切れてしまつたのは……文字通りの致命傷と化した。

——腹へと突き刺された槍が引き抜かれるのを、辛うじて感じた。

そこから来る吐き気を抑え込み、無理やり目の前の相手を睨みつける。

走馬灯の1種、とでもいうのだろうか。高速でこちらへと迫つてくる槍の先端が、ゆっくりと大きくなつていくのが目に映り……。

俺の頭部を、穿いた。

「あー!! またやられてしまいました!!

【無辜の守り手 バースティト】強すぎない? 何度死んだの俺? 第2形態にすら辿り着いてないよ? これが最初のボスとか会社テストプレイしてないだろ!!」

そう。俺は今、実況中である。

実況しているソフトは【The DREAM Quest】

名前の通り、ファンタジー世界を舞台としたアクションRPGだ。いわゆる死にゲー。

剣と魔法だけでなく、弓や銃や大砲などもあるらしい。

未来の世界だけあって、SAOやアクセルワールドのようなVRゲームがあつたのだ。

そういうえば、ストーリーとか訓練でもちよこちよこ言われてたな。

……こうなつたのには、もちろん経緯がある。

食料が貰えたら嬉しいなと思い、栄養ブロツクや水を、大型通販サイト「T a m a z o n」の欲しいものリストにぶち込んでおいたのだ。ネタとしてVR機本体（10万程）を入れておいたら、何故かほしい物リストのVR本体と、プレゼントとしてVR実況用の機材とのソフトが贈られてきた。

荷物を受け取った俺が思わず宇宙猫になつてしまつたのも、仕方がないね。

ちなみにメッセージカードには、「いつも見ています・⑨」とだけ書かれていました。

ありがとうございます!!

俺がこの世界での価値観を見誤つて居たのだろう。

前世だと、超人気な人は何万ものスパチャ連投されてたとはいえ、それは1部のトップ層の人達のみだ。

こんなものが配信を一回しかしていない奴に送られてくるのは完全に想定外だつた。

しかし、貰つたものは貰つたもの。

本来なら雑談か無料ゲームの実況にしようと思つていた所を変更。せつかくだしプレイすることになつたとさ。

時間としては、午後の3～4時。

何故そんなに過疎つてる時間帯にするのかと言うと、あまり人の多い時間帯だと人が入りすぎてしまうと思ったからである。

人に見てもらえること自体は有難いことこの上ないが、乳首事件の衝撃しかない俺を見に来る人は事件が風化すると共に減っていくと思う。

なので、スパチャもなく広告も付けていない今の視聴者を増やすよりも、細かくコメントを拾つていき将来的な視聴者を増やしていくたほうが良い。と、判断したのだ。

それと、この時間帯に動画を見ているのは時間に比較的余裕のある学生が多く、学生のファン層は時間がある分だけ動画を多く見てくれる。ということもある。

そういうことで現在配信中なのだ。

……うん。やっぱり、というか、案の定、俺が死んでいる間に大幅に視聴者が増えている。

有難いことに、前回から続けてきてくれている人もいる。こういう人を逃してはならない（戒め）

e : 弱すぎるけど可愛いねww

モロカク : 頑張つてください！

a : さつきよりは耐えれましたね

k : 結婚してくれたら楽な倒し方教えるよ。

M：下手くそナメクジ……笑

カツツエ：初見です、ライオンモードまで惜しかったね！

猫丸：いい戦いしてたにゃ！

スコ p：躲す時、少し大ぶりじゃない？もうちょい動き少なくても
躲せると思うよ。

『はい、皆さんコメントありがとうございます！初見の人も、見に来て
くれてありがとうございますね！

モロカクさん、久しぶりです！

歌は練習してるので、現在録音中です。もうちょい待ってくださいね。

猫丸さん……ですかね……今まででは一番体力を削れましたし、いい
勝負したと思うのですが……

スコ pさんもアドバイスありがとうございます。次は意識してみ
ますね。

……Mさん。あなたを訴えます！！理由はもちろん、お分かりですね
？あなたが僕の、その、動画をSNSに挙げたからです！

覚悟の準備をしておいて下さい!!刑務所にぶち込まれる楽しみに
しておいてください!!』

秘密兵器彼女：今、動画のところで言葉に詰まつたね。

d：なんの動画あげたの？

f：なんの動画なんやろなあ

M：覚悟？私がどんな動画あげたって言うの？言われないとわから
ないな

e：サラッとデスマタル練習してる宣言ですこ

モロカク：ありがとうございます！

『それは、僕の……その、ち……ち……』

何が悲しくて、自分の乳首の希少価値を論じなければならぬのだ
ろうか。

『僕に関するセンシティブな動画です!!』

M：若干や草。

秘密兵器彼女：センシティブって言い方良いね。

y p a 9 1 : 贈ったゲーム、早速楽しんでくれてるみたいで嬉しい
です。

『あ、あなたが⑨さんですか！

w : わいびーえー? 9 1 さん。本当にありがとうございます! マジでありがとうございます!!

初めてこういったゲームをしたので、めちゃくちゃ楽しいです!!
こういつてしまつてはなんですが、正直VR機械を入れたのはネタとしてだつたので……まさか周辺機材とソフトまで頂けるとは……本当、ありがとうございます。』

s : おっ、貢ぎ人様やん

z : 貴方様のおかげでパニくる410くんが見れました! ありがとうございます!

w : 人にVR贈るとかどんな富豪だよ。俺にも送ってくれよなく、
頼むよ。

t : 節子それワイピーエーちゃう。ウラーや。

『あー、ウラーですか。ロシアの掛け声? でしたつけ? すみません9
1さん。あんまり物を知らないもん……』

y p a 9 1 : もちろん大丈夫ですよ。

・

・

『はは、ありがとうございます！うわつ、また死んだ！ちくしょうつ
!!』

j：くちわるう！

k：口悪くて興奮しました

w：もつと見下した感じかつ低テンションで畜生って言つてくれな
い？

天才ゲーマーR：初めてのゲームにしてはかなり上手いね！センス
あるよ！

e：こマ？ R来てんじやん

t：マジか、早くコンビチャーンネル更新して？

l：KとRのドンカツお代わり動画すこ

n：Kの方はどう森で1日でローン返済をしてからやること分から
なくなつたつてまじ？

a：Rさん色々な配信見てるっぽいもんな

g：いや、本物なのか？

『Rさん、ありがとうございます！

まあ、VRは初めてなんですが、ゲーム 자체は初めてじゃないん
ですよね～』

（ふむ、有名人が見に来てくれたのか。芸能人？あるいは動画投稿者
の人か？後で検索しないと。）

s：VRじゃないゲーム？

b：それスマホアプリじゃね

g：わんちゃんレトロゲーしかしたことない説

y：それは草

天才ゲーマーR：なるほどね～。あ、バースティトの速い動きが苦
手なら魔法で遠距離した方が良いかも？バースティトは魔法に弱い

しね。

『おお、ありがとうございます！次はそれで行つてみますね。』

この小部屋（復活地点）を見ること、何度目だろうか。ピラミッドの内部のような、大きな石によつて作られた遺跡の中を走り抜けていく。

この遺跡の名前は【第1のとらべぞへどろん・ウルタール】記憶喪失の主人公が目を覚ました謎の遺跡であり、ミイラや獸頭の兵士などエジプト風の敵が出現する。

内部構造もピラミッドよろしく大きな石が綿密に組み合わされており、周囲に残る砂がどことなく乾いた空気を感じさせる。

第1の、というようにこの世界では各地に神話時代の遺物【とらべぞへどろん】が存在する。主人公は記憶のために21個あるとらべぞへどろんを冒険するのだ。（公式サイト・ストーリー紹介より）

飛びかかつてくる罠・襲いかかつてくるザコ敵を避けてボス部屋へと滑り込む。

一度、アドバイス通りに魔法を主軸にしてみようか。

ピラミッドの1番奥の部屋。

一般的なピラミッドにおいては王の間と言われる部屋に、彼女はいた。

『すみません。集中するので、黙りますね。』

彼女は棺の前で彫像のように祈りを捧げていたのだが、部屋に入ってきた主人公に気づくと、何処からともなく槍を取りだし襲いかつてくるのである。

彼女がこちらへ走り寄つてくる。

ボスである【無辜の守り手 バースティト】は、猫の耳を持ち、赤

熱した槍を持つ、エジプト風の踊り子のような衣装に身を包んだ女性だ。

その胸は豊満であつた。ヤツタ!!

彼女が槍を引き、刃先を水平に構える。

そして、それが見えた瞬間に回避を行う。

あまりにも高速で槍を突き出してくるため、俺の目では捉えきれない。予兆に合わせて、前へとステップする。

天才ゲームR：ナイス回避！

秘密兵器彼女：回避行動慣れてるね

n：回避上手いぞ（空気）

色々なゲームと同様に、このゲームも回避行動であるステップには無敵時間が存在する。

槍を突き出してくる攻撃は、最速であると同時に当たり判定も最速で無くなるのだ。ほぼ一瞬と言つても過言ではない。速度も判定も。そして、そのままの勢いに乗せて手に持った武器、【トートの小剣】を振るう。

これは初期武器の1つで、性能は低いものの、魔法を発動するための杖としても用いることが出来るのが特徴の武器である。

2度切りつけるとバーステイトは攻撃後の硬直が解けたようで、詰められた距離を再び広げようと、槍を薙ごうとしてくる。

その直前に、【野獣の咆哮】ツ!!

一定範囲に吹き飛ばしを付与する初期魔法の一つである。

自分を中心に円形の判定が発生するのだが、加えて、至近距離で力

ウンター判定を取れればスタンを引き起こすので使い勝手がよい。

囲んで棒で叩かれるとゲームでも現実でも人間は死ぬので、その危険が回避出来る円形の吹き飛ばし魔法はハチャメチャに強いのだ。

タイミングよくスタンが入つたようで、頭の頂点に着いた猫のよう

な耳をこちらへ向け、その頭を頃垂れさせていた。

モロカク：タイミングバツチリですね！

猫丸：いいカウンターだにや！

k：タイミング読むの上手いね。結婚のタイミングはどうしようか？

この期を逃すのは有り得ない！

続けて、攻撃用の魔法【顔無きスフィンクスの爪剣】を発動する。手から武器が消え、代わりに爪が伸びる。

少しの溜め時間の後、ウルヴァリンのような凶器と化した爪を、行動不能なバースティトへと叩きつける！

相手のHPゲージが10%弱も減ったのが分かつた。

タメが長いことと、特攻が合わさり、当てられればかなりのダメージとなる。

これは、エジプトに属する相手へ特攻ダメージを与える魔法である。このステージで拾える、ボス戦の救済要素の一つだ。RTAでも大活躍らしい。

攻撃を与えたことで、相手のスタンは解除された。

槍の射程内だつたため、水が流れるような横から縦へのよどみない2連薙を繰り出してくる。

それに対して、真横にステップ。

一撃目の横薙ぎ払いを無敵時間で回避、二撃目の縦薙ぎ払いは位置をずらしたことで空振りとなる。

と言つても、かなり軸合させしてくるから耳元でブウン!!って音がしてめちゃくちゃ怖いのだが。

この技は回避しにくい隙も大きいため、溜め攻撃を攻撃後の無防備な横腹へと突き立てる。

【顔なきスフィンクスの爪剣】によりダメージを大幅に稼げたこともあり、バースティトのHPは第2形態への目安である40%へと近づいていった。

ここで、ボスのデータをおさらいしておく。

バースティトはHPを60%削ると形態変化をし、顔はライオンへ、槍は双曲剣へと変化するのだ。

この状態を、激昂せしヴァステイスの女神というらしい。

長いので通称：ライオンモード。

ライオンモードになると、唯一の遠距離攻撃であるビームを撃たなくなる。

つまり、この状態では遠距離攻撃は存在しない。

そこまで行けば、（遠距離攻撃なら）ずっと俺のターン!!

じつくりと死にゲーのボスを攻略するのも好きなのだが、これは実況だからね。

あんまり手間どると視聴者さんもイライラしてくるし、仕方ないね。

というわけで何とかMPを温存して40%以下まで持つていきた
い。

HPが、初めて40%を切った。

バースティトが恐ろしい唸り声をあげたかと思うと、身の毛もよだつ音を立てながら顔はライオンへ、肉体は筋骨隆々で獣じみた体躯へ変形する。

初めて見たが、めちゃくちゃ怖い……!!

この隙に、武器を【ネフレンカの錫杖】へと持ち替える。

これは完全な魔法専用アイテムである。

トートの小剣より物理攻撃力は低いが、魔法攻撃力は高い。

また、魔法専用アイテムにはそれぞれ専用の魔法が1つセットされている。これは装備の1種である魔法と区別するため、魔術と呼ばれる。

【ネフレンカの錫杖】の魔術は【異浸伝神】

エジプト属性と神属性、そして善属性への特攻を持つ対バーステイト用の初心者救済装備その2である。

ネフレンカの錫杖を天へかざすと、MPが消費されたと同時に幾つもの星々が無から生まれる。

それらは7色の光の尾を引きながらバースティトへと襲いかかつた。

星々はこちらへ先程よりも高速で近づいてきた彼女へと直撃し、そのHPを削っていく。やばい、めちゃくちゃ削れた。

やつぱり札束で殴れば勝てるんだなあ（ザコ敵マラソンしつつ）

近づいてきた分だけ距離を取り、ネフレンカの錫杖による魔術攻撃でちまちまと削る。

「これめちゃくちゃいい感じじゃない!? いけるいける！ ありがとうRさん！」

n：急にイキり出して草

モロカク：頑張ってください！

w：真面目にやれよチキン

y：なんで近接戦をしないんですか？

カツツエ：リスクを避けるのは大事だね！

「チキンじゃないが？ チキンじゃないが!? 最終的に勝てばいいんだよオー!!」

まだMPは残っているため、近寄ってくる事にさえ気をつけなければ丈夫そうだ！ 勝ったなガハハ、風呂入つてくる。

とはいえ、だ。

こんな感じで初ボスを倒しても、とてもじゃないが撮れ高にならないと心配になる人もいる事だろう。

それについては、キチンと考えてあるのだ。

刹那、背後から衝撃が走る。

振り返ると、こちらへと2本の曲剣を突き立てた獅子女神様の姿が。

「うえつ、ああああ！」

ワープは、反則……だろ……!!

：でも、あと一歩まで、削つたからな。

美人だからって許さねえ、あと何回かで絶対に頃してやる。」

G A M E O V E R

そう、あまりにも一方的に遠距離攻撃でボコると、何とワープを使い出すのがバーステイトの行動ルーチン。

イキつたところで叩き潰されるムーブは必須だよなあ（三下）!?

g：死んだ時の声すこ。それはそれとして美人？

スコP：もしかして、結構地の口調は悪い？

M：散々イキリ倒して負けるんか？恥ずかしくないんか？というか、美人とは？

m：お前はいつもそうだ。で、美人って誰の話？

e：めちゃくちや執念深そう。誰に向かつて美人つて言つたんだ

……？

y u r a 9 1 : x o r o s h o (ハラショウ) !! 素晴らしい戦いでした

よ、410さん。

カツツエ：やられちやつたね～。美人つてボスのこと？結構変わつた趣味ね！

やつぱり俺の美的価値観は、ちょっと違うようだ。

・ · · · ·

なぜか、それから全然削れなくなってしまった。

ので、作戦変更。

試行錯誤の結果、前半の猫耳女神形態は気合いで近接戦をすることになった。

【食屍鬼の懐刀】という、現段階で最高の攻撃力を誇る武器でもって、出会い頭から延々とインファイトを仕掛ける。

あちらは槍で、こちらは剣。内側に入り込めば、こちらの方が有利である!!

彼女は俺を突き放そうと槍を振るうが、その殆どは無敵時間で躱せるようになってきた。

ははは、何度市んだと思つてやがる。

薄皮1枚切つて、風を巻き込んで唸りつつ真横を通り過ぎていく槍の刃先へ意識のみを向けながら、刃を突き立てる。

このゲームでは、直撃しなければ大したダメージとならないため、力ス当たりの回復よりも攻撃を優先する。

スコPさんやモルカクさん、カツツエさん等のやたらと的確な回避アドバイスにより、苦手な攻撃以外はもう躱せるようになった。

そして、H Pが半分を切つた。

唸り声をあげる直前に、ネフレンカの錫杖による魔術攻撃を行う。そして変身中にも撃てるだけ打つ。

変身後！

ここからが問題だ。

先程と同じように、彼女から遠ざかりつつ遠距離攻撃を何度も当てる、彼女の姿が視界から消えた。

勝負は、ここだ。

思い出せ、ワープから攻撃に移るまでのタイミングを
……まだ、まだ……まだ！……いま、ここ!!

【野獣の咆哮】!!!

背後から、何かが吹き飛ばされたような音が聞こえる。
俺の放出した不可視の力場は、果たして彼女の転移→バツクスタブ
のコンボを中断することに成功したようだ。

y：やりますねえ！

天才ゲーマーR：おおお！上手いね!!

カツツエ：よく見えないのにタイミング合わせられたね。凄い！

t：おやりになりますわね

秘密兵器彼女：中々やるね

振り向くと、カウンターによりスタンしたバースティトの姿がある。

よく頭を狙つて、「顔なきスファインクスの爪剣」を発動。HPが一気に削れ、もう一撃を当てれば勝てそうだ。

それじや最後に【異浸伝神】でトドメを……!?

やばい、ミスつて【顔なきスファインクスの爪剣】を発動してしまった。

……溜めているうちに、彼女は起き上がる。

うおおー!! こつちに走ってきた！

早くしろ、間に合わなくなつても知らんぞー!!

……溜めは続く。

動け動け動け！今動かないと死んじゃうんだ!! 動いてよ!!

・・・まだ、溜めている。

段々と近づく、殺意剥き出しの血走ったライオン顔の恐ろしい女性は、とうとうその憤怒が込められた刃を此方へ振り上げていた。

これは……死じやな？

——溜めが、終わつた。

そのまま、右手を正拳突きのように最速で前へ突き出す。

その刃は、走り込んできた勢いのままに彼女への体へと突き刺さり
……HPバーが0へ。

このカウンターにより、彼女はポリゴン片となつて霧散した。

ボスに勝つたことを祝福するメッセージ

【Y o u R E M E M B E R F o r c e!!】が表示され、アイテムを入手する。

また、マルチプレイが解禁された。

【獅子女神の激憤】、一定時間防御力を下げ、代わりに攻撃力を上げる補助魔法のようだ。

ギリツギリだつた……！

が、蓋を開けてみれば、かなりドラマチックにトドメをさせた。

これはかなり見応えさんがあつたのでは???

いやー、楽勝でしたね。最後はかつこよく決めさせてもらいました。」

猫丸：おめでとうにや！

d : 8 8 8 8 8

a : おめでとう、良いファニーツシュムーブしてんねえ！通りでねえ

！

天才ゲーマーR : おめでとう！決め方がいいね！

モロカク : おめでとうございます！最後かつこよかつたです！

h : おめつとさん

M : クエックエ、クエックエ!!

散々イキつてボコられてまたイキり出すのすこ

カツツエ : 最後の一撃、凄いかつこよかつたよ!!

y p a 9 1 : おめでとうございます！410さん！

· · ·

『皆さん、ありがとうございます！そういえば、マルチプレイが解禁されましたね……ちょっと見てみます。』

マルチプレイは3つのモードに分けられている。

ストーリーモード、エンジョイモード、対戦モードである。

ストーリーと対戦は名前の通りだと思うが、エンジョイモードとはなんなんだろう。

エンジョイモード：最大4人による協力プレイモード。武器、魔法はランダムに決められ、ランダムで生成されたダンジョンへ挑むことができます。

『せつかくなので、マルチプレイのエンジョイモードをやってみて今回はお別れとさせていただきます！

こんなことでお礼になるかは分かりませんが、y p a 9 1さんがも

し参加出来るならして頂きたいなと思うんですがどうでしよう……？』

y p a 9 1 : いいんですか？ありがとうございます！よろしくお願いします！もちろん、参加させていただきたいです！

『はい、ありがとうございます！よろしくお願ひしますね。y p a 9 1 さんはフレンド登録の方から……はい！ネームはマロースですね。よろしくお願ひします！

えつと、他の人は募集からお願ひします。部屋は410、パスワードは334です。配信されて大丈夫な方は、よろしくお願ひします！』

メンバーが揃つたら○を押してください

- ・ 410
- ・ M o p o 3 (マロース)
- ・ カツツエ
- ・ R @ X X

12話 意外な協力者（前編）

『えっと、他の人は募集からお願いします。部屋は410、パスワードは334です。配信されて大丈夫な方は、よろしくお願いします！』

メンバーが揃つたら○を押してください

- ・410
- ・M o p o _3（マロース）
- ・カツツエ
- ・R @ X X

：速攻で埋まつた!!

k：入れなかつ……たあ！

b：行きますよ、いくい：いけない？

s：ぶち込んでやる……やれない！？

：上の3人は汚いジエットストリームアタックか何か？

：さすがRさん、サラッと滑り込んでやがる

：これマジ？ 実質コラボ実況じゃん

：乳首流出配信主と貢ぐちゃんと有名配信者に挟まれた人が1人居ますね……

：一般人梓羨ましいけど、メンバーが地獄すぎてなあ
秘密兵器彼女：ヘルトーケみてて草

：毒舌もCEOもすここここつ!!

：Rさんより反応が速いとか入力がくそ早くね？

：逸般人かもしれん

：まあ、現世は地獄みたいなもんだし、多少はね？（グノーシス先輩）

：ヤベー奴来てんじやん

武器と魔法がランダムとはいえ、傾向は決めることが出来るようだ。

なら、多分そんなに酷いバランスにはならないかな。
ちなみに、全員の装備や魔法の差は無いように選出されるらしい。

レベルは一定になるように補正されると。

つまり、プレイヤーの腕次第ということか。初心者には無理ぞ？
俺の傾向は……バランスでいいかな。

参加者【傾向】装備

410【バランス】

武器：

月明かりの大剣

狂えるアラブ人の手稿

魔法：

【C】の苛立ち（ビッグ・シーの苛立ち）

大いなる力の癒し

マーロス【攻撃】

武器：

ハングリー・アンガード

神モ滅スル無垢ナル剣

魔法：

破極滅塵殲・天（はきよくめつじんせん・てん）

Supernova

R@XX【攻撃】

武器：

M44A4 パルスライフル

Va | valla, イージーギア

二丁拳銃（ツーハンド）UGN&FH

魔法：

The 【X】 from Outer Space

カツツエ【ランダム】

武器：

一意奮闘・やり直しの槍

魔法：

無軌道無秩序無理解兵器・パンジヤンドラム

S H A R K · t o r n a d o

陰霧出・生一太刀

：410の装備、ベーシック過ぎて言うことないな

スコp：回復があるのは運いいね！

：Rさん銃ばつかで草ア！

：F P S ガチ勢だからね、仕方ないね。

：一般人枠カツツエさん、ネタ武器とネタ魔法しか集まらないww

秘密兵器彼女：さすがに可哀想

：周りのメンバーのキャラも濃いのに、装備もめちゃくちや濃い味
して

名前を見ても、何が何だかさっぱりわからないよ（Q B）
何となく元ネタが予想出来るものもあるけれど。

前世と今世にも、共通のネタみたいなのはあるらしいな。

ステージもランダムに生成されるのか……傾向はランダムにしよう。

【絶景の祭壇】

説明：何人もの生贊が捧げられた高台の祭壇。

生贊達の最後の記憶が、せめて美しくあつて欲しいと祭壇の眼下には様々な彫刻が並べられている。

果たして生贊達はそれを見て、美しいと思ったのだろうか？

このレベルのステージと説明文が自動生成されるのか……。凄い
な近未来。

とりあえず、準備開始を押す。

さて、他にも全員が準備完了したのを確認。ゲームスタートだ！

ローディングに入る。どうやら、ローディング中はランダムに選ばれた装備の練習が行えるようだ。

月明かりの大剣は、名前の通り、刀身が月明かりを返すようにぼんやりと光る大剣だった。特に、クセのようなものは無い。狂えるアラブ人の手稿は、魔法専用装備だった。

その【魔術】は【魔物の嘶き】。

目の前へ咆哮というか、音のビームを撃てる。アカムのアレっぽい感じだな。こちらもクセがない。

大きいなる力の癒しは、範囲回復。

Cの苛立ちは……触手がいっぱい生えてきて、周囲を薙ぎ払つていった。

癖のない近接・遠距離武器。範囲攻撃に範囲回復と、だいぶ使いやすい物が揃っている。

流石はバランスでの選出だな。コメント通り無難オブ無難だ。確かめていると、ローディングも終わる。

さてさて、初マルチプレイ。どうなるものか。

『皆さん、よろしくお願ひします！』

ノーコンティニューでクリアーしてやるぜ！』

カウントダウンの後に視界が白くなり———
景色が戻ると、そこは木々の生い茂るジャングル。遠くの山の中腹

に、薦が絡まりついた遺跡が見える。あれが、今回の舞台だろう。

コメントに目を移す。

：早速Rに媚びを売る

：Rの名言を真似していくスタイル

：やーらしかつ！

：こマ？410はいやしい男ばい……

スコP：あんなこと言つてたけど、実はRのファン？

：410がやらしいのなんて第1回から分かつてんだよなあ

（そりいえば、頭文字Rな天才ゲーマー人形も居たな。それとも、元ネタがこつちにあるのか？まあ、とりあえずは……）

『あー……すみません。実はRさんのネタだつて知りませんでした。友達で連呼して居まして、移つてしまつたみたいですね。Rさんのセリフだつたんですね。

かつこよくて好きですよ！（……とりあえず、褒める!!）』

・またまた媚びを売る

・自分を売る

・ここまであざといとか、キンキラ世界の住人だろ。

秘密兵器彼女：こんなにいやらしい魔族も中々居ないよ。

：は？シャドウマスターを惨次元と比較したな？法廷で会おう!!

：エツチだし乳首出したからレビュアーズ世界線なんだよなあ

『乳首は出したわけじゃないです!!』

：初乳首発言

：乳首とか言いましたよ！やつぱり好きなんですね

：乳首頂きました〜!!!

：はいちくび？

M：よろちくびーー!!

もう、無視していいか。元凶がなんか言つてるよ。

『えー……すみません、皆さん。時間を取りました。

とりあえず、始めていきましょう！皆さん、よろしくお願ひします。』

振り返ると、3人のキャラクターが居る。

「よろしく。シドーはVR初心者みたいだけど、練習は大丈夫そう？」

急に話しかけられて、びっくりした。

話しかけてきたのはカツツエさんだ。

『ありがとうございます。たぶん大丈夫そう……ですね！

大剣と魔法用装備、範囲回復に範囲爆発と便利そうのが一通り揃いました。』

『……えーっと、カツツエさんはいい声してますけど、声出して大丈夫なんですか？ほら、プライバシーとか。』

「あはは、心配してくれたのと、褒めてくれてありがとうございます。」

あたいはアバターに地声を登録してるわけじゃないから大丈夫ですよ。VRはさ、声も合成してくれるつてわけ！

つていうか、うつかり喋っちゃったんだけど大丈夫？ほら、生配信だし。』

(……あたい、ねえ。これはどうなんだ。一人称だけで決めつけるのは早計だよなあ。声もかなり似てる気がするし……うーん……)

『なるほど！へく、全然知りませんでした。』

コメントを見るのが難しいので、VC(ボイスチャット、ゲーム内通話のこと)をお願い出来るならその方がありがたいですね。むしろ、カツツエさんこそ、声が違うとはいえ放送に流れて大丈夫ですか？』

「そつかそつか。あたいはあんまり気にしてないから大丈夫だよ。』

『そうですか。あの、もしもお2人とも大丈夫そうならVCだとあります。』

『そうですか。それなら私もONにしますねえ。』

『y p aさん、ありがとうございます。ゲームも本体も、なんか色々合わせて頭が上がりません。本当にありがとうございます！』

「そんなに気にしないでいいですよ。私が410さんに送りたくて送ったんですからあ。』

めちゃくちや聞き覚えがある上に甘ったるい声が聞こえてくる。

このちよつとヤンデレ入つてそうな声は……!?

ロシアで、この甘つたるい声、望みを叶えてくれる。ふむ！

ちょっと頭をよぎる人形が1人居ますね。

『本当にありがとうございます。』ypaさんの登録している声も可愛らしいですね!』

え、あ……ありがとうございます。初めて言われちゃいました。えへへ……私、可愛いですか？」

ですよ。』

ヤハナタリセヤんと聞いていくがございオ

は？

：俺たちは何を見せられて いるんだ？

イサカミだ

：また幻術かけられてるよ

：貢ぐちゃんのメンテを欠かさない男

「うやつて寄生するんですねえ、勉強こな

：私も貢げば可愛がつて貰える？

は力不足で、仕事のないなつてが泣いてる

：410はメンヘラホイホイの腹黒だった？

「はろー！ね、話しうちに悪いんだけど、そろそろ出発しない？敵と早く

戦いたいしさ！」

『そうですね！出発しましょう！

Rさんの登録してる声も、やつぱり先輩実況者だけあつていい声で

「うええええ！」

- ：元気が出る？
：Rつて地声じやなかつた？
：また媚び売り魔族してゐる……？
：惨次元とキンキラ世界を同一視した異端者は……？
：Rの素つ頓狂な声に草
：どつかの放送で地声登録したとか言つてたし、生配信の声も変わらなかからそのはず
：今の驚いた声、目覚ましに使えそうだよな
：元気になる……？元気になる……？あつ（察し）
：どこが元気出ちゃつたのか、お姉さんに教えてくれないかな？
秘密兵器彼女：Rの声は確かにいい声だね。ペルシャ3世のバー
サーカーとして君臨してそう。
：まーた媚びつてて草
：媚び媚び410君……？
：分かる。ロシア皇帝の下の象の声真似とか上手そう。
- （なるほど、声の感覚も違うのかな？）
- 『えー……近接武器があつたので、自分は前衛に行きますよ。』
「おおつ、ありがとうね！あたいは魔法多いし、後ろかな。」
「私は近接が多いので、410さんと一緒にいますよ。ちゃんと、見ていてくださいね。」
「じゃあ私は後衛いこうかな。武器が銃ばつかだつたしね！ヘド
シヨは得意だから、任せてよ！」
- ：Rのヘドシヨえぐいよな
スコP：一時期チート疑われてたくらいだしね
：Rは声といい戦闘力といい、ゴリラ並みに頼れそうな感じあるしな
な
：Rに媚びとけば生き残れるやろなあ…
『頼りにさせてもらいますね、Rさん！』

道中の戦闘は安定していた。

回復魔法も未だに1度しか使われておらず、回復アイテムを使用したのは不意打ちをモロに食らつた俺だけ。

なおその敵は、直後に3人により頭を穿たれ、首を跳ねられ、サメに食いちぎられた。情けなくて涙が出るね……

それもこれも、

『y p aさんの剣さばき凄いですね。的確に弱点に当てていきますし。』

「見ててくれたんですね！嬉しいです。相手のことをちゃんと見ていれば、あんまり難しくないですよ」

『ありがとうございます。Rさんもヘッドショットの精度が半端ないですね。』

「おっ、ありがと！ゲームは色々やつてるからね。先輩として、これくらいはして見せないとさ！」

そう、この2人がべらぼうに強い。

敵がポップした瞬間に頭をぶち抜くRさんと、ヌルリと近づき弱点を1刀の元に切り捨てるy p aさん。この双璧が余りにも壁として高すぎた。

「2人とも上手いね。あたいもそれなりにやつてるつもりだけど、自信なくしそうだなあ。」

『お2人の上手さは大会とかでも通用しそうですね。けど、だからってカツツエさんも弱いわけじやないと思いますよ。』

「そう？あたい、そんなに役に立つてないと思うけど。』

『いやいや、カツツエさんは一見すると意味不明な武器と魔法を的確に扱えていて凄いですよ。

一意専心つて付いてるくせに2本の槍とか、サメの嵐とか、制御出来ない紅茶兵器とか、普通は扱えませんって！

見てわかりやすい成果じやないですけど、それでも出来るることを的確にこなしてて凄いですよ!!』

：また人を褒めてる
：軽率に人を褒める。

：そんなに人のいい所を見るのか？実は腹黒だろこいつ
：410くん黒幕説。実はというかやっぱり腹黒いな?
：実は女を心の底からバカにしてるつてマジ？
：人を煽りやがって…ガキが、舐めてると女の恐ろしさを教えてやるからなー？

：こいつ偶にパパ味を出すな……

：ううう、パパー。僕も褒めてえ……

M：二極化してて草ア！通りでねえ！

この流れで、切り抜き所さんを作れそудな。

我ながら気持ちが悪いが……気持ちが悪いが……視聴者のためのエンターテインメントには代えられない。腹をくくれ、俺は、やってやる。俺は、配信主であり、エンターテイナーだ!!

『ははは、よしよし。いい子ですね。

皆さん頑張っていますよ。毎日お疲れ様です。』

(ヴォエッ!!)

：おぎやつ!!!
：ばぶばぶ（貨幣を咥えつつ）
：岸ちゃん!?プリコネ（プリンス・コネクト）に帰ろう!
：ごめん、ユウ！
：草乃さんがそつちいったぞ
：おぎやりティ高い

：ふーん、オギヤルじやん。

：おぎやぎやぎやつ！

：あげやげやげやげや!!

：ちょっとガンダムマイスター沸いてんよ～

・・・・・

丘の麓にたどり着いた。見上げると、チラリとステージの由来でもある祭壇が目に映る。

遺跡の入口は蔓に覆われており、インディジョーンズに出てきそうな装いだ。

『ここから中盤戦つて感じですかね？ 遺跡の入口まで来ましたし。』
「だね。スーパー・ピーチ・スターズで言うなら旗の所まで来た感じかなう。ユルゲーはつまらないし、中はもうちよつと難しいと嬉しいんだけど」

「もうひと頑張りですね。遺跡の中だと、私から絶対に離れないでくださいね？ 危ないんですから…。」

「ここまで来たら、誰も欠けずにクリアしたいよね。あたいも頑張るよ。」

それじゃ、遺跡の中へ……イクゾー!!

第13話 意外な協力者（後編）

それじゃ、遺跡の中へ……イクゾー!!

遺跡の中へ突入していく。

遺跡の中の通路はなかなかに狭く、3人で横並びになるのは不可能だ。

前衛と後衛 2人で2列となり、いきなり足元が沈み込み。力チリ、と音がした。

二

六 主意ご質ア

死にゲーで罷免

：果然してる暇ある？ 可愛いね？

：何してんだよ団長お!!

秘密兵器彼女：イヤな予感がする

のうへん

N
D
Y
(

「ゴロゴロゴロゴロと、後ろからやたらと重量のある音が聞こえてくる。」
こ、これは……思わず振り返ると、黒い鉄球がこちらへ転がつてくるのが見えた。

「何ぼさつとしてるの！走つて！！」

真っ先に反応したのは、やはりというかなんというか。ゲーマーであるRさんであつた。

「急がないと不味そうだね。ゲームとはいえ、潰されたくないし
さ。」

「行きましょう！道は開きますからね。」

『皆さんごめんなさい!! 前の敵は責任を持つて吹き飛ばします！』

【魔物の嘶き】を発動。通路が直線だつたこともあり、敵全員に直撃。怯んだすきに y p aさんが急所を切り刻んでいく。

その姿は、実に辻斬りめいていた！コワイ!!

そのまま通路を走り抜ける。

吹き矢トラップや炎の矢が飛んできたものの、一撃死するようなダメージでは無いためライフで受けつつ進んでいく。

……扉が見えた！開けつつ、中へ飛び込む!!

——モンスターハウスだつた!!

『うわ、やべつ!!』

やばい。

と思つたが、転がり込んできた鉄球が敵をある程度巻き込んでくれた。これ敵にも当たるのか……

さて、敵がある程度減つたとはいえ、まだまだ残っている。

範囲攻撃を持っているのは、俺・y p aさん・カツツエさんだが、カツツエさんの魔法はクセというか、アクが強い。

というわけで、俺の持つ範囲攻撃【Cの苛立ち】を詠唱する。

そう。このゲーム、範囲へ影響を与える魔法にはちよつとした詠唱時間があるのだ。

詠唱やそのためのポーズ（変な踊りや臨兵闘者皆陣列在前みたいな） 자체はゲームが勝手にやってくれるもの、口と体が詠唱を紡ぐのが恥ずかしい……

左手が人差し指と小指のみを上げ、それ以外の指を閉じる形を作る。

そして、口は30秒ほどかかる詠唱を吐き出していく。
めちゃくちや恥ずかしい!!

：やつぱり初心者は詠唱恥ずかしいんすね♪

：顔マツカオで可愛い

スコ p：詠唱してるの、カツコイイね！

秘密兵器彼女：若干涙目で好き

：恥ずかしいことは、感じてるってことだから

：恥ずかしさに耐性つける為に恥ずかしいことしよ！

M：乳首出したんだから、今更恥ずかしいことはないよね

：410くん！露出プレイ、しよう!!

コメントから目を背け、横を見ると ypaさんも呪文を唱えている。

あちらが先に唱え終えたようで、縦横7m程の部屋の中を爆炎が包み込む。

直後に、部屋へ現れた触手の塊がかろうじて生き残った敵を薙ぎ払つた。

……前衛をしてくれていた、2人ごと。

『あああー!!すみません!!これ仲間も巻き込むんですね!!』

スコ p：めちゃくちや焦つてるね……

：戻起動といい、FF（フレンドリー・ファイア、仲間に攻撃を当てる）こと）といい、大戦犯だなww

：許されないだろこれは……許して欲しければ乳首見せて？

M：ん？今許されるためなら何でもするつて

：言つてません

：言うわけないよなあ？

「大丈夫だよ！」

「あたいもへーき！」

『良かつたです…すみませんでした。』

協力者の人達から日々に慰められる

が、姫プなどしどうない！姫プなどし t o n i g h t !!!

「あ、見てください。次でボス部屋ですよ。」

流石は y p a さんだ！このまま、空氣を変えさせてもらおう。

『ありがとうございます！それじゃあ、ボス部屋に入りましようか。』

とうとう、ボス戦か。余りにも膨大なボスの数ゆえに、発売されてから1年経つたにもかかわらず、偶に新ボスが見つかるらしい。ホント凄いな未来のゲーム。さて、どのボスが出てくるか……？

扉を開けると、そこは。

下から見えていた丘の祭壇のようで、祭壇の後ろには体から煙を吹き出す、3メートルほどの大型のジャガーが立ち塞がっていた。

ボスの名前が表示される

【偽り吐く鏡・テスカトリポカ】

奴は一声吼えたと思うと、こちらへと飛びかかってきた。

『皆さんは見た事ありますか？』

「あんまり見た覚えないな。レアボスかな？ドロップに期待っ！」

「私も……見たこと、ないです。」

「うーん…あたいは見たことはあるけど、どんなんだつたかは覚えてないね。」

見え見えの予備動作だからか、俺を含めて全員が軽口を叩きながらでも回避を行えた。

最初のうちは、問題がなかつた。

4人も居ることと相手の予備動作が非常に分かりやすいことが重

なり、誰かが落ちそうになると誰かがヘイトを取つたり、俺が範囲回復魔法を使つたりなどする事で安定した戦いが出来ていた。

しかし、HPが残り50%ほどになった時、それは起こつた。

このボスも第2形態があるようで、50%を下回ると体から吹き出す煙の量が増えたのだ。

さらに、虚像のようなジヤガーが何体もその体に重なつて見える。様子を見る間もなく、こちらへテスカトリポ力が飛びかかってくる。

攻撃へ飛び込むように回避をした。

無事に、躱した。いや、一撃目のみは躱す事が出来たのだ。

テスカトリポ力の攻撃が終わつた次の瞬間、その攻撃をなぞるよう

に、一体の虚像のジヤガーが攻撃してきたのだから。

『なっ!?

回避行動の硬直に刺し込まれた一撃が、俺の体を深く抉つた。直撃した、まずい。

吹き飛ばされる。HPは今ので4割ほども削れていた。

それにして、なんだ今の動きは?

『いつたあ!!躱したぞ今の、絶対躱してたぞ今の!!』

横に誰かが吹き飛ばされてきた。Rさんのようだ。

Rさんも同じようにHPが減つており、ボスは今ypaさんを狙つていたため【大いなる力の癒し】で回復を行う。

「ありがとつ！やつぱりヒーラーがいると助かるね！」

『いえいえ、Rさんも大丈夫ですか？』

「大丈夫大丈夫！多分だけど、範囲から逃げるよう躱さないとダメかな。当たり判定が2回出てるね！」

——このゲームに限らず、アクションゲームの回避は敵の攻撃に突つ込むことの方が有利だ。

普通に考えたら頭のおかしいことに聞こえるが、アクションゲームの回避には無敵時間がある。

目の前から矢が飛んできたとして、敢えて前に突っ込めば、矢に当たる速度は自分の速度+矢の速度となり、当たる判定はごく一瞬ですむ。

後ろに回避すると、矢の速度は矢の速度—自分の速度となるため、当たる判定は長くなってしまう。

と言つたように、アクションゲームの回避は基本的に敢えて攻撃に向けて飛び込むものなのだ。

しかし、このボスはそうでは無い。無敵時間での回避が行えないため、攻撃の範囲から抜け出す必要がある。

つまり、普段とは逆の方向へ回避しなくてはならないのだ！

咄嗟の判断が必要な回避で逆に操作する必要があるとは……恐ろしい子つ！！

意外とこの判定が曲者であり、全員、回避のミスが徐々に増え、回復アイテムも減りつつあつた。

見え見えの予備動作が、逆にこちらの回避するタイミングをズラしてくる。

『ああああ！！躲しただろこれ、躲しただろおおおお!!このネコー！このネコー!!』

：ガチギレしだして草

スコ p：やつぱり口が結構悪いんだね

「落ち着きなつて。そんなんじや倒せる相手も倒せなくなるよ？」

『カツツエさん！お言葉ですが、僕は落ち着いていられません!!あの憎つたらしい猫畜生を、肥溜めにぶち込んでやるその時までは!!』

「あはははは。すつごい怒つてるね。ま、頑張つて?」

：落ち着いてられない410

：はえ～、すつごい激情型

：410は獸、ハツキリ分かんだね。

：肥溜めとかお前、変態糞ガテンみたいなこと言うな

：はよう糞まみれになろうぜ

：カツツエさん優しい、優しくない？

『うえあつ!?このね～お～ふざけるなあ!!誰を攻撃してる!!お前を三味線にしてやろうか!!』

：ガチギレじやん。

：こつちが怒り状態入つて若干や草

：ちよつ!?先輩?（実況でその言葉遣いは）まずいですよ!

：キレイながらでも煩いと感じない音量調節技術は凄い。そこは誇つて欲しい。

全員傷が増えつつも、カバーし合い、戦いは進む。

ボスのHPが残り15%ほどとなり、終わりが見えてきた頃。

突如として祭壇全体が煙に包まれた。

「煙玉かな？何も見えないね！はははっ。」

「何も見えませんね？」

『エンマク・ジツ!?

「何が出るかなー、第3形態。名前的には足がキヤタピラになつてミサイルを撃つてくるとか、悪魔合体して狂神になるか……あ、テオナナ夫婦とかも？」

体制を整えつつ、軽く話しながら待つ。

10秒ほど時間が経つと、煙が晴れた。その先にいたのは……一匹のジャガーである。

え
た
!

二匹はそれぞれ、違うタイミングで飛びかかってくる。
体からは出る煙はさつきと比べて減つてもいい。

更に、虚像のようなジャガーはどちらにも重なつて見えるため、多
分回避の無意味さは変わらないのだろう。

「テオナナ夫婦惜しかつた！」

『2頭同時は避けたいです!!』

「あははは！このゲーム、こやし玉ないから頑張ろうね！」

「大丈夫ですよ、もう一息ですから。」

もう少しとはいえ、2体のボスを同時に相手をしている現状。こち
らが徐々に追い詰められつつあった。そんな時、y p aさんが突破口
を見出した。

「よく見るとこの子達、あんまり離れませんね。……それに、二匹でH
Pを共有してゐみたいですね。」

「えつ！じゃあ範囲攻撃なら2倍のダメージじゃん！」

『まじですか？』

「なら、あたいは範囲魔法使うね！」

「私も魔法使いますね、前衛をお願いします。」

『了解です！』

「おつけおつけ～」

Rさんと2人で、それぞれジャガーのヘイトを集めます。

y p aさんの言つた通り、2体のボスはお互いからあまり離れられ
ないらしい。1人だけの負担にならないよう、Rさんと肩を並べて前
衛を続ける。

ある程度の被弾は無視して、張り付きながら出の早い攻撃を重ねていく。

が、気が気でない！

短時間とはいえ、初心者が初見ボスの相手をずっと1人でしているのだ。

4人居るから初見でもある程度食いつけていたものの、全然モーションが読み切れていないため、いつ死んでもおかしくない気がする。

『やられはせん、やられはせんよお!!

……うおつ、ちょっとカスつた!』

「もうちょっとで発動すると思うよ。回避盾、一緒に頑張ろうね!」

「お待たせしました！」

「待たせてごめんね！」

後ろから声が聞こえたその時、後ろから現れたドラゴンが相手へ襲いかかっていった。

頭に大きな角を生やし、棘を全身から生やしたドラゴンは、飛び上がった自らの体を重力と質量の破壊力でもつて相手へと叩きつけた。

攻撃をした後、ドラゴンは消えていく。

これが【破極滅塵殲・天】（はきよくめつじんせん・てん）。

別世界では、数多の実況者に「なんとかかんとか・天!!」と呼ばれ、恐れられた古龍の一撃だった。

……その次に現れたのは、そう。

それは 兵器というには あまりにも紅茶すぎた
大きく 分厚く 丸く そして 大雑把すぎた

それは 正に パンジヤンドラムだった

英國面が転がり出す。

相手へ向かって転がり出した「それ」は、直進しか出来ない。いや、その兵器の性質から考えたら、転がるだけ成功なのかもしない。

しかし、前にしか進まない攻撃に当たるボスではなく、横に避けようとする。

が、

「さすがに逃がせないな。ボス戦からは、逃げられない！」

Rさんの魔法【The X from Outer Space】は、今まで1度も使われていなかつたため、どんな魔法かは分かつていなかつた。

しかし、使われると一目で分かつた。

地面に肌色をした有機物の沼のようなものが発生し、そこから伸びた触手がテスカトリポ力を拘束する。

名前からは【遊星からの物体】なのか【宇宙からの色】なのか判別出来なかつたが、これは遊星からの物体っぽいな！

どちらにせよ、見た目が非常にエグい。粘液質なネチネチとした音も聞こえてきてなおキモイ。

足を絡め取られたジャガーは一体だけだが、二匹はあまり離れられないようで両方とも拘束できたようだ。

その哀れな犠牲者へと、グレートブリテンが誇る、現地の言葉で【偉大な者】という意味を持つ自走地雷が突撃し……大爆発!!!! 爆発オチなんて、さいてーっ!! (きーみーと、ハイっ!)

こうして、こちらの回避の邪魔をしてきたボスは、自らの回避を止められることにより、見事倒される事となつた。

『皆さん、ありがとうございました！お疲れ様です!!』

「みんなお疲れ様！あたいも楽しかったよ。」

「お疲れ様！たまには協力プレイもいいね～。普段は対戦ばつかだしさ！」

「お疲れ様でした。一緒に遊べて、良かつたです。」

：おおお！

：やりますねえ！

：おやりになりますわね

：最後のジエットストリームアタックすこ

：最後の最後でのRさんの的確な足止め、俺じやなきや見逃しちゃうね

：888888888

：ぶち56ですわぞ、～～！

：y p aさんの観察力もパなかつたな

：カツツエさんもキレキヤラの相手お疲れ様でした

：乳首流出キレキヤラ系配信主見てるかー？

：冷えてるかー？

：パパの皮を被ろうとしたキレキヤラ

：媚ひを売り切れなかつた男

：本性見えてますよ笑

：キレ芸を磨いていくのはどう？

：礼儀正しくキレるセンスだけはすこ

：サイフ（の女の子）に優しくボスに厳しい配信者の屑（鑑）

『えー……、今回はここまで！以上、閉廷、閉廷っ!!

視聴者の方々も、協力してくださつたRさん、y p a 9 1さん、カツツエさんも、皆さんありがとうございました!!』

第14話 星5レアの人形は配信者見習いに夢を見るか？

ハロ～！私はRFBだよ！

ここ最近、長期の任務を任せちゃつて、疲れちゃつた～～。。。ちよつと休んだところで、早速、いつもの動画サイトにログインする。

私はここで、コンビの配信者K&Rとして活動してるんだ！

Kは誰かって？気になる人は私の動画を見てね！さてさて、他の人の動画をチェックしないと～。

お気に入りの人や、仲良しの人が投稿した動画を眺めつつ、ニュースアプリを開く。もちろん、ゲーム関連のもの。やっぱり流行つていうのはあるからね！

ふむふむ……えっ！あの2020年の伝説のクソゲー『ラストソード』がVRとしてリメイクされる！？

へえ～。出たらやつてみても良いかも！

もしかしたら、リメイクに伴つて面白くなつてるかもしねないし？動画に使えそうなものや純粋に興味を惹かれた記事を保存していく。

そうやつて眺めていくと、変な記事をひとつ見つけた。

なになに、イケメン配信者の乳首流出……？そんなエロゲームみたいなことが、現実に？

その記事を開くと、その元となつた動画が載せられた記事が出てきた。

投稿者の名前は【410】

名前の通り、410と大きくロゴのかかれた帽子を被つているイケメンの姿が出てきた。

「へ～。有難いけど、ちよつと可哀想かな。

それにしても、なんかラノベヒロインの設定みたいな感じだね。イケメン配信者で隙だらけって。」

他意はない。

ないんだけど、とりあえずネタにはなるかもしいれないと想い、彼のページをブックマークしておこうかな。

配信者のページにまでたどり着くと、彼は現在生放送中だという。
え、え!? タイミング良すぎない? もしかして確定イベントだつたのかな?

初回の放送で事故を起こしたのに、放送を続けるなんて、結構メンタルが強いね

いやいや、それはいつか。

とりあえず見てみようっと! 何事もチャレンジだよね、ゲームも現実も!

開くと、そこには記事にも載っていたイケメンがリアルに動き、話をしていた。

どうやら偽物ではなく、加工などもしていないようだ。

本物のイケメンが配信している。

けれど、それへの感情が来る前に、彼の口から驚くべき言葉が飛び出してきたので、私の思考は止まってしまった。

『それは、僕の…その、ち…ち…』

『僕に関するセンシティブな動画です!!』

おおつと! 何やら衝撃的な発言が飛び込んできたね……彼が流出動画の人っていうのは間違いないみたい。

さらに、驚く事は続していく。

y p a 9 1・贈ったゲーム、早速楽しんでくれてるみたいで嬉しいです。

『あ、あなたが⑨さんですか!

わ…わいびーえー? 91さん。本当にありがとうございます! マジでありがとうございます!!

初めてこういったゲームをしたので、めちゃくちゃ楽しいです!!

こういつてしまつてはなんですが、正直VR機械を入れてたのはネタとしてだつたので……まさか周辺機材とソフトまで頂けるとは……本当、ありがとうございます。』

へへ。今やつてるPL10VR、貰い物だつたんだ。

あれを貰うなんて凄いなあ。周辺機材も含めて、なんてね! ……送り主の名前にちょっと見覚えがあるけど、まさかあの子じやないよね……? そんな子だつたかなあ。静かで、本が好きなイメージだつたし。

ま、いつか!

ふーん。ゲームは初めてなんだ……そつか、本当?

彼のプレイを見ると、どうしても違和感が拭えない。

ゲームは、その内容によつて、ある程度お約束が存在している。これはゲーム内だと当たり前だが、ゲームを知らない人は驚くような内容のことも、勿論ある。

それは、「回避の無敵時間は敵の攻撃に突つ込んだ方が良い。」ということだつたり、

【死にゲーのザコ敵は無視して走り抜けても良い。相手をするにしても、集団から離してから一人一人倒す。】ということだつたりする。

彼の動きはぎこちない。VRゲームを遊ぶのは本当なのだろう。けれど、おそらく、彼はそういう【お約束】を知つていて。

【レベルを上げた際、どのような能力を強化すると何が変わるか。】や、【どんな通路に宝箱が配置されてそうか。】などは分かつていてるのだ。ここら辺は攻略サイトを見れば分かることだらうけど、彼はプレイしながら攻略サイトを見ている余裕や時間は彼にはなさそうだ。

そこが不思議だつた。VR初心者なのに、ゲーム自体は中級者から、ものによつては上級者かもしれない。そんなチグハグさ。もしかしたら、レトロゲーしかやつた事がない、とか？

けれど、そんな事は有り得ない。自分の変な想像を切り捨てる。VRではないゲームなんて、数十年前に生産が終わつてゐるし、その数十年の間に、人類は今まで対面した事がないような未曾有の危機に何度も直面してきた。

だから、大戦前や北蘭島事件前の遺物のゲームなんて、それこそおいそれと手が出せないコレクター向けのものでしかないし、それよりも今のゲームの方が技術は進んでいるし、没入感も強い。

そういう理由で、今更昔のゲームをやるのはその手のマニアしかない。

そこまでのゲームマニアが、幾ら最新機種とはいえ最大手の据え置き機を持つていないので考えにくい。

彼は……面白い！

私の中で、彼は【警戒心の緩いイケメン】から、【興味深い新人配信者】へと変わつていった。

というわけで、コメントをしてみる。

私の事は知つてるかな？ 知らないかな？

ワクワクしてきた、送信ボタンに指をかけると、知らず、口角が吊り上がる。

新しいゲームを始める前のことだ。

ビニールを破り、本体に差し込む前のドキドキ感というのだろうか。

彼の秘密、というかどんな背景があるのか気になる！

イケメンで警戒心が緩く、配信者と言うだけで不可思議の塊なの

に、そこにVRゲーム初心者なのにゲーム初心者ではないという事までもが加わり、摩訶不思議の闇鍋とかしているのだ。

気分は推理ゲームの証拠探し。誰かの秘密を暴くとか明かすとか、そんな気分！

彼がどんなゲームをしてきたのか、気になるしね！

天才ゲーマーR：初めてのゲームにしてはかなり上手いね！センスあるよ！

e：こマ？ R来てんじやん

t：マジか、早くコンビチャンネル更新して？

l：KとRのドンカラツお代わり動画すこ

n：Kの方はどう森で1日でローン返済をしてからやること分からなくなつたつてまじ？

a：Rさん色々な配信見てるっぽいもんな

g：いや、本物なのか？

私のコメント、気づいてくれるかな？

嬉しいことに、ファンの人達もいるみたいだし！

人の配信でんまりコメントを取るのもマナー違反になつちゃうし、ワガママだけどんまり反応されるのは、遠慮したいんだけどね……

『Rさん、ありがとうございます！

まあ、VRは初めてなんんですけど、ゲーム自体は初めてじゃないんですね』

コメントに気づいてくれた！あれだけ他のコメントも反応してくれたら、そうだよね。

……つと！ いきなり確信を突いてきた。

概ね、私の予想通りだ。

さて、彼の言う【ゲーム】って何を指してるのでしたのかな？

s : VRじゃないゲーム?

b : それスマホアプリじゃね

g : わんちゃんレトロゲーしかしたことない説

y : それは草

同じような考え方に行き着いた人もいるみたいだ。けど、それは本当に非現実的なこと。

もし居たとしたら、合成豚肉を食べたことはないけど猪肉は食べたことがある人みたいに稀有な存在だ。

彼の言つたことは本当だろうけど、それだけでは無いのだろう。まだあまり深入りはしない。

とりあえず、アドバイスでも打つておこうかな。

天才ゲーマーR:なるほどね。あ、バースティトの速い動きが苦手なら魔法で遠距離した方が良いかも?バースティトは魔法に弱いしね。

『おお、ありがとうございます!次はそれで行つてみますね。』

彼の動きは、初心者にしては中々上手いものがあつた。人からのアドバイスを聞き入れ、一つ一つ試していく。負けてもやられても反省を生かし、先程より長く戦えるようにする。

それらは死にゲーで特に大事な事だけど、他のゲームでも大事な事だ。

やっぱり彼は、【ゲームが分かつてている】んだろう。

『この距離なら槍は振れないな!』

懷に潜り込んで、小剣を振るう彼はそう叫んだ。

直後、ボスはバックステップしながら槍を薙いできた。彼は、その一撃を前に踏み込んで、生み出された距離を殺しつつ回避する。

『神回避！今の回避見たみんな！？初見の攻撃を神回避しちゃつたぞお！』

【ミコモ】 だ。

咄嗟の回避で前に飛べるのは、アクションゲームに慣れてるか、よっぽど器用な人だ。彼は、プレイからはあまり……器用には見えない。それに、反射的に口から【神回避】とすぐ出てくる辺り、ゲーム好きな人種だろう。

「やつぱり、面白いな！」

ついつい、ニヤニヤしてしまう。

それからも彼は

『術の硬直が長すぎるっ!!』

『あー、やつぱりね!! こういう所には隠し通路と宝箱があるよなあ〜。』

『躲しただろ今のは！ 疑わしい判定だなおい！』

『軸合わせスギイ！ ターンテーブルが足元に生えてんのか？』

『敵の硬直時間に刺しこんでいくう!! 気持ちいいねえ！』

『（溜め攻撃しつつ）顔がついてるから取つてあげる』

『何そのビーム！ ワンサイドゲームがお望みか？ ビームばつか撃つな？ 無理はしなくていいんだよ？ 楽になつちやいな？ 楽になつちやお？』

『おいおいおいおい！ こつちを嵌めて一人だけ気持ちよくなつてんじゃねーぞ!! 僕にも気持ちよくやらせろ！』

『は？ そこで難ぎ払いのループするん？ IQ 2億だろこいつ！』

『起きハメはやめろ！ 繰り返す！ 起きハメはやめろ！』

『ピヨつたあ！ やめろ、死にたくなーい!!』

など、ある程度ゲームに精通していないと出ないだろう言葉を繰り返していた。

時々、独特な言い回しが混ざっていたけど、ゲーム中について出ちや

う言葉つて結構地域差が有るしね。

けど……あんまり、男の人が気持ちよくつていうのは良くないと思うかな……それに、それってゲームで使う言葉?

何度目かの挑戦の後。

彼は、バースティトの前半戦を完全に凌げるようになつていた。【屍喰鬼の懐刀】はリーチが短い代わりに手数が多く、攻撃後の隙も小さいのが取り柄だ。

彼は、槍の攻撃を見抜く代わりに予兆を見て回避を重ねている。リズム感いいね！音ゲーとかもできそうかな？

そこで、彼は私を再び驚かせた……というか、私の興味を、とても惹いた。

H Pを半分まで減らし、第2形態。彼は一方的に遠距離から攻撃を撃ち込んでいた。

しかし、彼はいつもこの後のワープからのバックスタブにより殺されている。

これを繰り返していたら、また同じ目に合うだけだ。彼は、どう対処するつもりなんだろう？

案の定、バースティトはワープを繰り出した。

彼はその場で棒立ちになつた。この動きは、さつきからもう何度も見ている。先程まではそのまま死んで行つてたけど……

数瞬の後、バースティトがワープを行つて、攻撃を繰り出してくるであろうその瞬間。

彼は、【野獣の咆哮】を用いてカウンターを取つた。

これを、これを狙つていたんだ!!見てて凄いかっこいいし、楽しくなれる良いプレイ。

彼は、見せ場を作ることを、というか、視聴者さんを楽しませることを意識しているのかな？

ゲームの中ではいえ、勝ちよりも楽しめることを念頭に置いているのは、同じ動画投稿者として好感が持てるね！

だけど、彼はそれだけじゃなかつた。

倒れたバースティトへ【顔無きスフィンクスの爪剣】を当てる。そして、起き上がつたバースティトはもう瀕死の状態。なんでもいいから当てさえすれば勝てる状況で、彼は……。

遠距離攻撃の【異浸伝神】ではなく、溜めが必要な近距離攻撃である【顔無きスフィンクスの爪剣】をわざわざチョイスしたんだ！

彼は、どこまで人を楽しませることを優先しているんだろう。

もし、もしも、これが決まつたら……それは相当に【気持ちいい】んだろうな。

果たして、結果は彼の狙い通り。カウンター判定で威力の増した溜め攻撃が、バースティトの体に突き刺さつた。

勿論それは、オーバーキル！バースティトは倒れていつた。

ああ、彼の言つていた言葉の意味がようやく分かつた。

これは本当に、【気持ちがいい】なあ。

ゲームをしているワクワクとか、上手く決まつた時のドキドキとか、全部ひつくるめて気持ちよくなれる。

それがゲームの良さとか楽しさだと思うし、彼の言い方はそれを端的に言い表していた。

最初にちょっとだけ持つっていた、顔だけの配信者かなとか、男だから人気がでたのかなとか、そういう嫌な気持ちはプレイを見てるうちに吹き飛んでしまつた。

彼のことは全然よく分からぬけど、伝わつてくることがある。

彼は、ちょっと怪しいところがあるだろう、ゲームが好きなんだろう。

でも、それ以上に、本当に人を楽しませたくて、配信者をしているんだ！

やばいね。ちょっと胸がドキドキがしてる……さつきの興奮が体を熱くしている。この人ともし遊べたら、どんなに楽しいんだろう！コラボ実況とか、出来ないかなあ？

私は、どうやら、この配信者、「410」の、ファンになってしまったようだ。

そう思っていたら、どうやらマルチプレイの募集をするらしい。好都合かな。

このマルチプレイは、彼がイケメンで人気があるだろうし人がいっぱい集まるだろうね。

久々に、本気で入力しよう。

彼とゲームがしたいし！ここは、負けられないからね！

第15話 人形（ニンギョウ）Aの献身／人形（ヒトガタ）の道化師

人形Aの献身

なぜこの手続きをしたいのか、理由を知りたい。ですか？ 分かりました。指揮官にはお話ししますね。

あの、前に指揮官の部屋に飛び込んだ時、私はちょっと…いえ、かなり驚く出来事があつたんです。

え、驚いたのは私の方だつた？ いえ、私の方が、多分驚いたと…思います。

最初から、話しましょう。

その日、私は運命に会いました。

……その日は、友達のAS_Va1ちゃんの部屋で過ごしていました。

彼女、シャフトちゃんはあんまり、煩いのは好きじゃないから。私は、私を、あまり気にかけて欲しくないから。

それぞれ、彼女はパソコンで何かを見ていて、私は本のページを捲つてました。それが自然な距離感で、これが私たちの付き合い方でした。

私は、元々特殊部隊向に作られた、本来は目の目を浴びない種の銃です……まあ、それは、シャフトちゃんも一緒ですけど。

私は、だからこそ注目を浴びたかった。活躍を褒めて欲しかった。誰かに、見つけて欲しかった。

シャフトちゃんは、人の目をあまり惹きたくないみたいだけど、私はその感情が分からなかつた。

けど、私がどれだけ望んでも【私】が見られることはなかつたんで

す。

私は、自己主張をあまり出来る性格ではありません。

それは、メンタルモデルがそういう傾向だつたというのも勿論あるでしようが、何よりも消音性を重視した弾丸を用いたアサルトライフルだということも関係していると思います。

だから、自分からは話しかけられないけど、誰かに認めて欲しい矛盾に苦しめられていました。

私は、その消音性から夜戦に出番が多い人形なので、帰ってきてもみんな寝てしまつていて。

褒めてくれる人も、見てくれる人も、同じような環境のシャフトちゃんしかいなかつたんです。

他の誰も、私と話してくれないようで、同じ環境の友達しか私を知ってくれなくて、私を認めてくれなくて、だからこそ、私を見てくれる人を探すのは辞めてしまいました。

私を気にしないで欲しかつた。

期待を持つてしまいたくはないから。

劇的な何かがあつた訳では無いけど、毎日の諦観が募つて出来た感情は、私にはどうしようもなかつたですし、どうしたらいいか分からぬものでした。

そうやつていつも通り、諦めながらのんびりと過ごしていたら、シャフトちゃんが急な呼び出しを基地内放送で受け、司令室へと向かつて行つたんです。

随分と急いでいた事もあつて、彼女はパソコンの電源を切り忘れてました。

このことに気がついたのは、本を読み終わつてページから顔をあげた時だつたんですけど……

パソコンの画面が点いているのに気がつくと、私はパソコンへ向かつていつた。

最初は、パソコンの電源を切つてあげようとしたんです。けれど、

シャフトちゃんが何を見ていたのかが気になつて……勿論、履歴とかブックマークまでは見る気はなかつたです。

でも、画面に今何が表示されてるかくらいは見たくなつてしまつて。

そこには運命の人が映つていました。

その画面の中では、1人の男の人が話をしていました。

とはいえ、別に一目惚れしたとかではありません。最初に見た時は、顔が整つてているかなつてくらいでした。

でも、何を話しているのか気になつて、パソコンに繋がつたイヤホンを耳へ入れ、話の内容を聞くと、衝撃が走りました。

『あれ、あんまり知られてない曲なんでしょうか？

とはいえ、真っ先に名前が出るのは知られざる名曲みたいな感じで、それはそれでカツコイイですね！』

頭を、撃ち抜かれたような感覚を覚えました。

撃ち抜かれたのは、心なんですけどね？

コホン、兎にも角にも、その言葉は私の少しづつ固まつた心を覆う諦めを、あまりにも暴力的に壊していきました。

知られていなくても良い。知られざる、知られていなからこそ、カツコイイ。

カツコイイ？認められた？みんなに知られていなくとも、認めてくれていた？

みんなに認められていなくても、誰かからは認められていた？

そんなことが、有り得るの？

その後、彼が何をしていたか。話していたかは知りません。

その衝撃のあまり、私は、反射的に、指揮官の元へと走つていまし

た。

今思い出しても恥ずかしいんですけど、あの時、部屋に入るなり「私を、認めてくれていますか！」って泣きながら叫んでしまったのはそういう、理由だつたんです。

話してもないのに、勝手に諦めて、馬鹿みたいでしたよね、私。でも、そのおかげで、私は、指揮官と話すことが出来て、気持ちが分かつたんです。

彼はその……恩人なんです。私の、心の。

切つ掛けだつたんです。人に見てもらつていたと、知ることの。なので、私の給与から差し引いてPL10VRとソフト、周辺の配信機材を彼に送る手続きをお願いします。

え？ 恋？ 貢ぐちゃん？ いえいえ。ほんの、恩返しですよ、指揮官。でも、それで彼が、私を見てくれば嬉しいですね。

あ、私がここまでするのはイケメンだからでも、男の人だからでもないですよ？

もしも、あの人女性だつたとしても、同じことをしました。それだけは間違いないです。

それじゃあ手続き、お願ひしますね。指揮官？

え？ 手続きを代わりに、もしもフレンドになれたら一緒にやらせて？

もし、なれたらなら構いませんよ。勿論、彼の了承もいりますけど。

あたいは、【カツツエ】……と言つても、仮名なんだけどね。あたいの名前が知られると、ちょっと困つたことが起きるかもしないから。

この名前も、結構気に入つてるしね。

カツツエ。ドイツ語で猫。

つまり、ドイツでは、古代ケルトから遙々伝わるお祭りの【生贊】うん、なんともあたいらしいや。

幸い、【あの人】のおかげで、【あの事件】でも死ぬことはギリギリなかつたけど、容量ギリギリなのに致命的な負荷が掛かつちやつたせいであたいのメンタルモデルはもう戦えない。

咄嗟の平衡感覚とか、手の安定に異常が出ちゃうらしい。だから、今ではもっぱら、部隊の裏方。データ集めとか、情報処理とか、裏取りとかのね。

とはいえる、あたい達の部隊は連絡が出来ないような場所の任務に回されることもある。

そんな時、着いていけないあたいは、待つしかない。

だから、ゲームとか本が好きになっちゃった。

何もしないで待つてると、ストレスがやばいからね。

それで、最近ハマつたのは生配信。

もし同じゲームだとしても、色んな実況者さんがやると、バリエーシヨンが出るというか、それぞれの味が出て面白いんだ。さて、そうやって見ていると……あれ、この人。

数日前に、イケメン配信者が初回の放送で乳首が流出したとかで話題になつていた人。

いや、あたい達にとつて、それだけでは無い。前に任務中に遭遇したことがある存在で、かつ、現在の任務の【対象】となつている存在だ。【リンクス】が接触を行つていて。

リナさんのアパートに今は住んでいる、何故かグリフォインで保護さ

れていかない記憶・身元不明者。しかも配信者名がなんか……うん、
ちよつと思うところがある。

初配信での流出動画を【ベルーガ】に見せたら、すつごい爆笑した
後に【ジェロニモ】に見せて【レーヴェ】共々殴られていた。

まあ、顔が真っ赤になつたジェロニモを散々からかつたベルーガと
レーヴェにも問題はあるよね。

こういう時、真っ先にジェロニモを揶揄うだろうリンクスが黙つて
いたのは謎だけど……

さて、そんな我が部隊でもホットな話題である彼が今配信をしてい
るらしい。見てみようつと。

…………なんか、流れで一緒にプレイしちやつた。

うえええ……さつきまでは楽しかつただけだけど、今になつて緊張が

…………うう……

というか、最初のほうで……

『…………えーっと、カツツエさんはいい声してますけど、声出して大丈夫
なんですか？ほら、プライバシーとか。』

『カツツエさんはいい声してますけど、声出して大丈夫なんですか？』

『カツツエさんはいい声してます』

『いい声します』

ああ言つた手前だけど、実は面倒くさくて自分の声をアバターに登
録していたのだ。

あ、あたいの声が、褒められ……！

いやいやいやいや、流石にお世辞だろう。

いや、それでも……いや……うーん……

考えても仕方ないし、食べ物を買いにでも行こつかな。

褒められたと思っておこう。その方が嬉しいし。

そう思つて今の仮住まいを出た時に、階段から降りてきた人と遭遇した。…今は、1番会いたくなかったんだけどね。

「あ、どうも」

「あれ? よ…………ウエデリアさん? じゃないか、初めまして。」

「あはは! 【私】はセターリア。ウエデリアのお姉さんだよ。よろしくね。」

「僕は祠堂透吾です。よろしくお願ひしますね。セターリアさん。」

そう、先程まで一緒にプレイしていた彼……実況者410こと、対象【祠堂 透吾】に、出会ってしまったのだ。
幸い、声で気づかれてはいないようだが……

「へえ! ウエデリアさんにお姉さんがいたんですね。セターリアさんも、ここに住んでらっしゃるんでしょうか?」

「あ、ううん! 私は時々、ウエデリアの様子を見に来てるだけだよ。ほら、あの子の仕事的に心配だしさ。」

「なるほど、優しいんですね。」

「いやいや、 そうでもないよ。」

焦りはしたもの、接触してしまった際の受け答えの情報は覚えてきつている。

今あたいは、【スクラップ拾い】ウエデリアの姉である【研究員】セターリアである。

よし! うん、大丈夫そうだね。

彼も、不審がった様子はない。

「セターリアさんはこれから何処へ?」

「んー、ちょっと食べ物を買いに、かな。」

「へえ! あ、僕もこれから買いに行くんですけど、良かつたら一緒に行

きませんか?」

「え、え?」

何を、言つてゐるんだこの人は。

初対面というか、会つてすぐの女人人と買い物に?

ウエデリアの姉と言うだけで大丈夫だと思われるほど、彼女が既に信頼を勝ち得ているのか、それともこの人が何も考えてないだけか。ここは冷静に、対象との過度な接触は控えるべきだから断つて……

『カツツエさんはいい声してますね』

……ちよつとくらいなら、大丈夫かな。【任務】からしても、その方が良いだろうし。うんうん。そうしよう。

一緒に買い物に行くくらいじや、何のリスクにもなりえない。冷静な面もそう言つてゐる。

「じゃあ、折角なら一緒にさせてもらおうかな。どこに買いにいく?」「そうですね。じゃあ、近くのスーパーでいいですかね?」

「大丈夫! おつけおつけー。」

これは、対象の情報を集めるのがメインだ。うんうん。

何を作る予定なの? へへ、カレーかあ! 良いねえ!

好きな食べ物は? ゆき鍋とずんだ餅……? そ、そつかあ。

スーパーでの買い物を終え、帰り道。

「ねえ。そういうえば数日前にウエデリアをお嬢様つて呼んだつて本当?」

「あー……はい、そうです。」

「あの子はあれでかなり純粹な所あるから、あんまりからかうのは止めてあげてね?」

「本当に、申し訳ない。」

「まあまあ、そんな気にしないでいいよ。」

そんな風に話していると、アパートまでもうちよつとの所までき

た。楽しかったけど、そろそろ、お別れかな？

「あ、そうだ。セターリアさんに1つ言いたいことがあつたんですけど、」

「ん？ なーに？」

「さつきはありがとうございました。【カツツエ】さん。」

「えつ、え!? な、なになになになに？」

「バレ、てた？ 何時からだ？ なんでバレた？ どうして？ 話す時には注意していたはず。最初に声でバレてた？」

「あれ、違いました？ さつき一緒にゲームしましたよね？」

「え、ええ……いやいや、何の、ことやら？」

「さつき、あたいって言つてましたし、特徴的な一人称だったので。」

「え、言つてた？ いつ？」

「ふふふつ。カマ掛けですよ。貴方の妹にされたんでね。やり返してやろうかと。」

やられた。

発端になつたのはウエデリアなのに……

「ええー！ なにそれ！ やり返すならウエデリアにしてよ！ それにしても、いつから分かつてたの？」

「ははは!! まあ、最初からですね。セターリアさんの声、好きだつたんで覚えてたんですよ。」

「えつ、あれ……本当のことだつたの？」

「本当つて？」

「いい声とか、その……そういうの。」

「本當です。セターリアさんの声、俺は好きですよ。」

顔が熱い。彼の方を見れそうにない。

なんでこの男はそんなにポンポンと好きだのいい声だの言えるん

だ！こちらの気持ちも知らないで……いや、知らないからこそ言いや
すいのかな？

「セターリア！おつかれさ…………ま？…………あれ？隣にトーゴが居るよ
うに見えるんだけど、幻覚かしら？」

アパートの前には、私を待っていたのだろう。ウエデリアが立つて
いた。あっちやー！ちょっとやばいかな……

一見すると普通に見えるものの、今の彼女の中には様々な感情が渦
巻いているのだろう。

金の目が爛々と輝いているのが見える。

さて、どう言いくるめようか…と考えていると、彼が驚くべき一言
を発してきた。

「あ、ウエデリアさん。こんばんは。

折角なら、またうちで夕飯食べませんか？」

何を言っているんだ、この人は。

16話 ドキドキ！姉妹と秘密の夕食!?（秘密ボロリは）ないです。

俺はスーパーで夕飯を考えつつ食材を買いながら、チラリと横に目を向ける。

楽しそうに買い物をしているライトグレーの髪をした少女。

セターリアさんとばつたり会った時は焦った。

配信で出演したカツツエさんの声にそつくりで、かつ配信中から疑つてたどつかの人形にそつくりな見た目をしていたからだ。

そう。ストーリーに於いては壮絶な最後を遂げることになる人形であり、45姉の価値観形成に深く関わっている彼女。UMP40。404小隊に出会つたということは、恐らく45姉と関係のあつた彼女は死亡していると思つて間違いないだろう。

しかし、このアパート・ヒポグリフには、ウエデリアこと45ちゃんが住んでいる。

そして、セターリアさん本人曰くウエデリアの姉だと。

これは……どう見たらいい？

UMP40とUMP45という人形自体の相性が良いのか。

それとも、この世界だとUMP40が生き残つていて、その結果が45姉改めて45ちゃんという状態に繋がつているのだろうか。そうなるとウエデリア＝45姉疑惑が再浮上するが、果たして……？

このアパートの家主たるリナさんは、恐らくグリフィン系列に関係を持つてゐるはずで。

……ま、どちらにせよ、だ。（少なくとも声と見た目は）UMP40と歩いている事に一切の変わりはない。

アプリ内で45姉と誓約していたことから考えれば、義姉さんと買

い物に行つてるも同然のシチュなのでは？

今は難しいことは考えずに、可愛い女の子とスーパーで食べ物を買うという至福に浸かつていよう。

会計を済ませ、スーパーを出る。横を見ると、隣には40ちゃんが居る。その手には、食材の入ったレジの袋。その中には、ジャガイモやニンジンなどが入つていて。

そう、特売コーナーに合成ではない見慣れた野菜の姿（工場産）があつたため、つい奮発してしまつた。

ああ～！なんかこう。なんかこう！若妻感というか、同棲カツプル感が半端ない!!生きていて良かつた!!

公園に通りがかつたため、ある物を袋から取り出す。

「あ、そうそう。セターリアさん。」

「ん？どうしたの？」

「これ、食べます？」

そう言つて取り出したのは、みんな大好き2人で食べるアイス。俺はこれが大好きなのだが、一人で食べると虚無感とお腹が……辛いねんな。

というわけで、せつかくの機会なので買つておいたのである。

「お！いいね～！貰つちゃおうかな。」

「よしきた！それじゃ、そこの椅子に座りましょっか。」

公園のベンチに移動した。公演と言つても、緑は少なく、運動のできるスペースの多いような公園だ。

電灯の明かりが、広場を照らし出している。

夜の静寂が心地よく、少し涼しい気候で過ごしやすい。

「はーい。じゃあこっちのコーヒーミルクを貰おうかな。」「じゃ、俺はソーダ味ですかね。」

なんと、この世界の2人で食べるアイスはひと袋に別の味が入つているのだ！

「いやー、やつぱりこのアイス、チープ感が最高に美味しいよね！貰つておいて悪いんだけどさ。」

「分かります分かります！」この、いかにも安いぜ！って味が堪らなく美味しいですよね！」

「うんうん。シドーくんは分かつてるねえ。」

2人でベンチについて、アイスを食べること、しばらく。俺の頭に電流が走った。天啓が降りてきた、と言つてもいいかもしない。

しかし、こんなことをしても許されるのだろうか？逡巡すること、少し。

しよう!! ドン!!!

エンジヨイしなきや勿体ない！だつて人生は1回だからね。

ここで辞めたら俺たちの平成が醜くなつてしまふ！（現・平成32年）

ので、やることにした。

「ねえ、セターリアさん。」

「ん？どーかした？」

「コーヒーミルク味、1口貰いますね。いいですか？」

「いいよ？」

「ありがとうございます！」

彼女はよく分からぬままに許可を出したようだ。

何を聞かれたのかさつぱり分からぬよ。とでも言いたげなきよとんとした顔がなんとも可愛らしい。

柔らかく握りこまれた手も丸くて小さくて可愛らしい。

そんな手に持たれたコーヒーミルク味のアイスへ、そのまま口をつけた。

間接キツスが合法つてマジ？こんな状況ならりますねえ！やりますやります。（フンケの脣）

なんか、絶対気の所為に決まつてているのだが、ふんわりと甘い味がした気がする。

「ひえっ？」

「ははは！ どうしたんですか、セターリアさん。変な声出して。」

「え、え、え。いまその……あ、わたしの、食べかけだよ、それ？」

「やだなあセターリアさん、そんなことは見れば分かりますよ。あ、僕の分もいりますか？」

うおお!! 反応もマジで可愛いな……

賢明な読者の方々はもちろんご存知だと思うが、ハイテンションだつた子が急にしょらしくなつた時の温度差は半端ない。

驚いた時の声は、姉妹と言うだけあつてウエーデリアさんにそつくりだつた。

「えっ！ でもそれ、シドーくんが口をつけたやつだよね？」

「そうですけど？ あ、誰が口にしたとか結構気にするタイプですか、セターリアさん。」

「いや、あんまり気にしないけど……」

「じゃあどうぞ。あーん。」

「ううう……」

顔を真っ赤にして俯いてしまつた。ねえ、今どんな気持ち？ 今どんな気持ち？

お顔真っ赤で可愛いね？

食えよ、オラツ！ 間接キッス!!! キーツス！ キーツス！

「どうしました？ セターリアさん。」

「うぐぐぐぐ……やつてやる！ 女は度胸だしね!!!」

そう気合を入れて、1口。

「美味しかつたですか？」

「」

「あれ？あつ、フリーーズしてる。」

「……代理処理機能部に過負荷がかかったため、メンタルモデルを一時停止しタスクの処理を行います。」

「久しぶりにこの反応を見たわ。確か、前はM1911がこうなつちやつたんだよな。」

待つしかないなあ。

この後、再起動したセターリアさんを見て笑つたらめちゃくちゃ怒られた。

怒り方も可愛らしいもので、

「いい？男性がああいうことを気楽にするのはダメなんだよ！」とか

「あれは恋人以外とやらないようにね！」

と、腰に手を当てながらブンブンしてきて可愛いだけだった。

さて、（一方的に）楽しかった帰り道も終わりかけ、そろそろアパートに着きそうな頃。

ひとつ……最初から聞いてみたいことがあつたんだよな。勿論、この子がストーリーと関係しているUMP40なのか、ということではない。

好き好んで數をつつく趣味はない。厄ネタすぎて死ぬ予感しかしないぞ……

そんなやばいことではなく、先程一緒にプレイした【カツツエ】さんと同一人物なのかな？ということだ。

違つても、アパートに近いことを口実にサラツと別れれば大丈夫だろう。

あつ、そうだ（思いつき）。この前45ちゃんにやられたことを、つ

いでにやり返してみるか。

「そうそう。セターリアさんに1つ言いたいことがあつたんですけど、」

「ん? なーに?」

「さつきはありがとうございました。【カツツエ】さん。」

「えつ、え!? な、なになになになに?」

おやおや? この反応は? やっぱりそうなのか?

「あれ、違いました? さつき一緒にゲームしましたよね?」

「え、ええ……いやいや、何の、ことやら?」

「さつき、あたいって言つてましたし、特徴的な一人称だったんで。」

「え、言つてた?! いつ?」

引っかかった!!

「ふふふつ。カマ掛けですよ。貴方の妹にされたんでね。やり返してやろうかと。」

「ええー! なにそれ! やり返すならウエーデリアにしてよ! それにしても、いつから分かつてたの?」

「ははは! まあ、最初からですね。セターリアさんの声、好きだつたんで覚えてたんですよ。」

「えつ、あれ……本当のことだつたの?」

「本当つて?」

「いい声とか、その……そういうの。」

「本當です。セターリアさんの声、俺は好きですよ。」

そう伝えると、彼女は顔を赤くして黙り込んでしまった。40ちやん……がわ、い、い、な、あ、!!!

あれ? アパートの前に誰かたつている。誰だろう?

……背丈といい、雰囲気といい、何故か嫌な予感がする。背筋を冷

や汗が伝った。

「セターリア！おつかれさ……ま？……あれ？隣にトーゴが居るよう見えるんだけど、幻覚かしら？」

そう言つて微笑んだ彼女は、そう。噂の45ちゃんことウエデリアさんであった。

笑顔です。と言つてあげたくなるような笑顔だが、それを見て感じたのは、純然たる恐怖。

こいつあ、不味いですよ！

何がやばいかは具体的には分からないが、翌朝に目を覚ませなくなりそうな危機を感じる!!

目がキランキランに光り輝いてらつしやるしな!!

一説によると、走馬灯とは死を目前にした脳が起死回生の一手を探すことである。

きっと、俺の脳へさしかけられた一筋の光も、同様のものだつたのだろう。考える前に口が開いていた。

「あ、ウエデリアさん。こんばんは。

折角なら、またうちで夕飯食べませんか？」

「あら、お誘いありがとうございます。トーゴ。それはそれとして、セターリアは何でそんな所にいるのかしら？今日は貴方が来るつて聞いたから、早めに帰ってきたんだけど？買い物は楽しかったかしら？」

「はは？いや、その……ちょっとした縁でシドーくんとゲームしてね？それで、終わつた流れでタゴ飯の材料を買いに行くことになつてさ。あは、ははははは。」

「へえ？まあいいけど。で、何？トーゴ。またご飯のお誘いかしら？」

丞先がこちらへ向いた。ここからが正念場である。まず、彼女がここまで怒っている原因は俺には分からぬ。

以前会った際も、動搖するまでの彼女は45姉のような、人をくつた態度を崩すことはなかった。

ということで、この型の人形……というか、ウエデリアさんは少なくとも45姉めいたメンタルを持つてることに変わりはないはずだ。

45姉を基準に考えると、彼女が激情を表す瞬間はスキルや重症時などの戦闘中であり、気分が高まつてゐるであろう場合のみである。

そんな彼女が、家で姉を一人で待つことになつた程度のことになるとブチ切れるのだろうか？

俺という部外者の前だからそれを表に出してはいないが、その瞳に込められた激情は見るだけで何かを覚悟してしまいそうなくらいの怒氣を放つてゐる。

つまり、なんでこんな怒つてるか、私には分からん（無能博士）。

こういつた時、俺が持つ打開策はひとつしかない。

これ下手にやると怒りを煽るだけだから、やりたくないんだよな。しかし、彼女は怒りを隠す……と言うよりも、本心そのものを隠そうとするタイプのため、そこまで分が悪い賭けとは思わない。

「そうそう。理由は分からないけどさ、なんか嫌な思いをしたつぽいじゃん？お腹も空いてるだろうし、食べながら話聞こうかなって。」「…………」

必殺！敢えて素直に、怒りを指摘する！

やる相手の見極めを間違えるとめちゃくちゃやべーことになる一手だが、どうだ……？

無言が1番怖いっす……！

「そうね。お気遣いありがとう、そういうことならび一緒にさせておうかしら。」

そう言つてため息をついた彼女の目に……怒りの色は見えなかつた。ヨシ!!（指差し確認）

ナミシ！（押差し確認）

帰つたあとセターリアさんがどうなるか?

知りません、自己責任でお願いします。

さて、そんなこんなで……2人を招いたわけだが……よくよく考えると、見た目的にはＵＭＰのおふたりがお家にいらつしやるということで……

どうすつかなー、俺もなー!!

緊張が凄まじい。

とりあえず、以前のようにクツーションに2人を座らせる。

「じゃあ、僕は料理してますね。」

「あ、私もやるよ！」

「それじゃ、私も…」ウエデリアは慣れてないんだし、座つてて!」……
はーい。」

45ちゃん料理出来ないのか……それはそれでアリだな。

こここのアパートはその防音や各種設備の充実度合いに見合った広さのキッチンのため、頑張れば3人くらいで料理できそうな広さがある。

やつぱり何かヤバいだろこ。

2 人にてニリテノニエ

裕があるのが幸いである。

料理を続ける傍ら、セターリアさんが話しかけてきた。

「助けたって？」

「ああ！ほら、アパートの前でさ。ウエデリアを落ち着かせてくれたでしょ？」

「いえ、あれはウエデリアがその場での感情を鎮めてくれただけですよ。何について怒ってるかは知りませんが、帰つたらセターリアさんは多分めちゃくちゃキレられます。」

「うえつ!?」

驚いた事で、スルスルと流れるようにじやがいもの皮を剥いていた手つきが一瞬だけ止まる。

「いたつ。たはは、うつかりしちゃつた。」

「大丈夫ですか？」

見ると、彼女の柔らかな指先から血が垂れている。

刃先が薄皮よりも少しだけ深く入つてしまつたようだ。

「あー、大丈夫、大丈夫！私はこれでも人形だしね。ほつとけば直ぐ出血も止まるよ。」

「いやいや、一応処置はしどきましようよ。」

パクッとした。いいや、してしまつた。怪我を見ると、反射的にパクッとしてしまうタイプの人間なのだ、俺は。寧ろ感染症のリスクが上がるらしいっすね。

でも、しかし、だからといって、他人の、それも女の子の指先まで咥えるような人間ではない……筈だ。記憶はないし、やつちまつたけどな！！

「え、え、え」

彼女も現実が処理できていないうで、果然とした顔をこちらへ向けている。

このままだとまずい。

何か目覚めてはならないものが目覚めようとしている。怪我人相手にそういうのは非常に良くない。

直ぐに口を離し、ハンカチを渡す。

「これで抑えててください。バンソーコー取ってきます。」

「うえあ？ あ、うん。ありがと。」

未だに現実が見えていないらしい。これ幸いとキッチンを離れ、リビングの救急箱を漁る。

「あれ、どーしたの？ トーゴ。」

「セターリアさんがちょっとトチつて怪我した。大丈夫、かすり傷だから。」

「そう。料理を始めた頃ならまだしも、今？ 貴方がまた何かしたんじゃないの？」

「またつてなんだ、またつて。俺が何かしたことあつたか？」

思い当たることは思いきりあつたが、すつとぼける。また俺何かやつちやいました??

姉：ではないかもしれないが、知り合いが怪我をした状況で、些細に突っ込んでくるような人形ではないだろう。彼女がどちらだったとしても。

「……。ま、いいわ。早く絆創膏持つてあげなよ～？」

彼女は顔を赤くしながらも、そう言つた。

キッチンに戻ると……あちゃー。先程の指先を咥えられた衝撃があまりにも大きかったのだろう。彼女はまたフリーズしており、再起動の為の処理に追われていた。

そんな騒動を挟みつつも、無事にカレーを作り終えた。

「で、ウエデリアは何かあつたの？」

「ええ、ちょっと仕事中でね……。前に言つた宝石を売ろうと思つてたら見つからないの。

で、必死になつて探してたら、仕事仲間が付けて歩いてたらしくて……やになつちゃうわ、全く。」

「そ、そだつたんだ。大変だつたね……。」

注意深く見ていた俺には分かる。一瞬セターリアさんへと目を向けていたことが。

そして、目線を向けられた彼女がビクついたことが。

恐ろしく早いアイコンタクト、俺じやなきや見逃しちゃうね。

「へー、そんなことがあつたのか。お疲れ様。

確かに、失くしたものを探すのつて大変だし、ストレスだもんな。徒労だと分かつたら嫌にもなるよ。」

「ま、そういうことよ。今度の仕事の前に、徹底的に絞つてやらないと

……」

「はは、ははははは。」

セターリアさん、終始苦笑い。やはり、二人の間には何かしらの協力関係があると思って間違いない。

【宝石】とやらは何らかの隠語だろう。

が、それを持つて買い物か……ちょっと、というかかなり抜けてるのでは？

「勿論、やつていいとは思わないけどさ、仲間にも何かの事情があつたんじやないか？」

ちょっとばかし、セターリアさんもフォローしておく。

「事情、ねえ。」

ちらりと目線を飛ばすと、此方へ縋り付くような目を向けてくるセ

ターリアさんの姿が。

だが、すまない。

「まあ、だからといってやつていいとは思わないけどね。せめて、事前に連絡くらいはするべきだしな。」

とりあえずここはウエデリアのフオローだ。ここでのバランスを間違えると、セターリアさんへの折檻は寧ろ強まるだろう。

氣落ちして項垂れる彼女は、それはそれで可愛らしいものがある。あなたの為だから（善意の押し売り）

そんな彼女を見ていると、胸に湧いてくる不思議な感情。これって……もしかして、愉悦？

「さて、姉妹共々お邪魔して悪かつたわ。」

「手当までしてもらつて申し訳ないね！」

夕飯も食べ終わり、2人が帰る事となつた。

じゃ……最後のフオローをしておこうかな。

「いやいや、こっちから誘つたんだから大丈夫だよ。あ、ウエデリアに渡しとく物があつたんだ。ちょっと待つて？」

「私に？」

「じゃ、私は先に帰つてるねー。」

キッチンに戻り、カレーをタッパーに詰める。

「はい、これ。」

「さつきのカレー？どうしたの？」

「ほら、ウエデリアって一人暮らしだし、料理もしないっぽいからさ。カレーなら冷凍しどけば長持ちするし、置いといて損はしないと思って。」

「なるほどね、ありがとう。有難くいただくわ。」

「おう。じゃあな。」

「はいはい、またね。」

外へ出たタイミングで、一度閉められた扉をこちらから開ける。

「あ、最後に。また何時でも来てくれていいから。紅茶くらいしか出せないけどな。」

「そ、それって……」

「またな、【お嬢様】？」

扉を閉める。向こう側から、声にならない叫び声のようなものが聞こえた気がした。

これでヨシ!! 前の反応を見るに、だいぶ感情がしつちやかめつちやかとなつたことだろう。これで少しでも、怒りの感情が薄れないかな。

後はセターリアさんの命運を祈るばかりだ。

—————
何処かのアパートの一室、
及び通信を通して行われた会話

「ねえ、【カツツエ】。【対象】に接触する時はちゃんと事前報告をしてつて言わなかつたかしら?」
「はい、仰る通りです……や、でもね? 接触は本当に偶然で、ばつたり会つちやつてね?」
「へえ。じゃあ、それはいいわ。対象の性格面の調査もお仕事の内だしね。」

「でしょ、でしょ!!」

「……ねえ、じゃあさ。なんでコードネームをそのままゲームで使つてるの?貴方の辞書には危機管理つて言葉はないの?」

「はい、仰る通りです……」

「で、それが元で対象にコードネームがバレたんだつけ?」

「はい……」

「じゃあ変えるわ。今から貴方は【エーゼル】ね。」

・ブフっ!!それは……酷い…ふツ…!!

・口バだ口バ〜!

・ま、馬鹿つて事よね。対象にバレるとか有り得ないでしょ。
「みんなにも異議が無さそうだし、これで決定ね。」

「はーい……深く反省します……」

・あ、そうだ!【リンクス】姉、こつち来る時にカレー持つてきて
くれない?対象の料理をちょっと食べてみたいなく、なんて。

「いいわよ、【レーヴエ】。私たちはもう食べたしね、残り全部あげる

「ええっ!そんなん!!」

「貴方は今、何も言える立場じゃないの。分かる?」

「はい……」

配信3回目【邂逅編】

第17話 えつ！本職の人とTPSですか？

何度もかの生配信をこなしたり、死にゲー実況をしたりとなんやかんや充実していた今日この頃。俺が配信を始めてから凡そ2週間の時が経とうとしていた。

そんな折に、俺は、念願叶つた歓喜に打ち震えていた。

そう、祝・収益化!!!スパチャ解禁!!!

金、金、金！金は命より重い!!

やはり金。金は全てを解決する!!

収益化とは、文字通り動画に収益が発生するようになることである。具体的には、動画にCMが付き、その再生回数に応じて広告料が発生するようになるのだ。

スーパーチャット、所謂スパチャとは、別名【投げ銭】とも呼ばれ、配信中に視聴者の方が配信者に任意の金額を贈ることで活動を応援できるというものである。

こちらでは、配信者の規模によつて上限が変わるように、俺の場合は9万9999円が1度に投げられる限度であつた。同じ人は一日に3回まで、額に関わらず贈ることができらしい。前世とはちょっとシステムが違うみたいだ。

さて、収益化というのは実況者にとつて非常に大きな壁である。

実況を趣味だけではなく、そこで食べていこうと夢見る者にとつての登竜門であると同時に、最低限満たさなくてはならない篩。それが収益化だ。

前世において……といつても、記憶が無いためノートに書かれていることでは、チャンネル登録者1000人の壁を越えられるかどうかが肝になるという。

前世の俺はこれを越えるのに4ヶ月ほどかかったようだ。そのページには、壁を越えることが出来た喜びと、その反面、このペースでは配信だけで食べていくことは難しいと嘆いている記述が確認できた。

最大手であるゲーム実況や商品レビューでその壁を越えることは更に難しく、前世の俺はより専門的な分野、例えば子供向けの釣り道具紹介やアウトドアグッズ、大人向けにクライミングギアの比較動画やサバゲー関連の動画で数を稼いでいたらしい。

また、スペチャに関してはつけてはいたものの、余り受け取ることは出来なかつたとある。

やはり……これがこの世界での俺という存在の商品価値なのだろうか。ゲーム実況のみで、かつ、超スピードでこれを越えてしまった事は俺の中に嬉しいやら悩ましいやら、複雑な感情を生み出していた。

実は、条件そのものは開始から3日もしないうちに達成出来ていたのだ。

忌々しい乳首ポロリ事件の後もう一度配信をしたことで、あの事件による失踪はしないと思われたのか、チャンネル登録者は激増した。今では、何万単位の登録者が存在するのである。

しかし、事故とはいえ社会的ブームを巻き起こしてしまった露出事件の犯人なわけで……審査に時間が取られちゃつたというわけだ。ま、仕方ないね……。

が、これでいよいよ収入を得られるようになったのだ。口座は貰つた（決闘者並の感想）。

現在時刻は夜の9時。

統計的に、最もアクセス数の多くなる時間帯である。この時間帯で、様々な動画を流し見ている層からファンを掴めないかという試み

だ。

息を吸い込み、気付け代わりにめちゃくちゃ濃いめに入れた紅茶を1口飲む。

俺も、こちらの世界での時間をただ配信と宣伝に費やしてきた訳では無い。この世界で好まれるだろう立ち振る舞いを、鏡相手に延々と練習していたのだ！

この動作練習を傍から眺める前世の人が居たら、自意識過剰すぎちやう？と疑問を呈されたかもしない程には完成された動作になつてているはずだ。

少なくとも、1時間～2時間の配信程度なら俺はそれを維持出来るくらいには練習をした。

人は話の内容よりも、話し方が印象の9割を決めるという。それは勿論、配信だとしても例外ではない。だからこそ、話そのものよりも話し方に気をつける必要がある。

そして、事前待機の人数を見て……目を疑つた。そこに書かれていた数字は、上位の配信者レベルの人数だつたからである……！！

それだけ、俺の知名度というか、話題性は高いのだろう。

いや、しかし。俺にあるのは、あくまでも話題性に過ぎない。この話題が過ぎ去るまでに何人の固定層を掴めるかが勝負だぞ、俺！！

もう一度紅茶を口に含み、濃すぎてもはや苦味とすら感じる特濃合成紅茶を舌の上で遊ばせてから飲み込んだ。

機材へ目を向ける。VR本体に、まあ、我ながら情けないことだが、【新しく買ってもらつた】ゲームのカセット。

うん、大丈夫そうだ。

さあ、今日も俺の戦争（配信）を始めようか。

『はい、どうもー。こんばんは！410チャンネルへようこそ！配信前から待機してくださった方々はありがとうございます！まさか、こんなにもいらっしゃるとは……びっくりし過ぎて腰を抜かすかと思いました』

：初めまして！

：初めまして～

：初見です

：本物だ！すごっ！！

：本当にイケメンなんだ

M：よろちくび？ 46792

：初めまして～

：7で「ち」とは、さては麻雀好きだなオメー？

：わけがわからぬよ

：初スパチャおめでとナス！ 10000

：初スパチャがこれなのか……？

：とんでも挨拶じやん

：セクハラで通報しました

秘密兵器彼女：よろちくび、いいね・46792

：これマジ？ フロンティアスピリツツに満ちすぎだろ

：またまた通報（やら）せていただきましたあ～!!

：もう2人もやられたのか……

：リアニが無ければ即死だつた……（Living End／死せる生）

：おつ、生きてんじや～ん！追放したろ！（Path to Ex

ile／流刑への道）

：関係ない動画でいきなりカードゲームの話とかカードしばきオタク怖いな～、戸締リスト4～

：おつ、スト4民おつすおつす！シャカパチ足りてるか～？昇竜拳してみろよwww

：神に向けられし禁じ手見せたろか？

：強い方の【じょうりゅうけん】で草

：シャカパチしたらハンデスしていいゾ（バチオ先生）

み4：初めまして、よろしくお願ひします・5000

（コメントが速い、余りにも速すぎる。とてもでは無いが目で追えないな。初SPAはかろうじて見えたが……これが俺の初SPA
なのかな……遺憾の意を表明したくなる。流出の件といい、あのMつて
やつ絶対ロクデナシだろ。）

『SPAありがとうございます!!えっと、そうですね。……よろしくお願いします。あんまりBANされそうな発言は控えてください
ね。もしもあなたが動画を見れなくなつたら……僕も悲しいです。』

：はえ、セクハラにもとつても優しい

：慈父マリオかな？

：ウラー姉貴といい、やつぱり金蔓には優しいんすね

：ほんそれ、410は卑しい男ズイ……

：わかるマーン!!

モロカク：歌つてみた投稿、ありがとうございます！非常に素晴らしい
くて、私感動しました!!これは、そのお礼です！15000

：あつ、乳首流出の元凶だ

：デスマタル姉貴オツスオツス！5000

：あなたの陰で乳首見えました！ありがとうございます！30000

：感謝の割に乳首挨拶より額が少ない。やり直し。

！30000

(流石モロカクさんだ。そうそう、こういうのでいいんだよ。こういうので。)

『モロカクさん、ありがとうございます。リクエストにお答え出来てよかったです！あと……えー、流出はあなたの責任では無いので、気にしないでください……ね？』

モロカク：……はい。

：ちよつと～！モロカクちゃん泣いちやつたじやない！

：詫び乳首はよ

：はよはよ

：ばよえ～ん！

：人の動画で連鎖すんなや

X嵐：410くん、初見です。・99999

X嵐：これからも頑張ってね！・99999

X嵐：これはお姉さんからの些細な応援です。？99999

：H A？

：parrottoやめろ

：巷で話題のゲーミングインコじゃん

：こわつ……

：ええ……

：やだ怖い：助けてメタルウーマン!!

：本当に、申し訳ない

：打つのが早すぎる上にスパチャの額が酷すぎる……まともなのは僕だけか？！1000

：ひえつ

：ひえつひえで草

：（空気が）キンッキンに冷えてやがるつ！！

：バツチエ冷えますよ～

：上限をいきなり投げつけるの怖い、怖くない？

：些細な応援…？些細？

『じゅ、10万を3回連續で!?……えつ、ああ、えー、あのー、え、X嵐さん、初めまして。そんなに払って大丈夫なんですか!?』

(この世界の俺の人気からして考えていなくもなかつたが、正氣かこの人!? いきなり最高額を投げつけるとか、よっぽどの富豪か熱心なファンか……)

X嵐：心配ありがとう。大丈夫よ、今の410君の配信ペースなら来月いつぱいまでは贈れるから。ちゃんと貯蓄しといて良かつたわ

：どうしてこうなつた

：困り顔410くん可愛E・20000

：キヨドリ410くん可愛い食べちやいたい…ねえラスト、食べていい?

：410くんは食べていい人類だぞ

：食べるの意味すり変わつてんじやくん!

：すり替えておいたのさ!

：心配してるのはそういうことじゃなくね?

：普通に話聞いてたらそとはならんやろ……

：なつとるやろがい!! 7000

：(そんな心配はして)ないです

：ガチ恋勢一本釣りゲームで草

：まま、ゲーム本体送り付けたウラー姉貴よりはまだマシだから

：…（震え声）

：いや、普通にゲーム機超えるだろ。

：貯蓄してた財産をスパチャに溶かすのか：

：戸惑つてる410くん可愛いね? 結婚しよ? 999999

：ま、人生は1回だしエンジョイしなきや勿体ないつてそれ1番言
われてるから

：おまへい!!

：こここの視聴者つて醜くないか?

：ブーメラン定期

：オマエモナー

：お、おばあちゃん!! 2chならもう閉まったでしょ!!

：モナーは2chだつた…?

：ネット老人会やめちくり〜…

：未だにエルシヤダイとかでキヤツキヤしてそう笑・10000

：なんだあ、テメエ…

：ロジハラやめろ

：自分が目立ちたいが為のクソスパチヤやめーや

（貯蓄がどうこうつていうのがもし本当だとしたら、熱心すぎるファンということだろうか…？）

それにして、あまり身を削られても困るかな。

俺は長期的なファンが欲しいし、普通に相手の生活が心配だし。：軽く諫めつつ、今日の企画の話に流すか。ダメだつたらその時はその時つてことで。）

『はい、皆さん応援ありがとうございます！

X嵐さんは、スパチヤのご利用は計画的に。もしもそれで生活に困つたりしたら…僕も責任を感じてしましますので！

あくまで、自分の実況は娯楽として楽しめる範囲で収めて欲しいです。』

X嵐：そ、そうかしら？ 410くんを心配させるのは申し訳ないわね…ごめんなさい、気をつけるわ【本機能は既に1日の上限に達しているため、使用できません。】

…また投げようとしてて草バエル

…さてはこいつ、話を聞いていないな？

…バエルの元に集え！ 30000

…バエルというか410くんだよなあ

…まあ、（財布的な意味で）殺戮の天使みたいなもんだよね

…おつ、ちょい待てい。小悪魔でもあるからどつちかと言うとガム

ダムフレームぞ

：バカばつか。

：おっ！メインヒーローのルイくんオツスオツス！

：は？メインヒーローは幼馴染の艦長だが???

：艦長さあ、幼馴染とか負けフラグ背負つて恥ずかしくないの？

：久々にキレちまつたよ……

（そろそろ今日の企画に移つても大丈夫かな。

まさか、こつちの世界にもこれが有るなんてなあ。前の世界のとは
ちよつと違うみたいだけど……）

『とりあえず今日はですね。…………ＶＲで話題のＴＰＳ【スプ
ラッシユーン】をやつていこうと思います!!』

：タコくんかよ

：溜めた割にはしょぼい

：古くて草

：そろそろ3周年フェスがあるから……・4000

：今更プラシユとか爆笑

：410くんはゲーム初心者だし、多少はね？

：前回のプレイから見るに、そこまで筋は悪くなさそうではあるが

……大丈夫か？

：ＴＰＳとかＦＰＳはまじでやり込みが地力の差で出るからな、難
しいんじやなイカ？

：どうせまた王子プレイされるからへーきへーき・5000

：スパチヤ投げつつディスるとか、こいつとんでもないツンデレだ
ぜ？

『えー、ということで！今回も視聴者さんの方から、一緒にやつてくれ
る方を募集しようと思います。

：とりあえず、ちよつと1人で遊んでみたので操作感自体はバツチリ
ですよ！前回のようすに、介護されることにはならないと思います。

じや、今から部屋のコードを公開するので、参加してくださる人はよろしくお願ひします。』

- ・またくそ高倍率のくそ高速入力クソゲーかあ、たまげたなあ
- ・勝手にたまげてろ
- ・前の時とか格ゲー並みの入力速度を要求されてたんだよな
- ・有志の調査曰く、前回はフレームレベルで申し込みが終わつてたらしいっすね
- ・これマジ? 人間に比べて人形の入力速過ぎるだろ……
- ・格ゲー大会の世界王者は人間ぞ?
- ・人形の入力速度に勝てるの、1部の人間だけだろ
- ・やる前から無理ゲー臭漂つてんな

- (なるほど。人形の方が入力が速い分、先行順だと人間不利になつちやうのか。良くないなあ……そういうのは。)
- 『あ、すみません。次回からこういった企画をする時は、入力速度で差が出ないような方法をちゃんと考えておきます!
- でも、今回はとりあえず先行順ということでお願いします。』

- ・修正早い、早くない?
- ・改善策が出口を求めてグルグルしている
- ・これマジ? 流石すぎるだろ……
- ・要望を速攻で聞き入れ改善する運営の鏡+1919810点・45
000
- ・セクシーバンプ放置してたメンコ運営も気をつけてくれよなあ
- ・勝率60%、使用率70%のデツキの話はやめろオ!
- ・ナイスウ! では全然なかつたな……
- ・ギガになると通常攻撃が2回攻撃で追加効果が2回判定していくお母さんほんと嫌い。
- ・お母さんよりクツサいユリガキ嫌い。子供のくせに火力高すぎる
- ・テフエリーなんで死んでまつたん?

：1番大事な時に時を解せなかつたね……びえん

：雪の原っぱ叩いてみれば、糞運営の音がする

：おつ、フリヤーくん嫉妬か？トンボの嫉妬は醜いぞ？

：カブごときがフリヤー様に勝てると思うな

：F D Oくんいつガチャに天井つけるの？お空行っちゃうよ？

：アーサー王キャスター欲しかつたな〜!! 300回回したからお空なら買えたのになあ〜!!

：アーサー王を、呼符で呼んでもいいんだよオ！

：クソスパチャやめろ

：お前のガチャ結果なんかどうでもいいんだよオ！

：（人のガチャに興味なんて）ないです

：は？なんだそれ、詫び心臓捧げて？

：色々な運営への呪詛が煮詰まつてんな

『はい。では、部屋を公開しますね……参加してくださる方は、下記のコードを入力してください！』

はやつ!!もう部屋が埋まつてしまつた。具体的には「下記の」の辺りでもう部屋が埋まつたぞ……

これは確かに、人間には無理だな。次までに何とかしよう。

……あれ、待てよ。人形の方ばっかり来てるなら、もしかして銃のエキスパートとも言える【戦術人形】も来てたりするのか……!? いや、もし来てても、本人に最適化されてる銃じやなければ、そこまでやばい力は発揮しないはず。

いやいや、普通に考えて戦場で戦つてるやつに勝てるはずないだろ !! 3対1でも負けるわ！

ええい、ままよ！そんなことを気にして仕方ない、来てない可能性もあるしな。

とりあえずメンバーを見てからだ。そこから考えよう。

あなた. 【410】

参加者. 【8つ8（はつぱ）】【犬猫狐】【[†]超進化[†]ツリ】【み4】

【なーおばちゃん】【X嵐】【いよかん】

なんだろう、とても嫌な予感がする。

第18話 一生このまま負けたままで！生きたくな いつつ!!お前に勝つつ!!（導入編）

今回行う試合の形式は、4人対4人に分けられて行うチーム戦である。

目が覚めたら居そうな謎の白い部屋にて、まずはチーム割りが行われる。

そこから、チーム別に部屋が仕切られて、作戦時間を兼ねてまずは準備時間が与えられるのだ。そこから試合開始となる流れだ。

ランダムマッチでは準備時間はなく、チーム分けからいきなり戦闘開始となる。

さて。チーム分けが始まる前に、ちょっと参加者さんの名前をもう一度見てみよう。俺にはちょっとばかし気になることがあったんだ。X嵐さんが居ること？まあ、全然大丈夫というか、あれだけ貰つてしまつたし直接感謝を伝えたいから良いんだ。

戦術人形がいるかもしれない？

うん、そうだね。特に【なーおばちゃん】さんは、あの年寄りを自称するハンドガンの人形の可能性が高そうだ。

……しかし、そんなことは気にもならない。

じゃあ何が問題かつて？

いやさあ、明らかに戦術人形、それも、エリート部隊とされてる人っぽいのが居らっしゃると思わしきことが問題かなと。

そう、【+超進化+ツリー】さんである。

このお名前、誰かのセリフを思い出さない？

いやほら、ドルフロでさ、みんな持つてるであろうメインアタッカーのアサルトライフル。

『M4A1カービン』へ、作戦によつて付け替えることの出来る各種装備を容易に装着出来るようにした、アメリカ特殊軍御用達の名銃。

強化する度に超進化♪と楽しげに口にする彼女。

ストーリーで仲間になる、アタツチメント2つという火力特化の特別な装備構成を持つている彼女を……

「あっ、どうもく！初めまして！」

（やつぱりかああああ！！）

部屋に入るなり、いの一一番に話しかけてきた彼女の声は元永遠の17歳さんのそれであり……

うん、そうだね！M4 s o p m o d IIだね。s o p IIとT P S
かあ、死んだなこれ（諦め）

彼女に現実で逢えたことや、今話している事に感動している面は勿論ある。

とはいえ、だ。戦術人形どころか、エリート部隊の中でアタツカーを務める子が参加してきちゃったか。もうダメだ。おしまいだア……。

s o pちゃんが味方側になるのを祈るだけの運ゲーが始まりましたね。でも俺つてくじ運が凄い低いんだよな。

というか、君ゲームやってるんだ。

確かにゲームとか好きそうな性格してるけど……

絶対マリカしてる時に体ごと揺らすタイプだよね。

s o pは可愛いですね。（現実逃避）

「どうも、初めまして。ツリーさんと呼んでも？」

「もちろん！今日はよろしくね～！」

「はい、よろしくね。あの、可愛らしくて良い声してますけど、良かつたら登録してる音声元のサイトとかお聞きしても？」

「んー？声……あ！声はねー、地声ですよ！お姉ちゃん達も大丈夫

だつて言うし、よく分からなかつたから自分の使つてるの！」

「へえ、地声なんですか。良い声ですね！」

「えへへ、ありがと！」

ワンチヤン別人では…? という一縷の希望すら打ち捨てられた。
無理つすよ、無理無理無理無理!! 心の中のR Dもそう言つている。
彼女がこちらのチームになればこの上なく心強いが…

ピンクチーム

【4 1 0】↑あなた

【犬猫狐】

【X嵐】

【み4】

グリーンチーム

【8 つ 8 (はつぱ)】

【なーおばちゃん】

【いよかん】

【†超進化†ツリー】

俺氏終了のお知らせ。

案の定、敵チームですか、そうですか。おつかれした。g gで
ぐす!! もうマヂ無理、放送切ろ……

とりあえず、死んだ時のリアクションを予め考えとこうか。下手す
ると1ゲームで15回は死ぬかもしれないし。

この試合で勝ちは投げだな。

相手が悪かつた。しゃーない、切り替えていけ。

あんまり大きなリアクションを取るのもそれはそれで飽きられそうだし、4、5回目からは……

「あ、敵チームになっちゃつたね。まあいつか！楽しいゲームにしようね！」

そう、期待を込めて告げてくる彼女は、こちらへ手を差し出してきた。

……今の考えは、ないよなあ。

彼女は、あくまでも視聴者として見に来たんだ。

戦術人形だつたり、エリート部隊に所属してるのなんて関係ない。俺が楽しませるべき人なんだ。

ただ、視聴者が原作主要キャラで戦闘部隊のエリートってだけ。

s o pちゃんもまた、視聴者のひとりに過ぎない。

だから、この試合では彼女も含めて楽しんでもらえるように、頑張るしかないな。

勝てる可能性は限りなく0に近いだろうが、全力で挑まないとな。はく……自分の未熟が身に染みるね、こりや。

見てくれるどころか、こうして俺の企画に参加までしてくれてる人が居るんだからさ。

その人たちがどういう人でも、俺は楽しませるべきなんだ。

「こちらこそよろしく。楽しいゲームにしましようね。」

その手を、強く握り返した。

「ま、試合が始まつたら手加減しませんよ？」

そう言つて、不敵に見えるだろう笑みを浮かべる。

これでいい。俺が、企画者なのだから。

この試合は、俺が主体で、俺がみんなを楽しませる為のものだ。

視界の隅を負けフラグだと、今の笑顔が良いとか、やつぱり腹

黒っぽいとか、なんやかんやなコメントが流れしていく。

よし、視聴者さんの反応も悪くない。配信者たるもの、初心を忘れるべからず、だな。

デュエルで笑顔を…うつ、頭が

「アハハハ、私も勿論手加減なんてしないよ！お互い頑張ろうね！」

彼女の姿はポリゴン片となつて消えていく。部屋が別れたようだ。

：は？410くんと握手しただと？

：410くんのお手手とか絶対いい匂いするし柔らかいんやろうなあ

▪ 8282

：V R空間でとはいえ、握手とか絶許

：子々孫々まで祝つてやる・20000

：ころころころころころ

：神聖六文字

：ガチ犯罪は…やめようね！

：絶対に許さん。

：特定しますた

：絶対に許さねえドンサウザント!!

：ゆ？る？ざん？!!

：マジかよレジライ最低だな

：なんでそんな事言うんだア？相棒ー!!

：ハツハアー！キヤンプの特攻の対象になつちまつたぜ。嬉しい

なあ、オイ！

：やつぱ顔面土砂崩れさん人氣つすね～

：シャイニングパロは予想外やつた

：シャイニングのエツチな全裸のお兄さんすこ・50000

：お兄さん…？おじいさんでは？

：は？シャイニング見てないの？義務教育で見なかつた？

：あれはどう見てもおじいさんでしょ……
：なんだあ、てめえ

ああ、この世界で握手したらそういう反応になるのか。またひとつ、嫌な事実を認識してしまった。

さて、チーム分けもされたところで、作戦会議の時間だ。
ここは企画者である俺から話し始めた方がいいだろう。

「初めまして。時間が無いので手短にですが、挨拶を。今回は参加してくれてありがとうございます。」

今回の主催者の410です。使う武器はアサルトですね。よろしくお願いします！」

このゲームの武器は何種類もあるが、呼び名が違うだけで概ね前世のイカゲーのそれだと思つていただければ問題ない。

例えば、自分の使うアサルトは、最も基本的な武器である、撃つやつだと思つていただきたい。

「X嵐さん、初めまして。先程の高額なチャットありがとうございました。とはいって、あまり無理はしないでくださいね？」

「はい。こちらこそ初めまして、410くん。貯金には気をつけてるわよ。家計簿もちゃんとつけてますし、今までお金を使う事もあまり無かつたからね。」

あれ、この声つてもしかして……もしかするともしかしちゃう？

節約が好き、貯金が趣味、そんな星5ハンドガンが居たな。名前は確か……P X4ストーム。4種の弾を扱える、ベレッタ社のハンドガン。

あつ（察し）

「そうですか。それなら安心ですね。あーっと、すみませんが、時間もあまり無いので武器の方を……」

「あら、そうね。私はスナイパーよ。後ろは任せてくれていいわ。」

スナイパーは名前で察する通りの遠距離武器である。

チャージすることで一撃必殺の射撃を繰り出すことも出来るが、俺は正直言つて苦手だ。AIM力が足りないんだよな。

「スナイパーですか！僕は使いこなせてないので、尊敬しちゃいます。

頼もしいですね！」

「ふふ、ありがとう。」

「それじゃあ、お次は…」

「あつ、あの、私！私はツインズを使います!!」

「なるほど、犬猫狐さんはツインズですか。前衛はお願ひしますね！カゲーの以下略。前世のイ

「なるほど、犬猫狐さんはツインズですか。前衛はお願ひしますね！あ、そういうえば、なんと呼べばいいでしょうか？」

「呼びづらいですか…………？じやあ、G41って呼んでください！」

「へ？」

「G41です!!」

「え、G41って、あのG41？」

：あ ほ く さ・66666

：あかねくん!?どうしてここに…まさか自力で脱出を…?

：コンプラ違反

：名前変えてる意味無くて草

：銃の名前…あつ、ふーん（察し）

：G41ってなんだ？

：何かのコードネームとか？

：おいおいおい、こいつのセキュリティガバガバじやねえか！

：（ガバガバじや）いかんのか？

：いかんでしょ

：え、普通に大丈夫なの？これ。

：G 4 1は高価とはいえ一体しかいないわけじゃないからどの個体
なのがは特定はできないし、大丈夫なんとちやう？

：I. O. Pはわざわざ戦闘用の人形に感情載つけるような企業だ
し、そこら辺は自由なんじやねーの？

：まあだろうな。自由にさせたくないなら感情なんて載せなければ
いいだけだし……

：それもそうか

：どういうことだ……？

：説明しろ苗樹!!

：わけがわからぬよ

：ミリオタくんコメント速いつすね。普通G 4 1なんて知らんで
しょ

：一般人の疑問がコメント欄で答えを求めてグルグルしている・50
00

：G 4 1は80年くらい昔にドイツつて国で作られた銃の名前。銃
の名前を名乗るつてことはつまり……まあ、そういう事でしょ。

：H & amp; K G 4 1は、1980年代にドイツのH & amp;
K社によつて開発された5・56mm口径のアサルトライフルであ
る。値段が非常に高額（アメリカで1,700ドル）であることで知
られ、本国のドイツ連邦軍からも採用されなかつた経緯がある（当の
ドイツ連邦軍はH & amp; K G 3 6を採用し〜・10000
：限界文字数までw i k i 張り付けたうえに強調するのやめる。通
報すつぞ

：はえ〜、410くんのリアクション明らかに戦術人形つて分かつ
てるリアクションで草

：410くんミリオタなん！？

：一般男性はG 4 1つて言われて、【あの】なんて言わないでしょ
：つてことは、T P Sに戦闘のプロが来たつてことか？

：勝つたな風呂入つてくる

：俺と一緒に入らん？

：ウホツ!!いい女：

：すみませんが、レズ以外は帰つてくれませんか？

俺もコメント欄も混乱していたが、声と話しかからして、彼女が優秀な星5A RであるG41なのを疑う余地はない。まさか自分から名乗るなんて……。

まあ、となると、だ。

こつちのチームもなかなか強そうである。

実際にあの白スク水装備なんだろうか。あれちょっとエツチすぎるとから見てみた……いやいや、今はとりあえず話を進めないと。

「あー、その名前はちょっとまずくないですか？大丈夫ですか？」
「？まずい？何がですか？」

「その、名前を出しちゃうと危なくないですか？特定とかされるかもされませんし、企業の規定にひつかかっちゃつたりとかするんじや？」

「う、うーん…………大丈夫ですよ！私がどのG41か分からぬですしおだから、名前で呼んでください！」

：人形なら身バレせずに名前を言つて貰えるのか（驚愕）
：410くんに名前を呼んでもらえるなんて卑怯だぞ！！
：ズルいぞガラクタ。人間の仕事を返せ。
：おつ、人権保護団体くんじやん。最近見ないけど元気してた？
：申し訳ないがコメントで論争はNG
：人形自体に思うところはないけど410くんに本名呼ばれるのは妬ましい……・3000
：分かりみの化身、ギシャス
：ぱるぱるぱるぱる
：バルス!!

：好きな人のためなら死にまくつても諦めないバルスちゃんすこ、
もつと曇つて？

：目が、目がぐぐ!!
：酷いジエネギヤを見た…

「ええ、まあ……大丈夫と言うなら、そう呼ばせてもらいますね。よろしく、G 4 1。」

「はい、頑張りますね！『主人様!!』

「『、ご主人様？どうしてそんな呼び方を？』

（うおつ!? まじでその呼び方してるんだ。いきなりされるとビックリするな。）

「あ、ごめんなさい、シドーさん。つい、呼んじやいました……」

彼女は、そういうと目に見えて落ち込んでしまった。心做しか、しょぼくれた頭にあの特徴的なケモ耳がついてるような気がする。

「いやいや、うつかりなら仕方ないですよ。そう落ち込まないでくださいね。」

何故か、俺は、つい、手を、彼女の下がった頭に伸ばしてしまった。

「？」

見上げてきた彼女と目線があつた時、自分が何をしたかを理解してしまった。いきなり初対面の人の頭を撫でるのはやばい。

してから言うのもなんだが、俺はこんな人間だつたろうか？

記憶が無くとも、自分への違和感を感じる。

そこまで、距離感が分からぬ人間じやないだろうに！

「本当にごめんなさい。いきなり初対面の男に触られたら嫌ですよ

ね。」「いえいえ！ むしろ、ありがとうございます!!」

「え、えっと？ そうですか？ G4-1が嫌じやないならいいんだけど……」

「むしろ、もつとお願ひします！」主人様！」

「え、あー、はい。じゃ、じゃあ失礼して……」

そういう流れで、撫で続けることになった。VR空間で延々と（リアルでは）白スク金髪幼女を撫で続ける不審者の図である。

彼女はアバター越しでも分かるほど幸せそうで、頭をこちらの手へと押し付けてきたのだが……

：私たちは何を見せつけられているんだ??
：何万払えばあのポジションにつける？

：教えてくれ、G○○g1e！

：私も反人形活動しようかな

：私怨たつぶりで草

：殺意の波動を巻き散らかしそうになつたわ・5000

：彼氏はキリトに似ている

：気がついたら人形がガラクタになつて散乱してそう

：辺り一面に人形だつたものが転がる……

：アマゾンツ!!

：人形とか私がガチになれば一撃だわ、今度壊しに行くからな〜？

：犯罪予告やんけ！通報したろ！（110ポチー）

まあ、コメントは荒れますよね。それはそうだ。

……とりあえず、話を進めよう。

やめ時が分からないので手は動かしたまま、咳払いを1つ入れる。

「それじゃ、最後は【み4】さん。お願ひしますね。」

「はい……。えっと、みよつて呼んでください。使う武器はアサルトです。よろしくお願ひ、します……。」

「…………。」

「あ、あの？大丈夫ですか？」

「…………。」

「え、えつ？その、どうか…しました？」

「…………。」

：410くんどうした

：微動だにしなくなつたの、不覚にも草
うちはM：手だけは撫で続けるの面白
www・500

：そのポジション代われG41

：放送事故か？

：410くん大丈夫？

：何かあつた？

：まさか倒れたとか…

：薬でも盛られた？

：サーっ（例の効果音）

：そんなこと言つてる場合じゃないだろ、T P O 弁えろ
：本人の意識が無くなつたりしたらアバターごと消えるはずだか
ら、通信障害とかか？

：手が動いてるからそれもないだろ
：マジで手以外動いてねえ笑

みよさんの声が予想外過ぎて、思考が久々に停止してしまつた。
有り得るのか、こんなことが？

何故、俺の配信を見てるんだ？
配信とか見るタイプなのか？

まさか、いま、彼女と実際に話してゐるのか？
頭の中を疑念が埋めつくしてゐた。

そう、この声。

何度も何度も、アプリで聞いた声。
聞き間違えるはずも無い。

だつて、2人しかいない誓約相手の片方だからだ。ドルフロを始め
たきつかけ自体は45姉だが、続けるモチベーションとなつたのは、
彼女。

その声を聞き間違える事はないだろう。

それは―――

ドルフロの主人公である、M4A1

その声だつたからだ。

… sopちゃんが居たもんな。確かに姉妹であるM4が居るのもおかしくはないだろうが、だろうが！

こんな所で会うというか、会えることをまず想定していなかつた。主人公だけあつてあんな特殊な背景を背負つたM4と、しがない一般記憶喪失異世界人の俺が接点を持つはずがないと思つていからだ。だが、ここでまさか会つてしまうとは……やっぱり、声だけでもめちゃくちゃ可愛いな。

45姉もそうだが、やつぱり誓約するほどの推しキャラに会つた時の衝撃はかなりのものがある。

45姉の方は…本人か怪しいところはあるものの、M4A1という人形は彼女一人しか居ないため、絶対に主人公であるM4その人のはずだ。

まさか実況で出会つてしまふなんて……。せつかくの機会だし、親睦を深めたいと思うのはいけないことだろうか？

配信を見に来てくれるつてことは、俺にネガティブなイメージを持つてるわけでもないだろうし。

ま、とりあえずはこの空気感をどうにかしないと。

M4ちゃんが泣きそうになつてるからな！

どうやつて雰囲気を変えるかだが…………ま、あの事を言うのが1

番手つ取り早いか。それっぽい理屈でもあるし。

「あの…何か、気に、触ること…とか……」

「ごめん、ちょっと考え事してました。あの、もしかして俺達って会つたことありませんか!?」

「えつ？」

「みよさんの声に、なんか聞き覚えがあつて。それが凄いひつかつかつちやつたんですよね。」

「は、はい……?」

「やー、実はここだけの話。俺つて一時期の記憶がないんですよ。」

「えつ？」

「だから、もしかしたら知り合いだつたりしないかなー。なんて?」

……
唐突な逆ナンが始まつたと思つたらイケメン生主が記憶喪失だと
言い始めた。何を言つてるか分からねえと思うが、私も何を言つてる
か分からねえ……

…きおくそうしつ t

…記憶喪失?

…記憶喪失イケメン生主???

…その時期に出会えれば……・ 12000

…記憶喪失のイケメンに恋人刷り込みする漫画すここここつ!!

…ちょっとデコりすぎちやう?

…キヤラの荷重搭載だろ

…思いつ、出した!

…綴る!!!

…キヤラ付けとかじやなくマジで?

…なんだその設定…

…さすがに嘘だろ笑笑

…記憶喪失とか、ラノベじやないんですから・ 300000

：上条さんか何か？

：記憶喪失といやあ、ダイ大ゲーム化おめでとう

：410くんの一人称に俺が出る時つてだいたい素が出ててテンショ
ン高い時だし、多分ほんとでしょ・99999

：専門家の意見は流石だな

：サラツとMAX投じて草生える

：410くん考察スレがそろそろPart30超えるつて聞いたわ

：謎多きイケメンだから、仕方ないね

：いくら謎が多くても記憶喪失は積みすぎだろ

：まだ舞える

：剣舞積み積みつきゅ

：ダイジエット絶許勢

：積みつつ殴るのほんとやめろ

：考察勢に新たな火種が投じられてしまつたのか：

「え、あの……すみません。男の人とは：初対面、です。」

「なるほど、ありがとうございます。ま、そういう事なので、みよさんが何かしたとかじゃないですよ。勘違いさせてごめんね？」

「い、いえ……」

「むしろ、ありがとうござります。」

「え？」

「ほら、最初にスペチャ投げてくれましたよね？それだけ応援してくれて、こうして企画に参加もしてくれて、ありがとうございます。」

「はい……こちらこそ、いつも楽しく動画を見せてもらつてます。ありがとうございました。」

「いやいや、こちらこそ……つてやると、キリがなさそうですね。

あー、時間を取つてすみません。あまり相手さんを待たせるのも良くないですし、始めましょうか。」

「そうね～。そろそろ始めましょう。お姉さん、張り切つちゃうわよ！」

「頑張りましょー！シドーさん！」

「あ、えつと。よろしく、お願ひします……。」

そんなこんなでゲーム開始となつた訳だが、開始のブザーから僅か10秒後。

——俺の頭に、風穴が空いた。